

第1次

はちじょうHEARTプラン

(八丈町地域福祉計画)

平成30年度～平成34年度

平成30年3月

八 丈 町

は じ め に

近年、社会情勢の変化、人の価値観や考え方、ライフスタイルの多様化などにより、地域の役割が希薄になっていますが、急速な少子高齢化が進む中、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていくためには、地域の皆様が、お互いに支え助けあうという心構えが大切です。

大災害が危惧される中で、いざという時に地域が一つになり、お互いが助け合うためには、普段の生活における住民同士の交流が大切であり、お互いを支えあうような心を持てるまちづくりを住民が主体となり担っていく事が、これからの地域づくりを進めていくうえで、とても重要であると思っております。

また、地域福祉の向上には、子どもから高齢者まで、支援を必要としている人を見落とすことなく、地域の皆様、社会福祉協議会、福祉関係機関、行政などが連携し、協働による支えあいや助けあいができる関係を築くことが不可欠です。

このような現状を踏まえ、このたび「第1次はちじょうHEARTプラン（八丈町地域福祉計画）」を策定いたしました。今後、この計画に基づき、地域福祉を一層推進し「ふれあいのある安心で住みやすいまちづくり」に取り組んでまいりたいと考えておりますので、住民の皆様、関係機関の皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたりまして、貴重なご意見やご提案をいただきました「八丈町地域福祉計画策定委員会」委員の皆様、アンケート調査や住民懇談会、パブリックコメント等にご協力いただきました多くの住民の皆様、関係機関の皆様に心より感謝申し上げます。

平成30年3月

八丈町長 山下 奉 也

ハート

「はちじょうHEARTプラン」の名称について

「八丈町地域福祉計画」が住民の皆さんに親しみのある計画になるように「はちじょうHEARTプラン」という名前をつけました。

「HEART（ハート）」は「心」「愛情」「勇気」などを意味する言葉です。ふれあいのある安心で住みやすいまちづくりを、住民が主役となって進めていくためには多くの住民の「心」「愛情」「勇気」が大切という意味が込められています。そして、「HEART」の一文字一文字は、この計画を進めるための5つのキーワード（「挨拶から始めよう！」「楽しもう！」「行動しよう！」「尊重しよう！」「連携しよう！」）の頭文字としています。

H a l l o（ハロー）・・・挨拶から始めよう！

人と人とのつながりは挨拶から始まります。積極的に挨拶をしましょう。

E n j o y（エンジョイ）・・・活動を楽しもう！

奉仕の精神だけでは続きません。活動そのものを楽しむことも大切にしましょう。

A c t i o n（アクション）・・・出来ることから始めよう！

誰でも何かしら出来ることがあるはずです。難しく考え過ぎずに出来ることから始めましょう。

R e s p e c t（リスペクト）・・・相手も自分も尊重しよう！

支え合い助け合いは、お互いに尊重することが大切です。相手も自分も尊重しましょう。

T o g e t h e r（トゥギャザー）・・・お互いに協力しよう！

ふれあいのある安心で住みやすいまちづくりには、多くの力が必要です。それぞれの持ち味を活かして力を合わせましょう。

目 次

第1章 第1次八丈町地域福祉計画策定にあたり	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置づけ	2
3 計画期間	3
第2章 八丈町の現状	4
1 人口等の動向	4
2 調査等からみる地域福祉に係る現状と課題	10
第3章 計画の基本的な考え方.....	13
1 基本理念	13
2 基本目標	14
3 計画の体系	15
4 地域福祉推進の視点	16
5 地域福祉圏域について	17
6 地域福祉における「担い手」の役割	18
第4章 計画推進に向けた施策展開	19
1 基本目標1 互いに助け合い支え合う人づくり	19
2 基本目標2 地域での支え合いを推進する仕組みづくり	24
3 基本目標3 住民が安心して生活できるまちづくり.....	30
第5章 重点施策について	39
第6章 計画の推進・実行	41
1 計画の周知・啓発	41
2 計画の推進と評価	41
3 社会福祉協議会との連携	41
参考資料	42
1 八丈町地域福祉計画策定委員会	42
2 計画策定経過	44
3 地域福祉計画懇談会、地域福祉計画アンケートについて	45
4 地域福祉計画懇談会での意見	46
5 八丈町地域福祉計画アンケート結果	57

第1章

第1次八丈町地域福祉計画策定にあたり

1 計画策定の趣旨

八丈町は、少子高齢化の進行により、65歳以上の人口割合は39パーセントに達しています。また、全国的にも、ひとり暮らし世帯や高齢者世帯が年々増加しています。

このような世帯の変化の中で、孤独死や認知症により所在がわからないなどといった、高齢者に関わる様ざまな課題が社会的問題となっています。

助け合いの基本は、人と人とのつながりであり、地域住民が助けあいの意識を高め、互いに声を掛けあうことが地域の絆づくりにつながります。

また、誰もが住み慣れた地域で安心していきいきと暮らしていくためには、福祉制度によるサービスだけでなく、地域の絆によって支え合う「共助」の必要性が高まっています。

「地域福祉」とは、地域住民が生活するうえで人のつながりを大切に思い、ともに助け合い支え合う関係性の構築であり、行政は、その活動を支援する側にまわることによって地域住民の自立性を尊重し、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できる体制を整備することが求められています。

住民の方々への浸透には課題がありますが、住み慣れた地域における住民相互の「支え合い」による「地域力」を高めていくことは重要であり、直面する課題に対応しながら、一人ひとりの幸せな暮らしを実現するために、町の地域福祉の方向性と具体化方策を示すものとして、平成30年度から5年間を対象期間とする『第1次はちじょうHEARTプラン（八丈町地域福祉計画）』を策定しました。

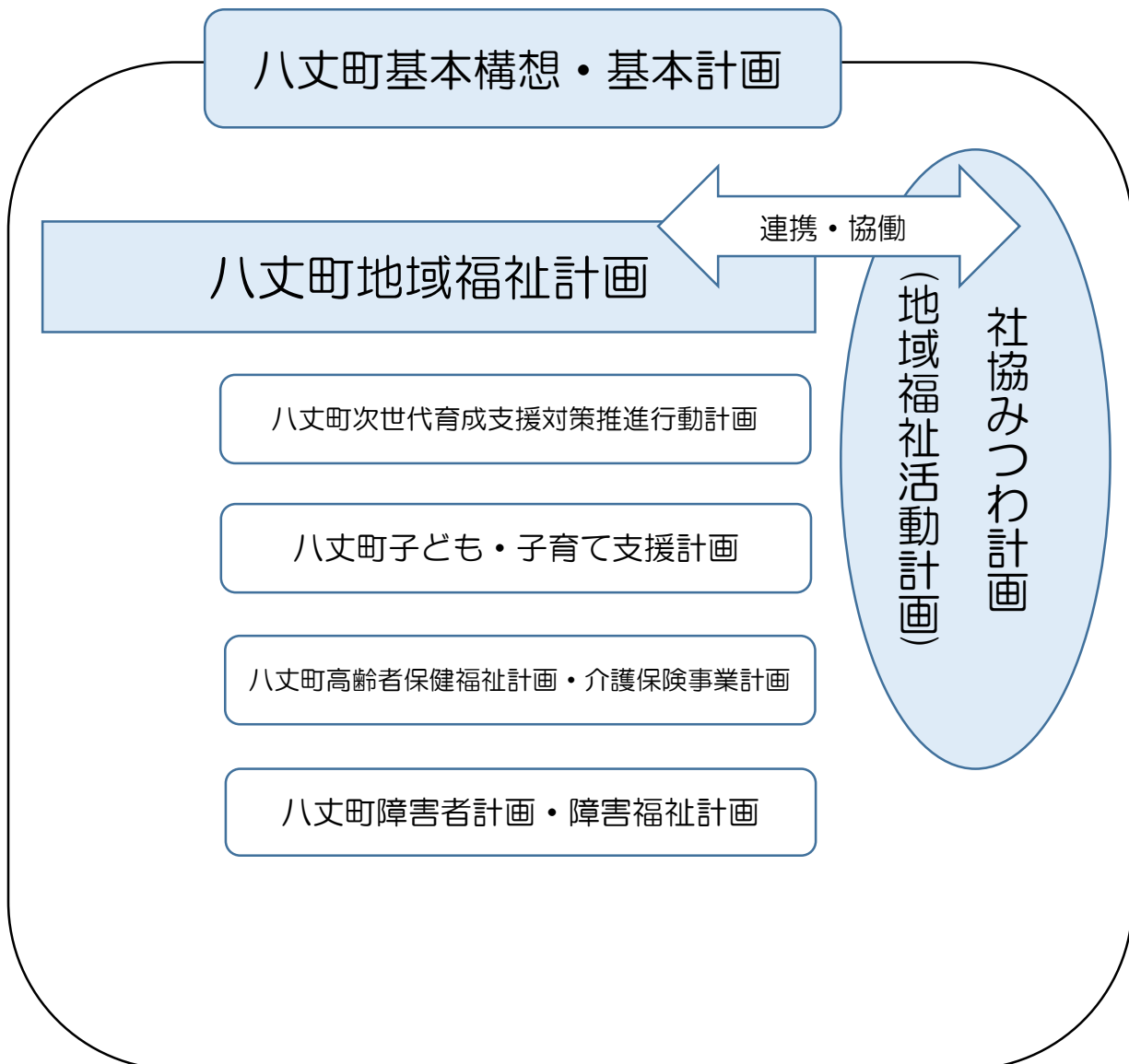


2 計画の位置づけ

(1) 計画の位置づけ

本計画は、社会福祉法第107条の規定に基づく「市町村地域福祉計画」として位置づけられ、地域福祉を推進するための理念や仕組みをつくる福祉分野の総合的、横断的な計画です。

また、同法第4条には「地域住民等は、相互に協力して、地域福祉の推進に努めなければならない」と規定されています。地域福祉を効果的に推進するため、地域住民、関係機関、福祉サービス事業者等と行政が一体となって、「高齢者」「障がい者（児）」「子育て家庭」などの分野ごとの『縦割り』ではなく、地域の様々な生活課題を解決していく仕組みをつくっていくことが求められています。



(2) 八丈町地域福祉計画と地域福祉活動計画との関係

- 地域福祉活動計画とは

社会福祉法の中で、地域福祉の推進を図る中核として位置づけられた社会福祉協議会が定める行動計画です。この計画は、八丈町が策定する地域福祉計画と連携して、地域住民やボランティア、関係団体による自主的な地域活動を推進するための活動計画になります。

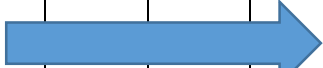
- 地域福祉計画、地域福祉活動計画、両計画の策定について

少子高齢化、核家族化の進行や、生活様式の変化等により、隣近所のつながりが薄れ、地域の住民同士の支え合う関係が弱体化してきています。こうした地域社会で起こる問題を解決し、誰もが安心して生活するためには、公的サービスのみならず、地域住民や行政などの関係機関、事業者等が、互いに助け合い、協働で地域づくりを進める必要があります。

八丈町社会福祉協議会が策定する「みつわ計画（地域福祉活動計画）」は、「八丈町地域福祉計画」の実践計画と位置づけ、相互に連携し計画を遂行していきます。

3 計画期間

本計画の期間は、平成30年度から平成34年度までの5ヶ年とします。なお、計画の進捗状況や社会情勢の変化等に応じて、必要な見直しを行います。

	H23	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
八丈町基本構想									
第1次地域福祉計画									
第3期次世代育成支援対策推進行動計画									
第1次子ども・子育て支援計画									
第7期介護保険事業計画									
第5次障がい者福祉計画									
第2次みつわ計画（社協）									

第2章

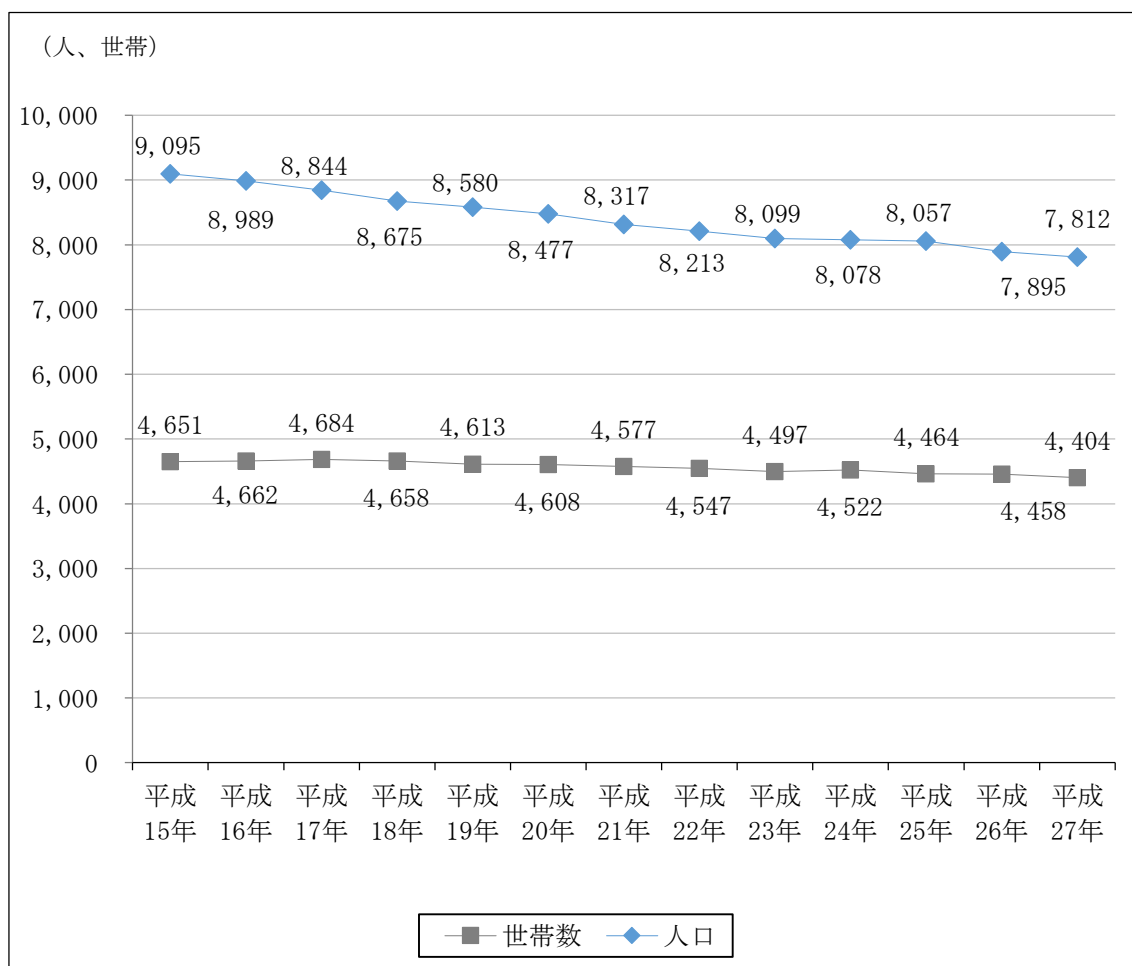
八丈町の現状

1 人口等の動向

(1) 人口・世帯数の推移

住民基本台帳をみると、人口は一貫して減少し、平成27年に7,812人となっています。世帯数は、変動しながらも微減傾向で推移し、平成27年は4,404世帯になっています。

人口・世帯数の推移



住民基本台帳より

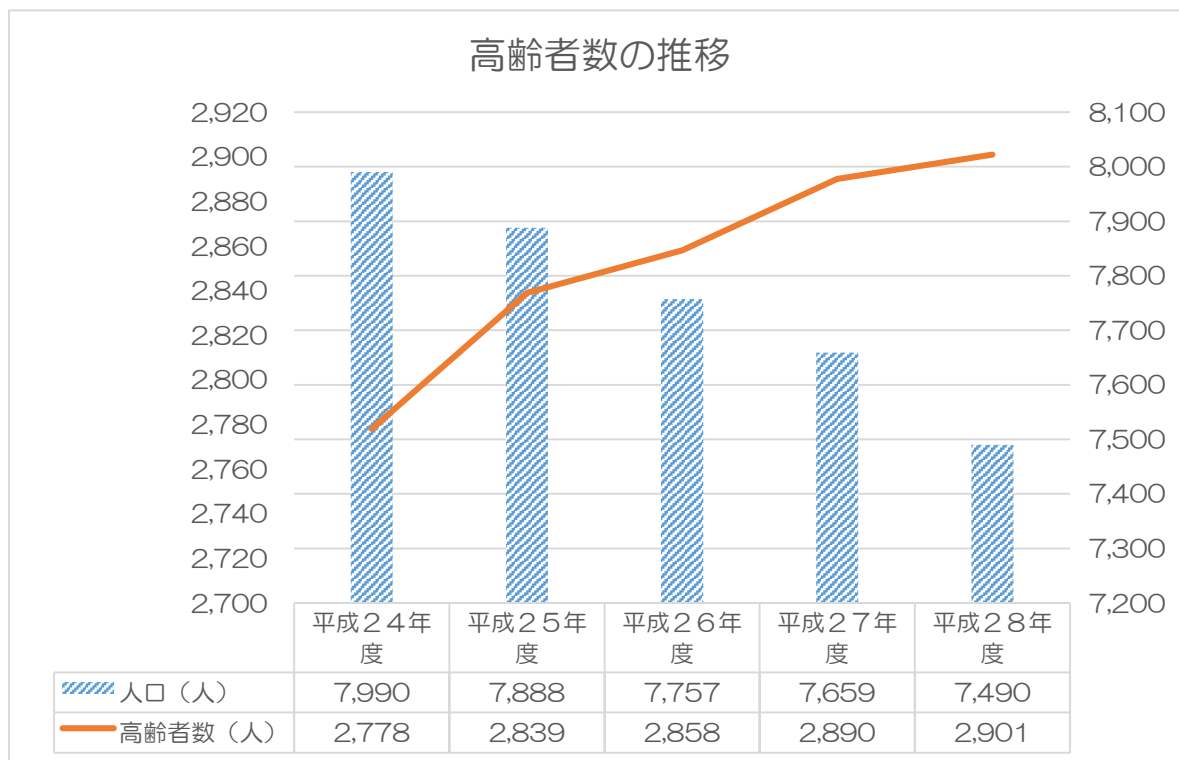
※平成24年の法律改正により、外国人人口が住民基本台帳人口に含まれるようになったため、平成24年までは日本人のみ、平成25年より外国人を含んだ人口となっています。

※八丈町人口ビジョン八丈町まち・ひと・しごと創生総合戦略より

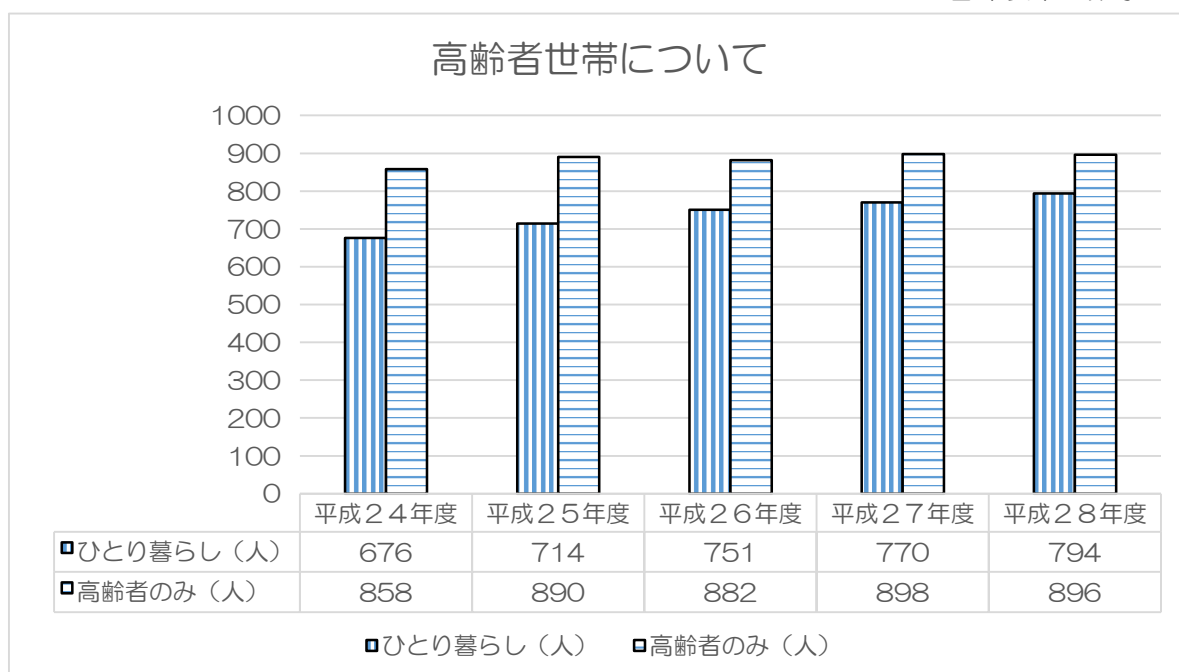
(2) 高齢者数等の推移

65歳以上の高齢者人口の増加により、高齢化率は年々上昇し、平成28年度には38%を超え、住民の3人に1人が高齢者の状況です。

また、高齢者世帯についても、ひとり暮らしの高齢者が年々増加傾向にあります。



※人口は各年度末の数字

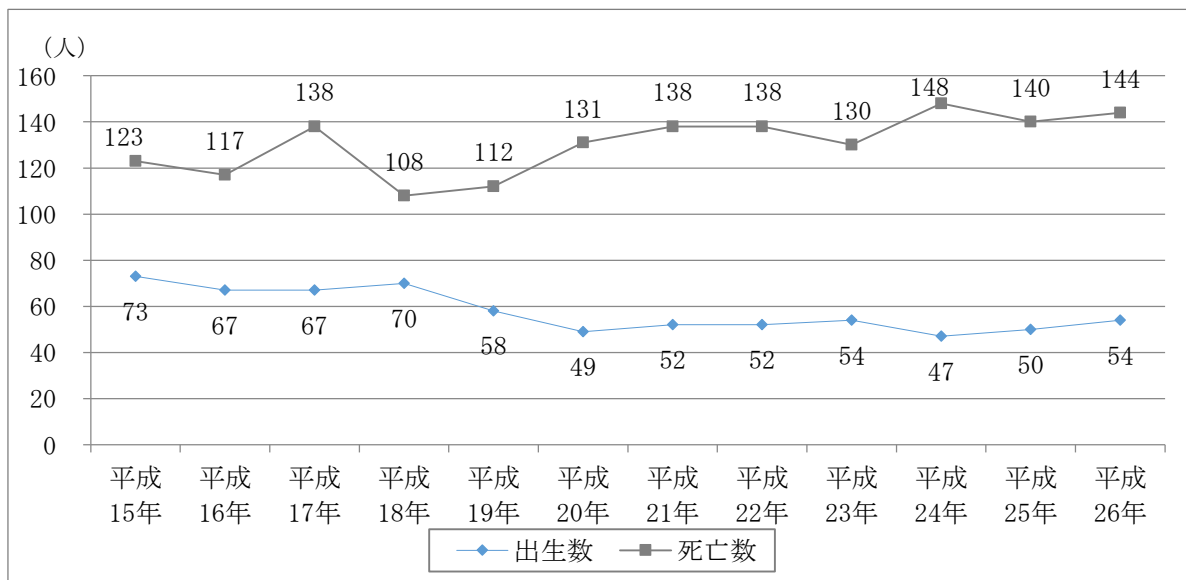


※高齢者実態調査より

(3) 出生・死亡者数の推移

出生数は、平成 20 年以降横ばいで推移しており、平成 26 年は 54 人です。

死亡数は、近年、増減を繰り返しながらも微増傾向で推移し、平成 26 年は 144 人です。死亡数が出生数を上回る“自然減”の状態が続いています。

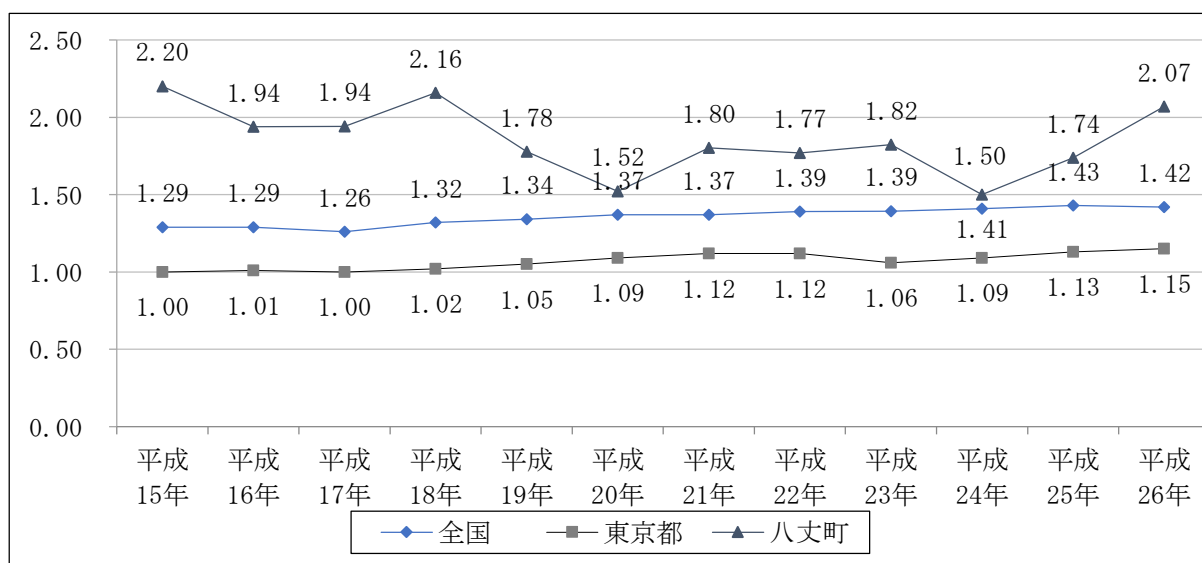


東京都福祉保健局「人口動態統計」

(4) 合計特殊出生率の推移（八丈町-東京都-全国との比較）

平成 26 年の出生率（合計特殊出生率）は、八丈町が 2.07、東京都が 1.15、全国が 1.42 となっており、八丈町は高い水準にあります。平成 16 年以降、国や東京都が増加傾向で推移している一方で、八丈町では増減を繰り返しながら、平成 24 年以降は増加傾向となっています。

(単位：%)

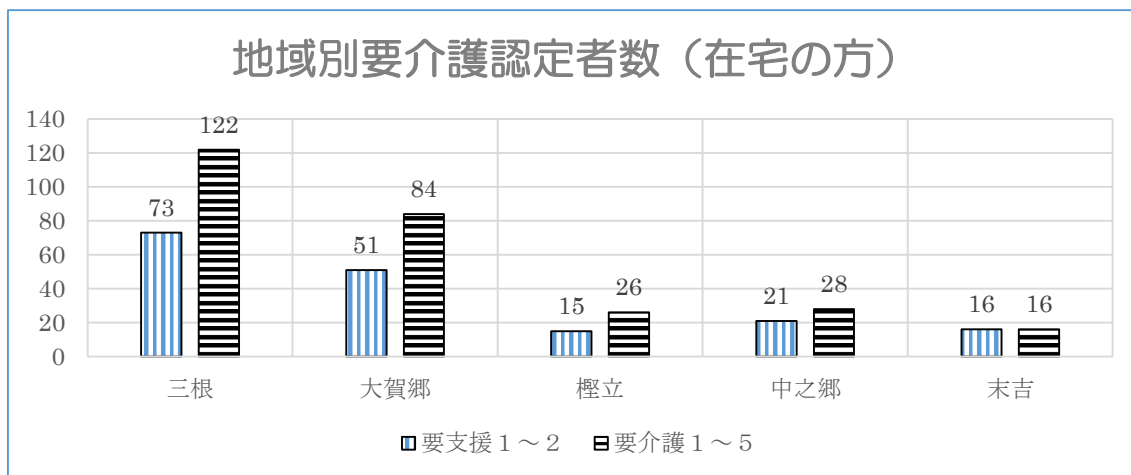


東京都福祉保健局「人口動態統計」

（５）要介護認定者数の状況

介護保険の要介護・要支援認定者数は、平成２９年１１月現在５７１名で、平成２８年度には６００名を超えていましたが減少しています。認定者として、要支援認定者数が微増傾向にあります。

（単位：人）

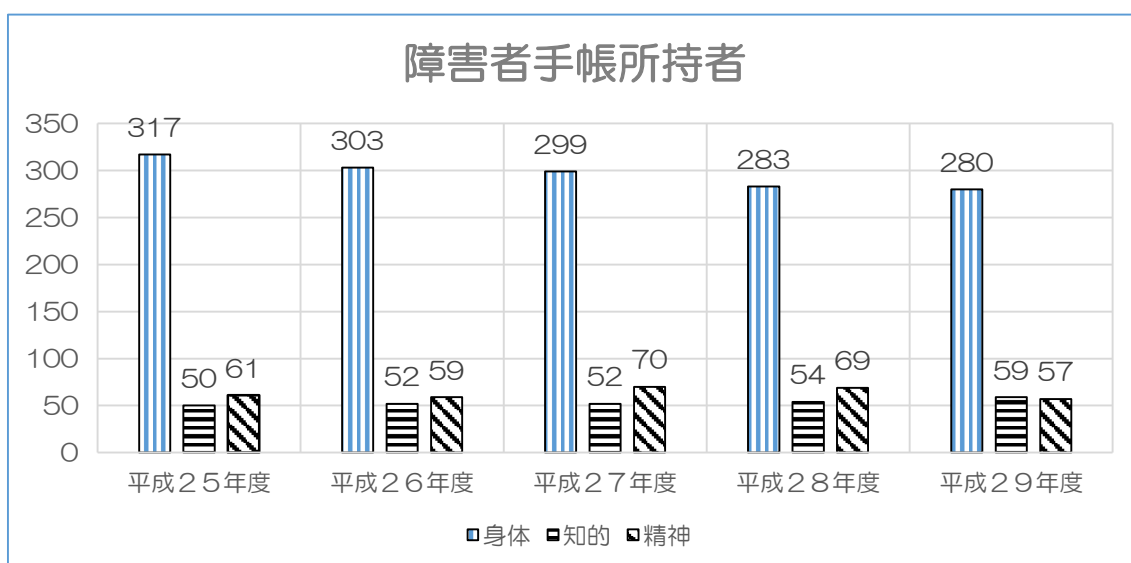


※平成２９年１１月現在

（６）障がい者（児）数の推移

障がい者（児）数は、身体障がい者（児）【身体障害者手帳所持者】が最も多く、総人口に占める割合は平成２９年度で３．７％となっています。知的障がい者（児）【療育手帳所持者】は微増、精神障がい者【精神障害者保健福祉手帳所持者】は、有効期限内に更新に来られない方もいるため実際には人数は減っていない状況です。

（単位：人）

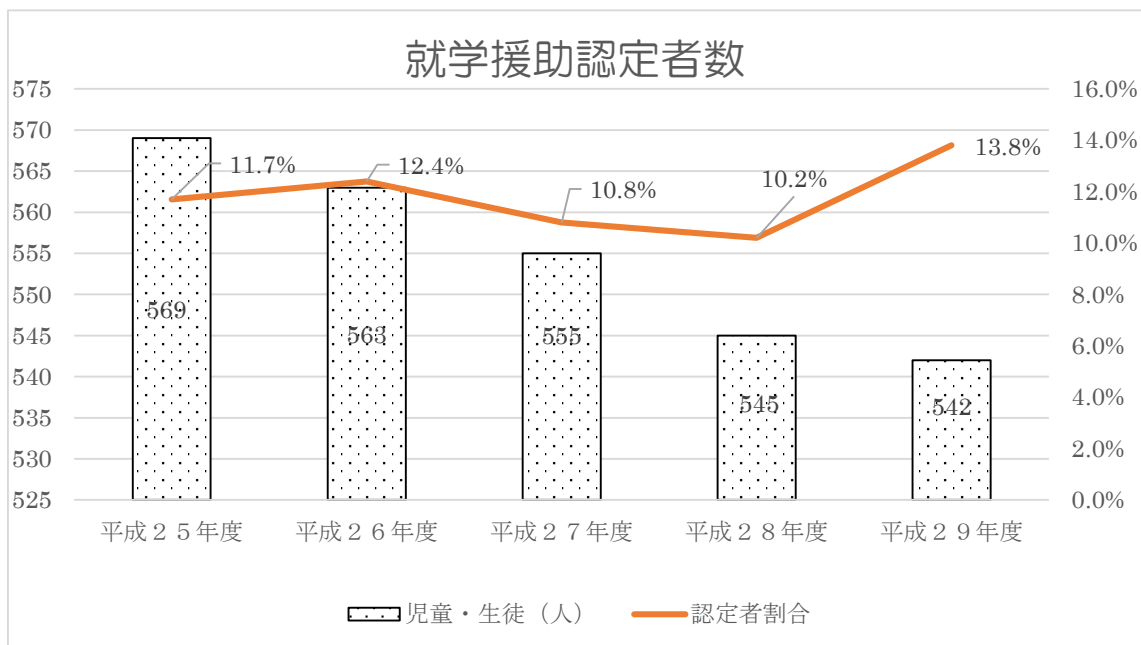


※平成２９年１１月現在

(7) 就学援助認定者数の推移

就学援助認定者数は、この5年間は10%～12%で推移しています。

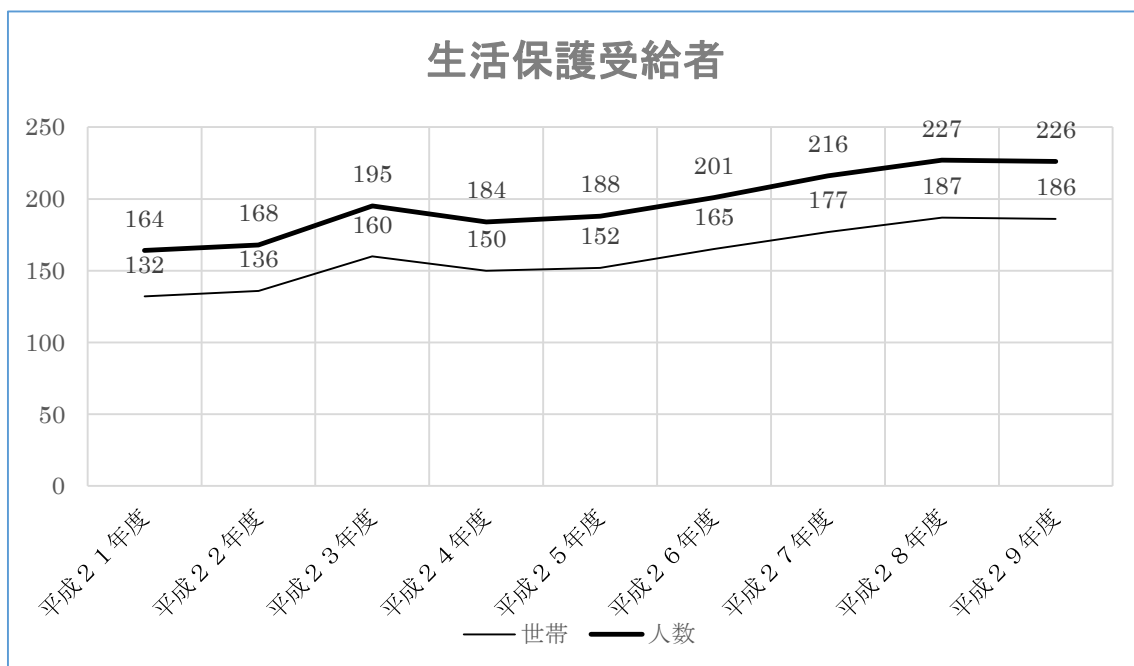
※就学援助とは、経済的理由により給食費や学用品費などの支払いが困難な家庭に対し、就学に必要な経費（給食費・学用品費・修学旅行費など）を援助する制度です。



※平成29年度は見込み

(8) 生活保護受給世帯数の推移

生活保護受給世帯数及び受給人数とも微増傾向にあります。



東京都福祉行政・衛生行政統計

(9) 地域別資源について

事業名等	三 根	大賀郷	檜 立	中之郷	末 吉
介護施設 (特養ホーム)		1			
通所介護施設	1	2	2		
障害者支援施設	2	1			
障害者 グループホーム	2	1			
老人クラブ	6	5	2	4	2
障がい者(児) ボランティア有志	1				
障害者友の会					
自殺予防の 啓蒙啓発活動					
社協サロン	1			1	
末吉地域サロン					1
社協ボランティア 登録者数	66	106	26	10	18

※社協ボランティア登録者数は平成29年10月31日現在のもの

※社協サロンについては、開催している地域

※障害者友の会と自殺予防の啓蒙啓発活動グループの活動拠点となる特定の場所はない

◎社協へのボランティア登録団体 11団体



2 調査等からみる地域福祉に係る現状と課題

本計画の策定にあたっては、住民を対象とした地域福祉に関するアンケート調査と地域懇談会を実施しました。

アンケートは八丈高校生及び無作為で抽出した500名（20代～60代以上の住民の方）及び社会福祉協議会でのサービス利用者等で198名の方から回答をいただきました。懇談会は5地域全てで実施し86名の方に参加いただきました。アンケート及び懇談会での意見から、町の地域福祉に係る現状と課題を整理し、取り組むべき課題を明確にしていきます。

（１）互いに助け合い支え合う人づくり

「地域との関わりについて」

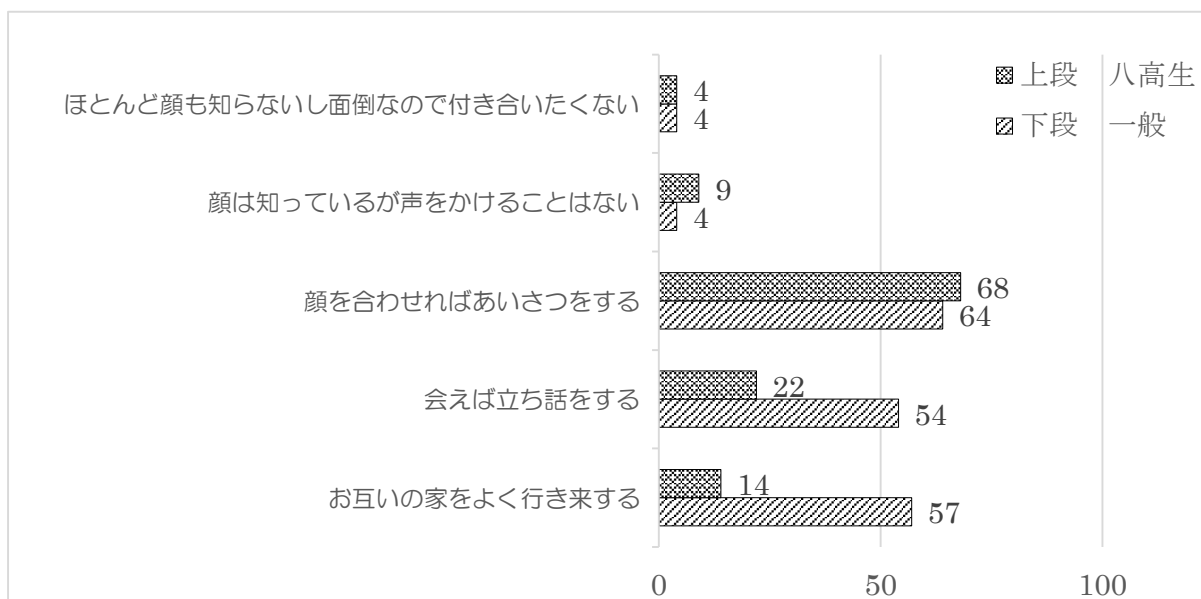
住民アンケート調査から、地域の人との付き合いについて、あいさつをする人の割合が高いことが分かりました。また、地域の何らかの活動に約6割の方が参加しており福祉への関心や近所との付き合いが高いことが分かりました。

地域のつながりの基本である地区・自治会組織を中心とした助け合い、支え合いの関係を強化するとともに、現在の風土を今後も継続していくために、既存の地域資源である公共施設等を活用した地域住民の居場所や活動の場所づくりが大切です。

また、様々な団体と連携して取り組んでいくことも重要と考え、団体間での交流機会の確保や地域福祉活動を推進するため、地域における諸団体間の連携の強化が必要となります。

【あなたは、地域の人々とどのような付き合いをしていますか】

※八丈町地域福祉計画アンケートより（単位：人）



（２）地域での支え合いを推進する仕組みづくり

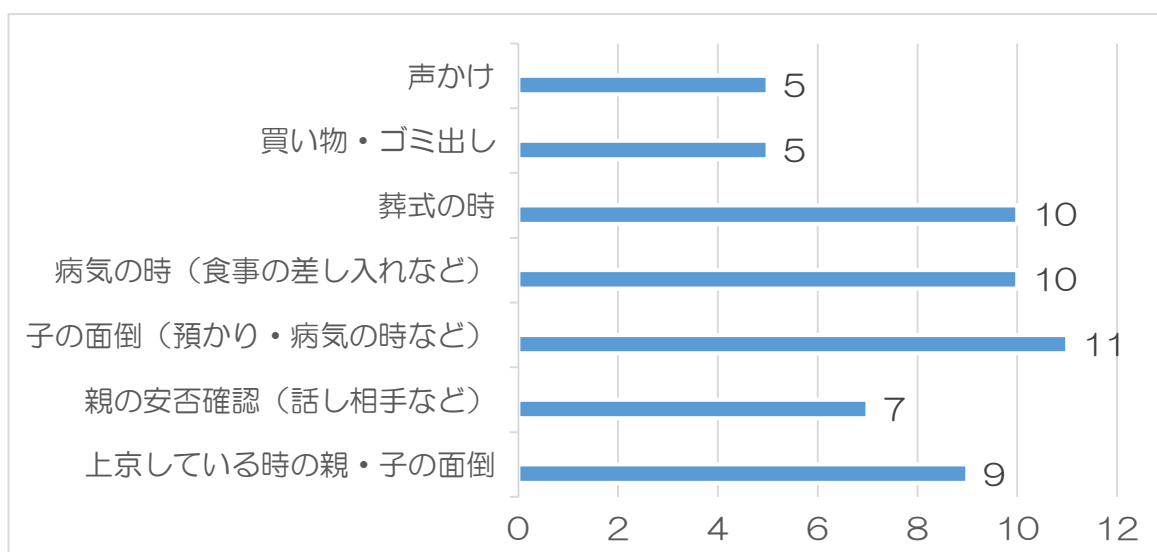
「地域住民として出来ること」

住民アンケート調査では、これまで地域に支えられている（助けられたことがある）と感じていると回答した方が８６名いました。

子どもの頃からの学校や地域での福祉教育に取り組むとともに、各種イベントを実施することで地域住民とのふれあい・交流の機会をつくり、高齢者や障がい者（児）等支援が必要な人に対する認識と理解を深めることが必要です。

【これまでに地域に支えられた（助けられた）と感じた時（主な回答）】

※八丈町地域福祉計画アンケートより（単位：人）



（３）住民が安心して生活できるまちづくり

「災害時に住民が支え合う地域づくり」

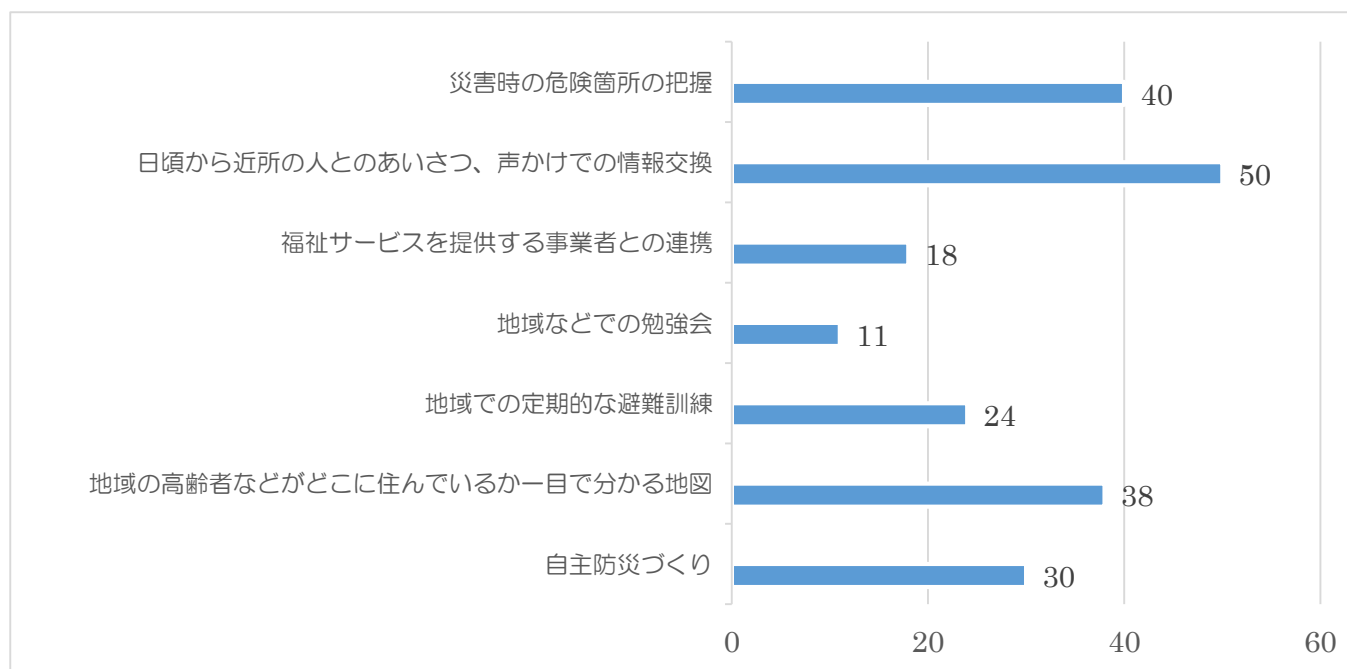
住民アンケート調査から、災害時に住民が支え合う地域づくりに何が必要かの質問で「日頃から近所の人とのあいさつ」が最も高くなっています。大規模自然災害の発生が危惧される中、地域の避難行動要支援者の把握と住民の防災意識の高揚とともに、地域における防災体制を強化していく必要があります。

また、成年後見制度等により、福祉サービス利用者の権利擁護をより一層充実していくことが求められています。



【災害時に住民が支え合う地域づくりに何が必要か】

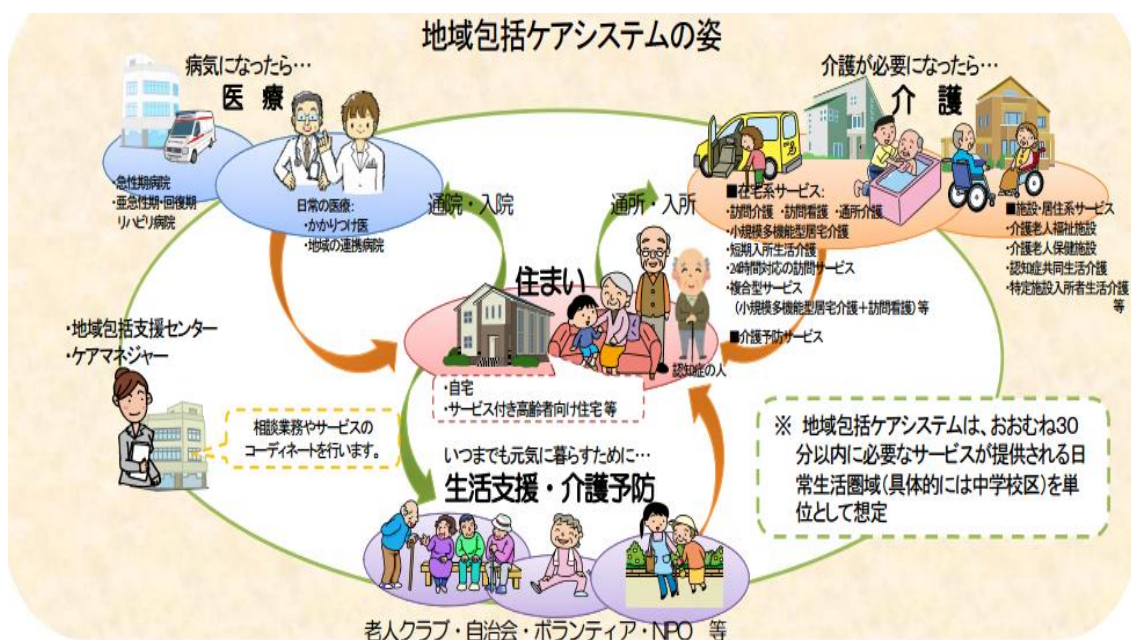
※八丈町地域福祉計画アンケートより（単位：人）



○地域包括ケアシステムとは…

地域包括ケアシステムは、元来、高齢者に限定されたものではなく、障害者や子どもを含む、地域のすべての住民のための仕組みであり、すべての住民の関わりにより実現するものです。

市町村が、地域住民の意識付けや個人の意欲の組織化を施策として積極的に取り組み、社会全体の運動につなげていくことが重要です。



※厚生労働省ホームページより

第3章

計画の基本的な考え方

1 基本理念

ニッポン一億総活躍プランでは、「子供・高齢者・障害者等全ての人々が地域・暮らし・生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現を目指しています。

福祉分野においても「支え手側」と「受けて側」に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる「地域共生社会」を実現させることが必要です。住民アンケート調査で、地域福祉を充実させていくうえで、住民と行政との関係はどうあるべきかの問いに「住民と行政が協力し合い取り組む」との意見が最も多い回答でした。

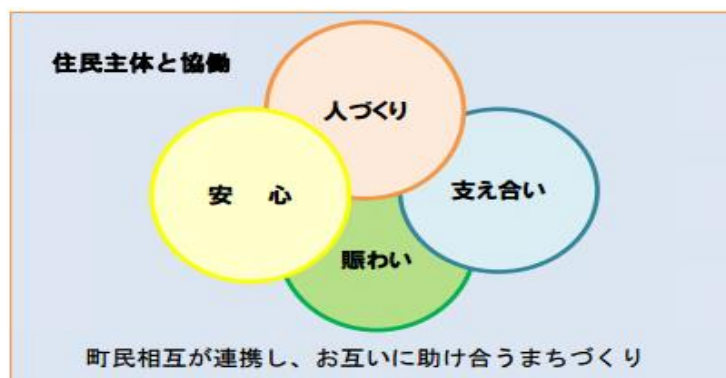
住民アンケート調査では、地域における福祉への関心や近所との付き合いはあるものの、懇談会の中では、地域の行事や地域活動などへ参加者が減っている事や人との関わりは以前より希薄しているとの意見がありました。

八丈の風土や多くの地域資源を活用しながら、子どもから高齢者、障がいの有無を問わず、人と人がふれあい、お互いが理解を深め、ともに支え合うことができる地域づくりをめざします。

基本理念

ふれあいのある安心で住みやすいまち
～みんなが協働して地域福祉を築く～

この基本理念は、八丈町基本構想・基本計画との整合性を図り、地域福祉の推進を展開していきます。



イメージ図

2 基本目標

国の方針と整合を図るとともに、住民アンケートや懇談会での意見や課題を踏まえながら、基本理念の達成に向けて、3つの基本目標を設定しました。

基本目標1 互いに助け合い支え合う人づくり

住民が生きがいをもって社会参加し、地域において支え合う人づくりを進めます。また、地域での支え合い活動をより進めていくために、地域福祉の担い手の育成・支援を行います。

近所の人たちとはあいさつを

通じて顔の見える関係を築き

ましょう！



基本目標2 地域での支え合いを推進する仕組みづくり

地域における様々なニーズに対応するため、支援を必要とする人に対する見守り体制を強化するとともに、地域活動やボランティア活動など、支え合い活動を推進し、みんなで支え、助け合う地域をめざします。

近所で困っている人を見つけ

たら手助けをしよう！



基本目標3 住民が安心して生活できるまちづくり

生活困窮者・高齢者・障がい者（児）・子供を育成する家庭等について、住まいの確保、生活の安定・自立促進・権利擁護に関する取り組みを町・支庁・関係機関が横断的に協議し、地域で自立した暮らしができるよう支援に努めます。また、安心なまちづくりのため、地域の防災体制の強化を進めます。

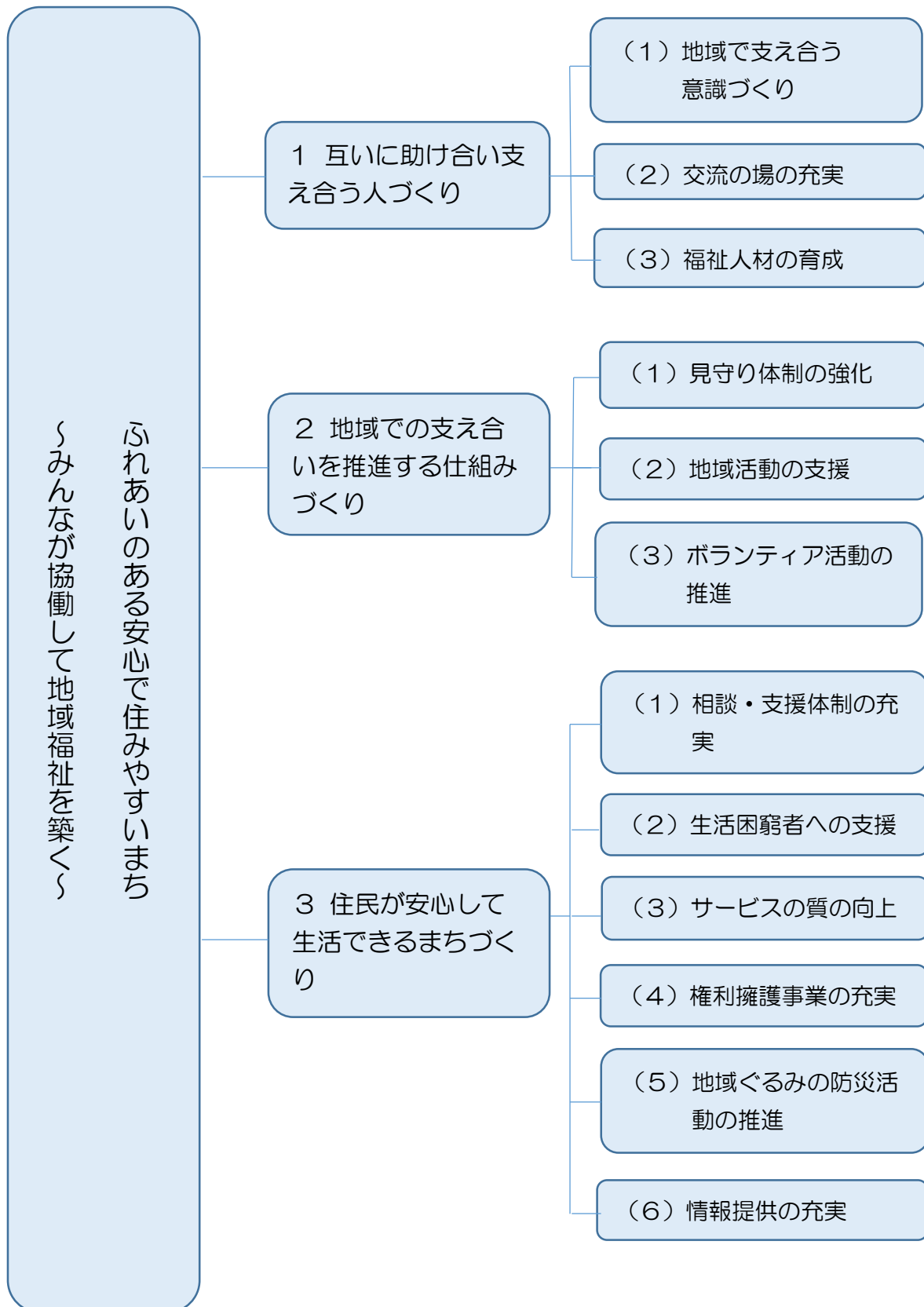
さらに、福祉サービスの分かりやすい情報提供に努めるとともに、身近で気軽に相談できる体制を整備します。

3 計画の体系

基本理念

基本目標

基本施策



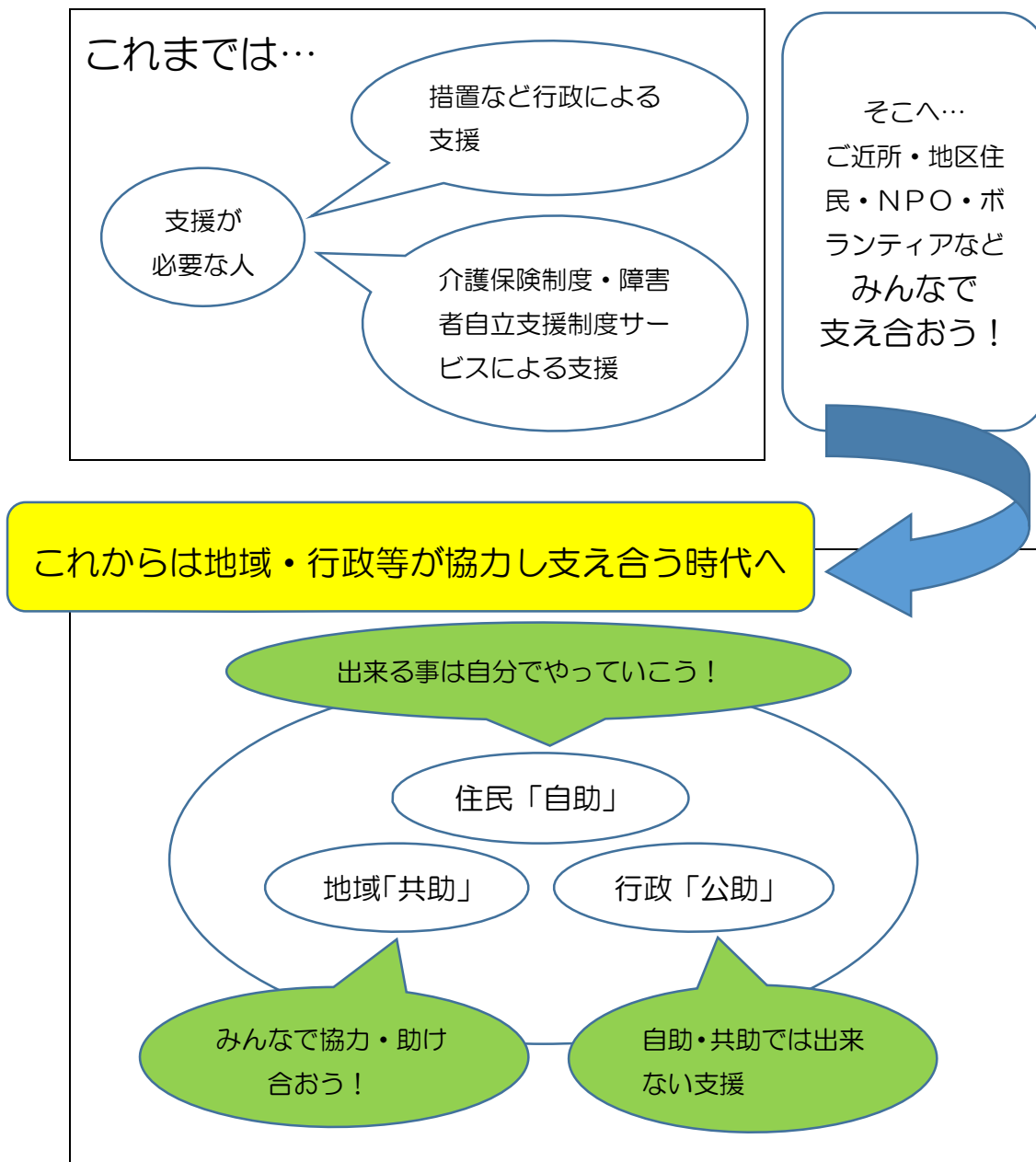
4 地域福祉推進の視点

(1) 自助、共助、公助

地域福祉を推進するためには、住民、地域の各種団体、社会福祉協議会、行政などが、それぞれの役割を果たし、お互いに力を合わせる関係をつくる必要があります。

そのために、まずは自分や家族で出来る事は自分で行う「自助」、自分だけでは解決できないことは地域の中で力を合わせて解決していく「共助」、地域でも解決できないことは行政が公的サービスとして行う「公助」の3つを組み合わせた視点が重要となります。

■「自助」「共助」「公助」の関係図

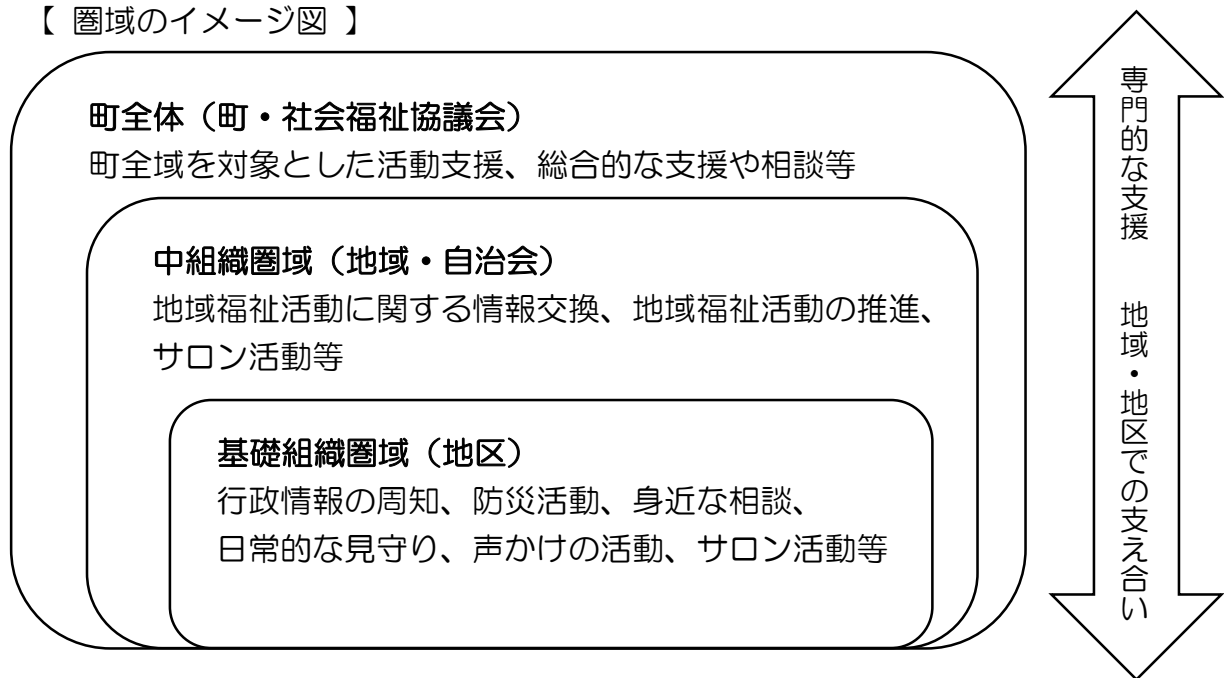


5 地域福祉圏域について

本計画においては、基本理念を具現化するために地域における住民の自主的組織としての最小の活動を「組織圏域（地域・自治会・地区）」として設定します。

このように、重層的な圏域を設定することにより、自助・共助・公助という地域住民や多様な主体がそれぞれに果たす役割を定め、行政・住民協働による地域福祉活動のシステム構築の推進を目指します。

【 圏域のイメージ図 】



6 地域福祉における「担い手」の役割

町における地域福祉の推進に関わる各主体として、行政、関係団体・事業者等及び地域住民ごとの地域福祉の「担い手」として求められている（または、期待されている）役割を以下のとおり整理しました。

① 行政の役割

町では、横断的な組織体制のもと本計画及び関連計画を計画的に推進し、公助の中心的な機関としての役割を果たしていくとともに、地域住民、社会福祉協議会、八丈支庁、専門職等の協働・連携による地域福祉の推進に取り組みます。さらに、計画期間内における計画の検証・評価を行い、個別課題の状況把握に努め、住民ニーズや社会環境の変化に即した計画の進捗管理を行います。

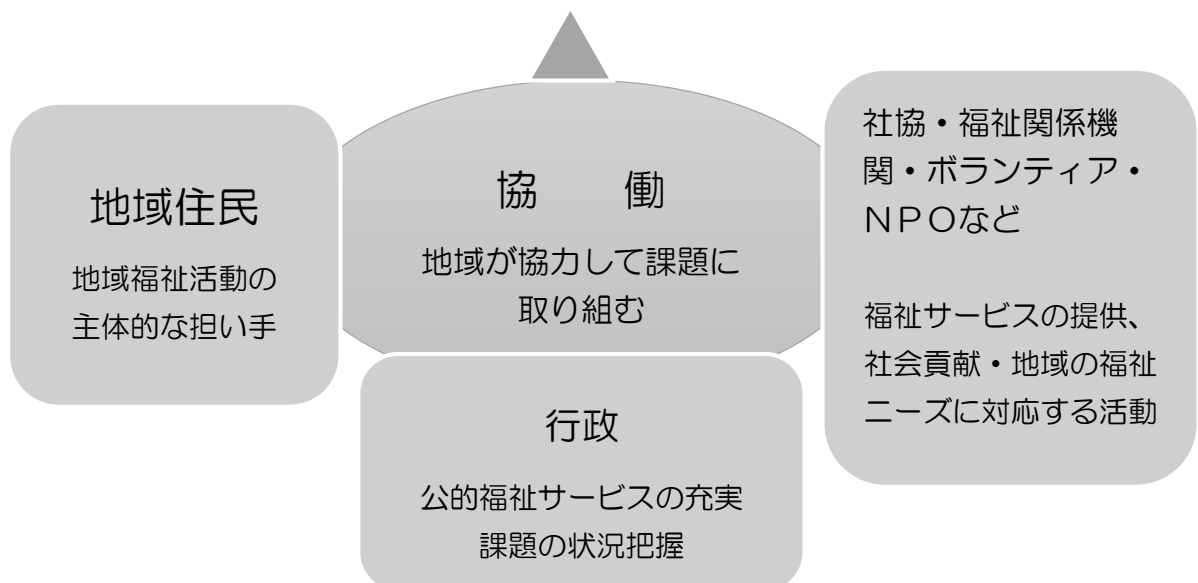
② 関係団体・事業者等の役割

社会福祉協議会、社会福祉法人（施設等）、福祉関係事業者をはじめ、地域課題の解決に取り組むNPO法人や、様々な団体が、行政との連携や相互ネットワークを構築し、福祉課題の解決に取り組むことが期待されています。

③ 地域住民の役割

地域福祉の主人公は地域住民であり、福祉サービスの受け手としてだけでなく、地域福祉の担い手であるという認識を持ち、それぞれの地域の理想を共有して、地域社会を構成する一員として積極的に地域活動に参加し、助け合い・支え合うことが期待されています。

～ふれあいのある安心で住みやすいまち～



第4章

計画推進に向けた施策展開

基本目標1 互いに助け合い支え合う人づくり

(1) 地域で支え合う意識づくり

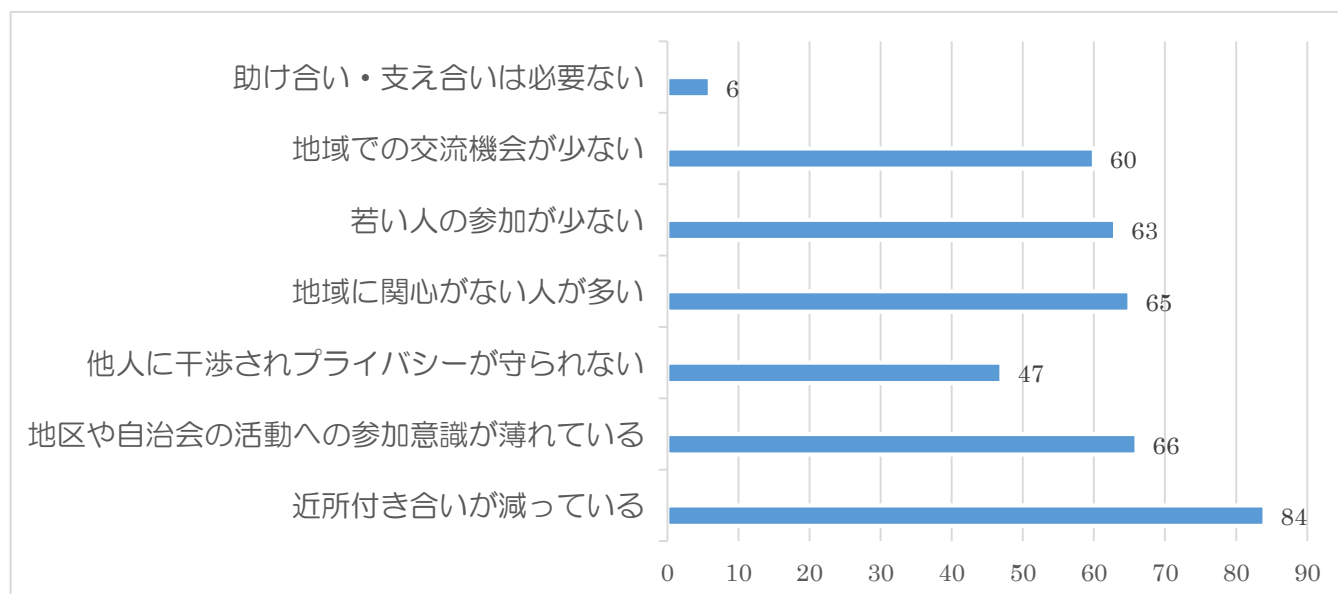
【現状と課題】

少子高齢化が進み、住民の生活様式が多様化する中で、核家族化が進み、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯が増えています。また、地域での交流が少なくなり、地域の暮らしの中で孤立し、不安を感じることも多くなっています。

地域福祉を進めていくうえで、「近所づきあい」「人づきあい」が地域づくりの基礎であり、住民アンケート調査でも、あいさつや、地域での声かけなどの交流が行われている現状はうかがえますが、地域に目を向けない人や近所づきあいを避ける人もみられ、地域活動に参加していない人に対する意識啓発が重要となっています。そのため、活発な助け合い活動を行っている地域の紹介をするなど、地域活動の大切さや活動の始め方などの情報提供を行い、活発な地域活動を広めていく必要があります。

【地域の人々がお互い力を合わせて、住みよい地域社会を実現していくうえで問題となるのは何だと思いますか】

※八丈町地域福祉計画アンケートより（単位：人）



【今後の方向性】

地域での助け合いの意識づくりの基本はあいさつです。あいさつ運動や、地域・自治会をはじめとした地域活動などを通じて地域における助け合いの意識づくりを推進します。

さらに、高齢者、障がい者（児）や子育て家庭等支援が必要な人への理解を深め、お互いを尊重し、地域で助け合える環境づくりを支援します。

施策内容	施策の展開
①地域のつながりづくり	あいさつや声かけ、各地域で行われる行事などを通じて地域住民が互いに顔見知りになることにより、日常的なつながりを持ち、子どもから高齢者まで自然に助け合い、支え合いのできる環境づくりを目指します。
②お互いを尊重し合える環境づくり	お互いを尊重し合うためにはお互いのことをよく知ることが重要です。高齢者や障がい者（児）、子育て家庭等支援を必要とする人を理解するための啓発活動を実施することで、地域での助け合いを支援します。

〔それぞれの役割〕

【期待する地域住民による取り組み】

- ・あいさつや声かけなど、近所づきあいを積極的に行う。
- ・隣近所と物事を気軽に頼めるような信頼関係をつくる。
- ・地域の一員として自らが持つ知識や経験を活用し、地域に貢献する。
- ・地域の一員として地域・自治会活動に参加する。
- ・高齢者、障がい者（児）や子育て家庭等支援が必要な人に対する理解を深める。
- ・身の回りのことから助け合いをするという気持ちを育てていく。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

- ・地域活動に参加する機会が少ない人たちに対し、参加しやすい環境づくりを整備する。
- ・高齢者、障がい者（児）や子育て家庭等支援が必要な人が安心して生活できるよう地域住民による助け合い活動の支援を行う。
- ・高齢者、障がい者（児）や子育て家庭等支援が必要な人への理解を深める機会を提供する。
- ・地域住民による助け合いや支え合いの必要性について、理解を深めるための研修会等を開催する。
- ・福祉について体験や学習する場を積極的に企画する。
- ・福祉学習プログラムを開発する。

【行政の取り組み】

- ・ 支え合い・助け合いによる地域福祉を進めることの重要性などを広報やホームページを通じて啓発する。
- ・ 公共施設を活用し、地域住民同士の活動の場の充実を図る。
- ・ 高齢者、障がい者（児）や子育て家庭等支援が必要な人の理解を深めるための啓発活動や交流機会の充実を図る。



【取組を実施することによる5年後の姿】

- ・ 地域の中で、住民同士が「あいさつ」を通じて顔の見える関係を築いている。

【取組を測る指標】

目標指標	現況	平成34年
・ 地域の人との付き合いとして「あいさつ」以上の付き合いがある人の割合	※1 57%	70%

※1 八丈町地域福祉計画アンケート結果より（八高生を除く）

（２）交流の場の充実

【現状と課題】

地域では、防災、交通安全、健康づくり、生涯学習、スポーツ等、様々な活動が行われています。特に八丈島はスポーツ・文化活動が盛んに行われています。活動内容はそれぞれ異なりますが、活動している団体や個人は重なっていることが少なくありません。このような活動等を通じて、地域の様々な課題を地域住民が共有し知恵を出し合い解決していくことで、新しい地域福祉活動が創造されることもあります。

また、地域では一人暮らしの高齢者の増加、島外から転入してきた方など、地域のつながりが希薄な方もいるため、交流できる場として地域の行事や様々な機会を通して地域住民のふれあいや交流を活発にするなど、地域のつながりを深めていく必要があります。

【今後の方向性】

住民が地域活動や福祉活動に参加するきっかけづくりとして、身近なところから始められる交流活動を支援します。

また、地域行事などのイベントを活用した、世代間交流を推進します。

施策内容	施策の展開
①イベントによる交流の促進	地域の様々な世代の人が楽しんで参加しやすいイベントを企画し、地域住民の交流の機会を広げます。また、地域のイベントや行事を利用して、日ごろ行なっている活動を発表できる機会を設け、地域全体での情報共有を図ります。
②各福祉団体と福祉施設等の連携による交流	行政、福祉団体及び福祉施設等が交流できる機会を作ることにより、それぞれの活動への理解を深め、地域福祉の向上を図ります。

〔それぞれの役割〕

【期待する地域住民による取り組み】

- ・地区単位で交流を促すイベントづくり
- ・町や福祉施設等が開催するイベントへ積極的に参加する。
- ・隣近所で誘い合い、世代間での交流を図っていく。
- ・定年退職した後や子育てが一段落した後など、今まで培った経験を福祉活動に活かしていく。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

- ・福祉施設等において、施設利用者と地域住民が交流できるイベントと機会をつくる。
- ・世代間交流活動やサロン活動等を支援する。
- ・高齢者の優れた特技や経験を、若い人や子どもたちに教えたり見せたり話したりする場をつくる。
- ・地域住民の日常的な関わりの機会が増えるような、気軽に集える拠点づくりを促進する。

【行政の取り組み】

- ・誰もが集えるイベントを開催し、地域住民全体の交流を図る。
- ・高齢者、子育て家庭等を対象としたイベントを開催し、引きこもりがちな人の参加促進とともに同じ悩みを持つ人が集まる機会を提供する。
- ・町や福祉団体等が実施する交流イベントなどについて広報やホームページでPRし、交流イベントに対する支援を充実する。
- ・福祉施設等と交流できる機会を作り、それぞれの活動への理解を深めることで、地域福祉の向上を図る。



【取組を実施することによる5年後の姿】

- ・地域のイベントにおいて、若い人から高齢者、障がい者（児）まで交流の機会が増えている。

【取組を測る指標】

目標指標	現況	平成34年
・多世代交流等のサロン活動	※1 4	20

※1 社協主催高齢者サロン（三根・中之郷）
末吉地域有志によるサロン、檜立地域サロン（年1回）

（3）福祉人材の育成

【現状と課題】

住民アンケート調査では、「日常生活において困ったことが起きた場合、誰もが住みなれた地域で生活していくために必要な手助けは、誰が行うべきか」の問いに、「家族・親族」の回答が最も多い結果でした。他人には迷惑をかけたくないという考えは根強く、地域の関わり合いの希薄化がみられます。

しかし、地域活動を活性化するためには、地域活動のリーダーとなる人材の確保や育成が重要です。そして、地域活動の担い手を育成する上で、子どもの頃からの福祉教育や地域の伝統・歴史・文化に触れることが重要であり、学校教育等における地域での様々な活動への参加体験を通しての意識づけが必要です。

【今後の方向性】

地域住民に対して福祉について学ぶ機会を提供し、また、学校教育における体験学習など福祉教育を推進し、子どもの頃から支え合う意識を育むことにより、地域活動リーダーの育成につなげていきます。

施策内容	施策の展開
①福祉分野の人材の確保	地域福祉に関する講座・学習機会等を提供し、地域福祉に興味をもち、活動する人材の育成・確保に努めます。
②学校における社会奉仕体験活動の充実	小中学校、高等学校が「社会奉仕体験活動」の充実に努め、社会福祉施設等と連携して、社会奉仕体験活動の充実に取り組みます。

【それぞれの役割】

【期待する地域住民による取り組み】

- ・地域福祉活動の人材育成のための講座等へ積極的に参加する。
- ・地域で行われているボランティア活動に参加する。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

- ・学校や地域での福祉教育を支援する。
- ・福祉体験の場として、児童生徒や地域の人を受け入れに協力する。
- ・地域活動の後継者育成や地域活動を活発にするためのリーダー育成。

【行政の取り組み】

- ・地域福祉に関する講座・学習機会等を提供し、地域活動リーダー・ボランティアリーダーの育成を支援する。
- ・学校教育等において福祉教育を推進する。
- ・地域福祉の担い手となり得る団体、NPO、福祉団体等、団体相互の連携を支援する。



【取組を実施することによる5年後の姿】

- ・地域の中で、福祉活動に意欲のある担い手が育ち、様々な分野で活動する人材が増えている。

【取組を測る指標】

目標指標	平成34年まで
・地域活動リーダーやボランティアリーダーの養成講習会の参加者数	30名

※計画期間内に実施

基本目標2 地域での支え合いを推進する仕組みづくり

（1）見守り体制の強化

【現状と課題】

地域での支え合いの基本は、見守りや声かけですが、一方で個人情報保護に対する考え方が問題となっています。また、高齢化の進展に伴い、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯が増加し、地域力の低下により、コミュニティ意識の希薄化が進んでいます。

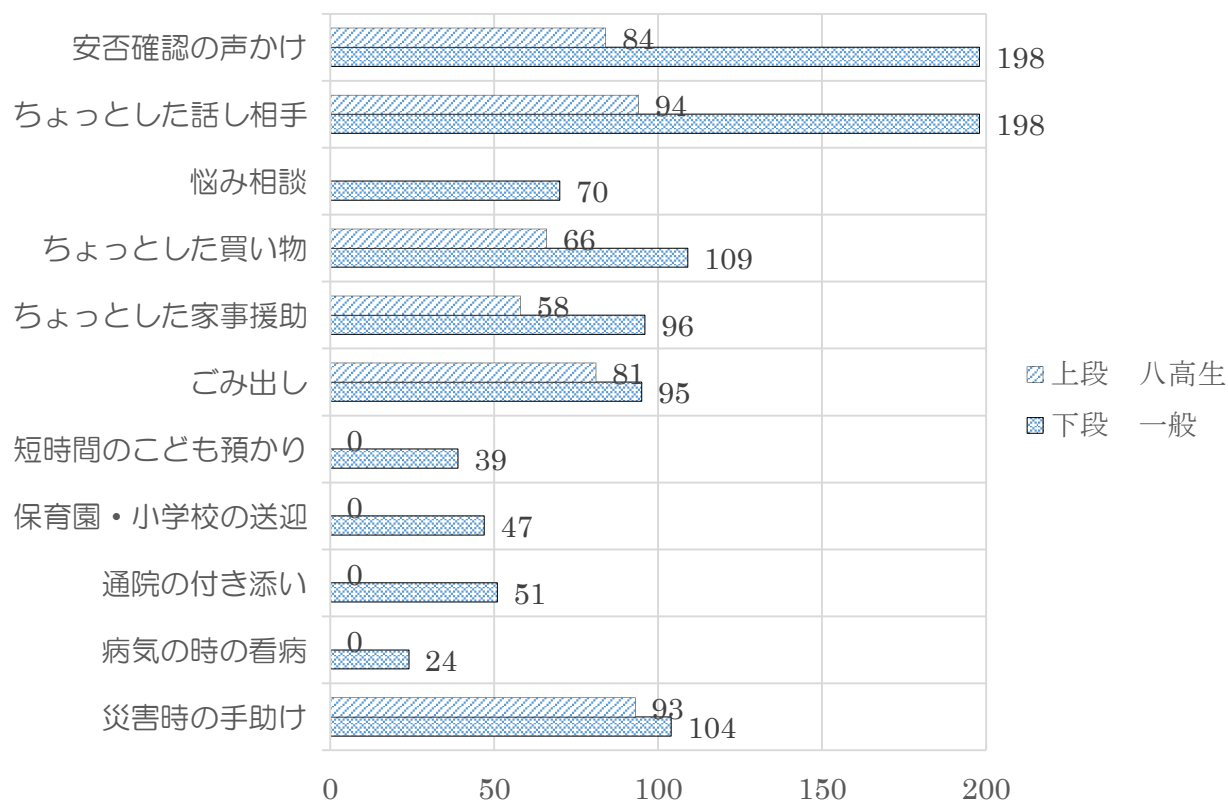
住民アンケート調査では、困っている人に対して、見守りやちょっとした話し相手などをしてあげられると回答した人が多くみられた一方で、地域懇談会では、個人情報保護により、どこまで近所の方に声をかけて良いのか分からないとの意見も多く聞かれました。

地域での支え合いを進めるためには高齢者、障がい者（児）、子育て家庭で支援が必要な人に対する理解を深めることや、日常生活での声かけが重要であり、地域や町が主体となって普及啓発する必要があります。

また、地域住民がお互いを知り、様々な支え合い活動に対する理解を深めるとともに、個人情報の保護について考えることが重要です。

【近所で困っている人がいる場合、あなたができることはありますか】

※八丈町地域福祉計画アンケートより（単位：人）



【今後の方向性】

地域力を活かし、一人暮らしの高齢者、高齢者世帯や障がい者（児）、子育て家庭等をはじめ、日常生活において支援が必要な人を地域で見守り、支え合う地域づくりを推進します。また、認知症高齢者等、潜在化している支援を必要としている人の早期発見に努めます。

施策内容	施策の展開
①地域における見守り体制づくり	地域の福祉団体などによる見守り訪問活動や相談活動が、円滑に実施できるように支援します。

〔それぞれの役割〕

【期待する地域住民による取り組み】

- ・一人暮らしの高齢者、高齢者世帯や障がい者（児）、子育て家庭等支援が必要な人が孤立しないよう普段から心配りをする。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

- ・ネットワークによる見守り活動やサロン活動を充実させ、高齢者、障がい者（児）や子育て家庭等支援が必要な人を見守り、地域の中で孤立しないための体制の強化を図る。
- ・福祉施設、学校、医療機関、相談機関等と地域が協働し、見守り体制の充実を図る。

【行政の取り組み】

・高齢者や障がい者（児）、子育て家庭等支援が必要な人に対する訪問活動や安否確認などを、地域住民や関係機関・福祉団体等が連携してできるよう体制の強化を図る。



【取組を実施することによる5年後の姿】

・地域の中で、見守りや支え合いの関係が築かれ、多世代の人が担い手として関わり、孤立する人が少なくなっている。

【取組を測る指標】

目標指標	平成30年～平成34年
・認知症サポーター養成講座への参加者数	毎年100名

（２）地域活動の支援

【現状と課題】

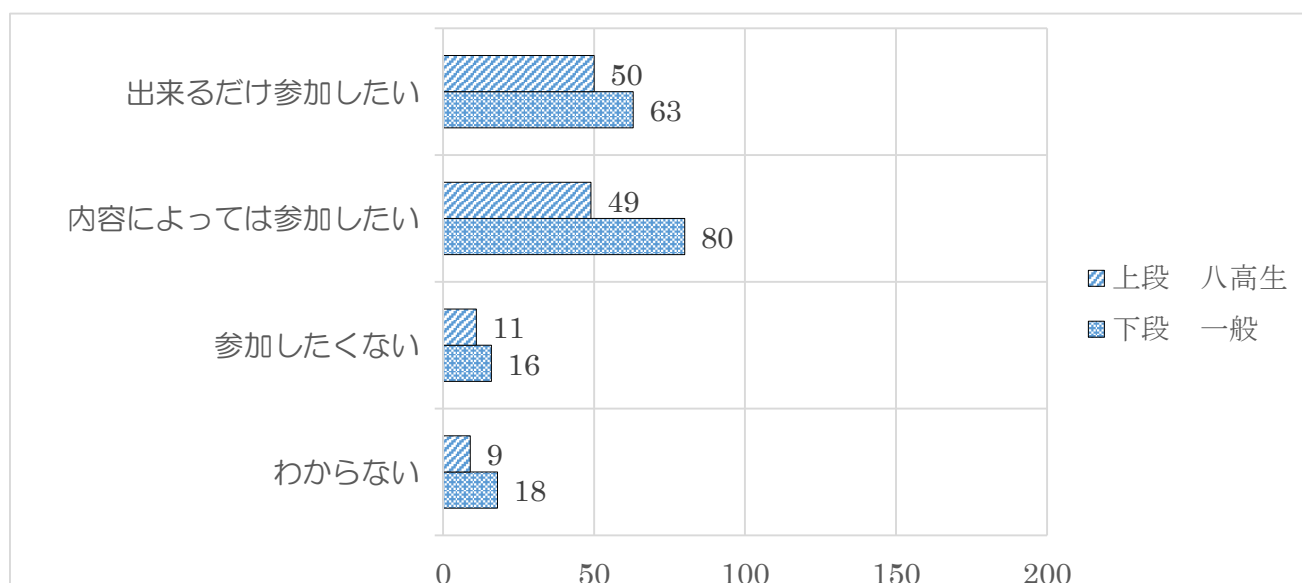
地域の活性化には、町の取り組みだけでは限界があります。そのため、地域住民のマンパワーが発揮される、地域活動が重要になります。

地域住民をはじめ、ボランティア、社会福祉協議会等が地域の支え合いづくりに取り組んでいます。今後、地域住民の地域活動への参加意識を高めるために、地域、町が連携した啓発活動が必要です。

また、地域福祉を担う団体の地域での役割分担や、行政と連携する仕組みを構築する必要があります。

【地域活動への参加依頼が直接あった場合どうしますか】

※八丈町地域福祉計画アンケートより（単位：人）



【今後の方向性】

地域のつながりや地域活動の大切さなどを普及啓発するとともに、住民の参加を促進します。また、地域コミュニティによる支え合い活動を支援します。

さらに、より発展的な地域活動につなげていくために、地域活動に関連する情報提供を積極的に行います。

施策内容	施策の展開
① 地域課題の発見支援	懇談会やワークショップの開催等、地域における福祉課題やニーズを発見し解決するためのきっかけづくりを支援します。

【それぞれの役割】

【期待する地域住民による取り組み】

- ・地域の中で高齢者、障がい者（児）や子育て家庭等支援が必要な人に対して支援を行う。
- ・自分たちが暮らす町は自分たちで良くするという意識をもつ。
- ・地域内のボランティア活動に積極的に参加する。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

- ・地域福祉に関わる関係者・関係団体の活動内容を積極的に広報する。
- ・高齢者や子育て家庭等が、福祉活動に参画できるシステムづくりを行う。
- ・福祉サービスの提供以外にも、地域との交流を積極的に持つよう努める。
- ・地域住民の意見を反映した地域福祉活動を推進していくために、地域住民の声を収集していく仕組みづくりに努める。

【行政の取り組み】

- ・地域での支え合い・助け合い活動を一層推進するため、定期的に地域住民や関係団体等から意見を聞く機会を設ける。
- ・ボランティアなどの地域活動に関する広報を充実する。
- ・地域住民や関係団体等が地域福祉活動に取り組みやすくなるよう様々な支援を充実する。



【取組を実施することによる5年後の姿】

- ・地域で行なわれている活動には、地元の方だけでなく島外からの移住者の方も気軽に一緒になって参加している。

【取組を測る指標】

目標指標	現況	平成34年
・地域活動への参加者数の割合	※1 61%	80%

※1 八丈町地域福祉計画アンケート結果より（八高生を除く）

(3) ボランティア活動の推進

【現状と課題】

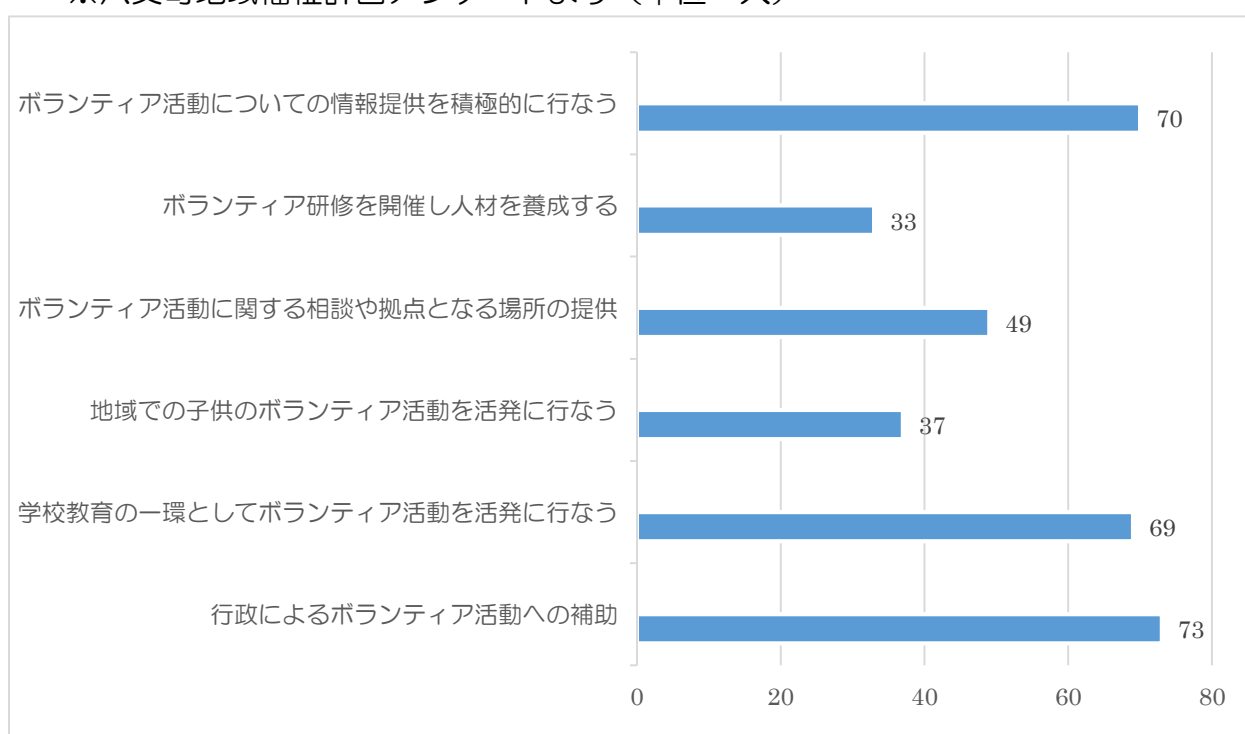
地域懇談会の中でも、買い物、ゴミ出しなどへのボランティアの必要性が話題になりました。

住民アンケート調査では、「ボランティア活動をしたことがある」と答えた人が、198名中90名で、ボランティアに参加したきっかけで最も多かったのが、「人の役に立ちたいから」で38名でした。

潜在的に関心のある方が多くみられますが、活動のきっかけづくりが重要であり、ボランティア活動に対する理解を深めるよう、普及啓発することが必要です。また、支援を必要とする人と支援する人とのお互いの理解が必要であることから、両者をコーディネートする機能の充実が求められています。

【ボランティア活動を進めていくために、どのようなことが必要だと思うか】

※八丈町地域福祉計画アンケートより（単位：人）



施策内容	施策の展開
①ボランティアが活動しやすい仕組みづくり	若年者層や勤労者層等がボランティア活動に参加しやすい条件や環境を整備するとともに、活動団体への支援を充実し、必要な情報提供や助言、コーディネートによりボランティア活動がしやすい仕組みの構築をめざします。

〔それぞれの役割〕

【期待する地域住民による取り組み】

- ・高齢者、障がい者（児）や子育て家庭等支援が必要な人に対し、できることを考えて実行する。
- ・町やボランティアグループが開催するボランティア講座等に参加する。
- ・ボランティアグループ等との交流を通じ、ボランティア活動に関する知識や実践方法に対する理解を深める。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

- ・ボランティア活動に関心のある地域住民が、活動に参加しやすい環境をつくる。
- ・若い世代や、退職後の世代など、知識や経験、意欲を持った人材を発掘する。
- ・地域住民にボランティア活動のやりがいや魅力を伝える。
- ・NPO法人やボランティアグループ同士が情報交換や交流、連携できる場の充実を図る。

【行政の取り組み】

- ・社会福祉協議会と連携し、ボランティア活動を受け入れる側と行う側の二ーズをつなぐ調整機能を充実する。
- ・社会福祉協議会と連携し、誰もが気軽に参加できるボランティア活動の仕組みづくりを充実する。
- ・社会福祉協議会と連携し、ボランティア活動に対する支援や相談窓口を充実する。
- ・学校教育等においてボランティア学習を充実する。



【取組を実施することによる5年後の姿】

- ・ボランティアの方が地域の中で活動する場が増えている。

【取組を測る指標】

目標指標	現況	平成34年
・ボランティア登録者数	※1 226人	350人

※1 社協での個人ボランティア登録数

基本目標3 住民が安心して生活できるまちづくり

(1) 相談・支援体制の充実

【現状と課題】

福祉サービスを利用する際は、町や社会福祉協議会、地域の民生委員児童委員等の相談窓口がありますが、身近に相談できる人がいない、あるいは相談窓口があっても行くことのできない人がいます。

また、高齢者・児童虐待やDV、引きこもり等新たな課題として社会問題となっている事例も増えており、多様化・複雑化している福祉ニーズや生活課題に対応できるよう、行政の相談体制の充実が求められています。

しかし、住民アンケート調査では、困ったときの相談先として、「家族」の次ぎに「友人、知人」を上げる人が多く、地域における助け合いで解決しているケースも多くあることが分かりますが、独居の高齢者が増えていることや、個人情報保護により、相談内容についてどこまで踏み込んで良いのか難しいケースもあります。

また、相談窓口が、支援の必要な人に周知されていない面があり、それらの周知を図るとともに、相談内容に応じて円滑に支援機関につなげていくことが重要です。

【今後の方向性】

相談内容に応じた窓口の周知を図り相談しやすい環境づくりをめざします。

また、地域の福祉団体等と連携するとともに、適切な相談支援体制を構築します。

施策内容	施策の展開
①相談体制の充実	地域住民の多様な生活課題とそれに応じた福祉サービスが適切に利用できるよう社会福祉協議会等の身近な相談窓口との連携を図るとともに、福祉の総合相談窓口の設置に努めます。

〔それぞれの役割〕

【期待する地域住民による取り組み】

- ・地域の人同士、様々な福祉情報を提供し、各種相談窓口の周知と利用を呼びかける。
- ・日常生活の困りごとについて、一人で悩むことはせず、相談窓口を利用するように心がける。
- ・広報やホームページなどで情報を確認する。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

- ・民生委員児童委員や社会福祉協議会が実施している身近な相談に地域住民が気軽に利用してもらえるよう啓発・普及を図る。
- ・民生委員児童委員、社会福祉協議会及びボランティア等との連携・協働関係の強化を図り、地域での相談支援体制を充実する。
- ・福祉関連情報の収集と提供の充実に努める。

【行政の取り組み】

- ・相談機能の充実に努める。
- ・民生委員児童委員、社会福祉協議会等による相談活動に対する支援を充実する。



【取組を実施することによる5年後の姿】

- ・相談機能が充実され、町、社協、八丈支庁、民生委員児童委員等に、気軽に相談する方が増えている。

【取組を測る指標】

目標指標	現況	平成34年
・住民の方の町や社協、民生委員児童委員に相談する割合を増やす。	※1 9%	30%

※1 八丈町地域福祉計画アンケート結果より（八高生を除く）

（2）生活困窮者への支援

【現状と課題】

近年、社会経済環境の変化に伴い、経済的に困窮している人が増加し格差も広がっており、町でも生活保護受給世帯数及び受給人数は、増加傾向にあります。

平成27年4月から始まった「生活困窮者自立支援法」に基づく自立に向けた制度の開始を受け、八丈町では、八丈支庁が生活困窮者に対する家計相談等、自立に向けた支援活動に取り組んでいます。

【今後の方向性】

生活困窮者を早期に発見するためには、関係機関や民生委員児童委員等とのネットワークが必要となります。関係機関が連携し、生活困窮者が窓口に来られた場合、適切な相談対応に努めます。

施策内容	施策の展開
①生活困窮者への支援の充実	経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなる恐れのある人の自立に向けた支援を行います。

〔それぞれの役割〕

【期待する地域住民による取り組み】

・生活に困難を抱えた人を見守り、困ったことがあった時の相談先を伝える。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

・関係機関と連携し、自立に向けた支援を行う。
・地域福祉の推進を担う社協の役割として、生活困窮者への相談支援活動、就労訓練事業等の支援に努める。

【行政の取り組み】

※生活困窮者の支援相談窓口は八丈支庁

・生活困窮者の自立にあたっての問題に関する相談体制の充実を図る。
・生活困窮者の早期把握や、地域からの孤立を防ぐため、民生委員児童委員や福祉団体、住民等と協力した支援体制をつくる。
・広報やホームページなどで、生活困窮者自立支援事業の周知に努める。



【取組を実施することによる5年後の姿】

・生活困窮者自立支援制度が周知され、関係機関等が連携し地域における支援の取り組みも始まっている。

【取組を測る指標】

目標指標	現況	平成34年
・八丈支庁での生活困窮者相談対応件数（実人員数）	※1 58人	継続支援

※1 八丈支庁での相談対応件数（H27からH29までの実人員数）

（3）サービスの質の向上

【現状と課題】

住民の福祉ニーズの多様化・複雑化している中、住民一人ひとりが必要とする福祉サービスを適切に結びつけられるように、福祉サービスを提供する事業者の情報提供や、多様な福祉ニーズに応えるために関係機関が連携することが重要です。

また、多様な主体の相互理解と連携のもと利用者の保護や権利擁護の推進、第三者評価等による福祉サービスの向上など、利用者本位の仕組みづくりが求められています。

【今後の方向性】

福祉サービス提供事業者による苦情解決の体制整備及び第三者委員の設置促進を図るため、制度の重要性の周知・啓発を行います。また、福祉施設の職員・第三者委員のスキルアップに向けて研修会や事例収集等の取り組みを促進します。

施策内容	施策の展開
①福祉サービス提供事業者における苦情解決体制の構築促進とその周知徹底	福祉サービス提供事業者では、苦情解決体制として、苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員を設置することが求められています。そのために、福祉サービス提供事業者に対して苦情解決体制の構築を働きかけます。また、福祉サービス提供事業者にはこのような苦情解決体制が設けられていることを、様々な機会において広く地域住民に周知します。

【それぞれの役割】

【期待する地域住民による取り組み】

- ・福祉サービスの利用方法や仕組みを学ぶ。
- ・サービスの利用にあたり、意見等があれば事業者にきちんと伝える。
- ・自分にあった福祉サービスを活用する。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

- ・福祉サービス提供事業者は、職員の資質の向上を図る。
- ・福祉サービス提供事業者は、第三者委員の設置や自己評価の実施に努めるとともに、サービスに対する苦情と解決についての情報を公開する。

【行政の取り組み】

- ・福祉サービスに携わる職員の資質の向上を図る。
- ・福祉サービス提供事業者による苦情解決の体制整備及び第三者委員の設置促進を図るため、制度の重要性の周知・啓発を行う。



【取組を実施することによる5年後の姿】

- ・福祉サービス提供事業者において苦情解決体制が構築されている。

【取組を測る指標】

目標指標	平成34年
・各事業所において、サービスに対する苦情と解決についての情報公開が行われている。	全事業所

（４）権利擁護事業の充実

【現状と課題】

福祉サービスを必要とする高齢者や障がいのある人の中には、判断能力が十分でない人もおり、住民一人ひとりの人権が保障され、必要な支援が受けられる環境づくりが必要です。

成年後見制度の活用や、地域の見守りによる虐待の早期発見・早期対応が求められています。

【今後の方向性】

福祉サービス利用者に対する人権尊重の意識づくりを推進するとともに、子どもや障がい者（児）、高齢者等に対する虐待やＤＶなど、人権侵害を見逃さない社会づくりと対応の充実を図ります。

施策内容	施策の展開
① 成年後見制度の普及	認知症高齢者や知的・精神障がい者の権利を擁護する仕組みとして、成年後見制度がありますが、制度の周知が十分でないことから制度の周知に努めます。また、相談窓口においても適切に案内し利用の促進を図ります。 また、法人による、成年後見制度の推進に努めます。
②虐待を見逃さないネットワークの確立	地域住民や福祉関連事業者、医療機関等が協力して、子ども、高齢者、障がい者（児）に対する虐待、あるいはＤＶの早期発見に努めるとともに、民間団体も含め関係機関相互の連携を強化し、適切に対応していきます。
③日常生活自立支援事業の推進	日常生活自立支援事業は、判断能力が十分でない認知症高齢者や知的・精神障がい者の福祉サービス利用手続きの代行、利用料支払い等の日常的な金銭管理等を行うものです。認知症高齢者や知的・精神障がい者（児）が地域で自立して暮らし続けるために事業の周知と利用の促進を図ります。



〔それぞれの役割〕

【期待する地域住民による取り組み】

- ・虐待と思われる行為に気づいた場合は、すぐに関係者・関係機関に連絡する。
- ・認知症高齢者等、判断能力の低下に伴う支援が必要な人を把握し、支援につなげていくよう努める。
- ・民生委員児童委員等と連携し、子どものいる家庭の見守りを行い、地域での児童虐待防止に努める。
- ・権利擁護に関わる制度や事業について理解を深める。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

- ・町や地域と連携し、虐待やDV防止等の人権啓発活動を行う。
- ・認知症や障がいなどにより判断能力に不安のある人の権利を擁護する。
- ・町と連携し、町民後見人の養成について取り組みを検討する。
- ・福祉サービス利用者や相談者の人権を守り、成年後見制度等の活用を含めて権利擁護制度の利用を促進する。

【行政の取り組み】

- ・日常生活自立支援事業、成年後見制度等権利擁護のための制度を周知・啓発し利用促進を図る。
- ・地域住民や福祉サービス提供事業者、医療機関等が協力して虐待の早期発見のためのネットワークを確立する。
- ・成年後見制度利用促進のため、後見人報酬等への補助制度を実施する。



【取組を実施することによる5年後の姿】

- ・町民後見人等、地域の中で権利擁護について担い手となる人が増えている。

【取組を測る指標】

目標指標	平成34年まで
・住民の中から町民後見人を養成するための支援を実施する。	補助制度を検討し町民後見人を養成

（５）地域ぐるみの防災活動の推進

【現状と課題】

地震等大規模災害が起きた時、高齢者や障がい者（児）等、避難支援の必要な人が困らないような対策を講じることが必要です。

また、地域住民の防災意識や自分たちで地域を守る意識の高揚とともに、地域の福祉施設等を含めて、地域が一体となった支援活動が重要になります。

【今後の方向性】

災害時等においては、地域の支え合いが重要であり、自主防災の意識づくりに努めます。また、地域ぐるみの防災活動を支援します。

災害時の避難支援体制のため、地域と消防団との連携体制を構築します。

施策内容	施策の展開
①緊急時・災害時の支援体制づくり	民生委員児童委員等と町が協力して、災害時の救助や安否確認を迅速に図れるよう体制づくりをめざします。 また、社協は災害時に備え町と協力し、避難行動要支援者名簿の整備・活用、福祉避難所の整備、災害ボランティアの育成・登録に努めます。

【それぞれの役割】

【期待する地域住民による取り組み】

- ・地域等で行われる防災活動に積極的に参加し、防災意識を高める。
- ・高齢者や障がい者（児）等避難支援が必要な人が隣近所にいないか、近隣づきあいを通じて把握し、災害が発生した場合の救助に協力する。
- ・地域や行政と連携し、緊急時・災害時の支援体制づくりを行う。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

- ・福祉施設や福祉サービス提供事業者は、行政や地域住民と協力し、緊急時の避難誘導を行う。
- ・福祉施設等においては災害時の避難誘導体制の確認と体制確保に努める。
- ・地域における避難支援等、関係者の取り組みに積極的に協力する。

【行政の取り組み】

- ・災害時に避難支援が必要な人について、個人情報に配慮しながら把握に努め、地域住民や関係団体、事業者等と連携した緊急連絡体制、支援体制をつくる。



【取組を実施することによる5年後の姿】

- ・地域の中で、災害時における要配慮者を把握し、災害時に助け合える仕組みができている。

【取組を測る指標】

目標指標	計画期間
・自主防災組織を中心とした要配慮者に対する避難訓練の実施。	各地域に働きかけ実施

（６）情報提供の充実

【現状と課題】

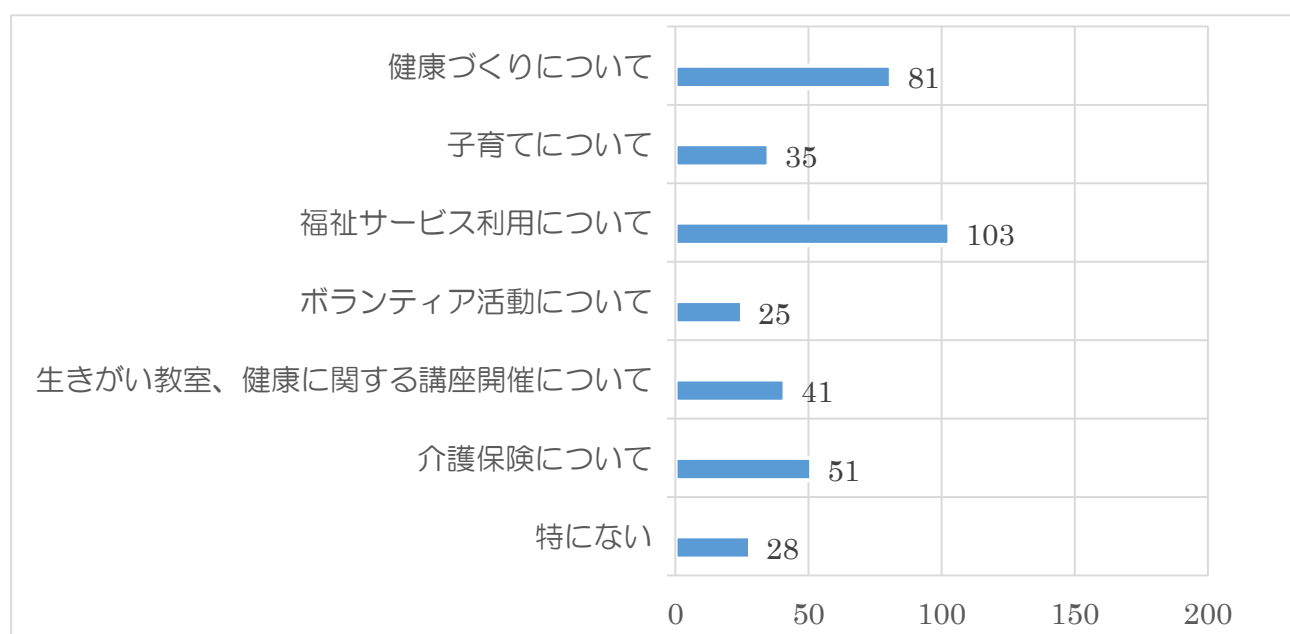
地域福祉に関する行政サービスや事業者の情報、地域での様々な活動の情報が全ての住民に行き届くことは、地域で安心して暮らしていくために、とても重要なことです。

福祉サービスについては、制度や利用方法が分からないなどの声が多く、誰にでも分かりやすく提供する必要があります。

また、広報やホームページでは様々な福祉サービスに関する情報を提供していますが、興味のある部分しか見ない人も多く、分かりやすい情報提供を行うとともに、地域住民が情報を得ようとする意識を高めていく必要があります。

【福祉や健康についてどんな情報を知りたいですか】

※八丈町地域福祉計画アンケートより（単位：人）



【今後の方向性】

支援を必要とする人が適切な福祉サービスを利用できるように、福祉サービスに関する情報の分かりやすい提供手段、分かりやすい表現方法に努めます。

また、地域の団体、福祉関連事業者や医療機関等とも連携し、適切に福祉情報を提供します。

施策内容	施策の展開
①福祉サービスの情報の発信	町や社会福祉協議会が行っている施策や、福祉サービス等を広報やホームページに掲載し情報提供の充実を図ります。

〔それぞれの役割〕

【期待する地域住民による取り組み】

- ・福祉の各種制度への関心を持つ。
- ・地域に密着した情報伝達手段を活用し、福祉情報を地域住民に提供する。
- ・高齢者、障がい者（児）や子育て家庭等支援が必要な人を把握し、必要な情報を届けるようにする。

【期待する関係団体・事業者等の取り組み】

- ・支援が必要な人の福祉ニーズの把握に努める。
- ・適切に福祉サービスが受けられるよう情報提供に努める。

【行政の取り組み】

- ・福祉に関する制度やサービスに関する情報提供を充実する。
- ・高齢者や障がい者（児）、児童への虐待、DVなどの防止、早期発見・早期対応について広報やホームページによる啓発を強化する。



【取組を実施することによる5年後の姿】

- ・福祉サービスに関する情報が得やすくなり、健康づくり教室などの活動に参加する人が増えています。

【取組を測る指標】

目標指標	現況	平成34年
・分かりやすい紙面づくりにより、「広報はちじょう」・「しゃきょうだより」での情報収集の割合を増やす。	※1 48%	80%

※1 八丈町地域福祉計画アンケート結果より（八高生を除く）



第5章

重点施策について

本町における地域課題について、地域福祉懇談会においても多くの意見がありましたが、地域コミュニティの変容による高齢者の孤立化への対応など、行政や社会福祉協議会、福祉事業者等も含めた支援体制の充実を図る観点から、次の3項目を重点施策として定め、効果的に事業を推進します。

重点施策① 地域での見守り活動の強化

- (1) 地域における見守りと支え合いを促進します
- (2) 高齢者以外で支援が必要な人への地域の見守り活動を促進します
- (3) 課題解決に向けて地域と関係機関との連携を強化します

(主な取り組み)

- ・地域見守り活動推進事業（仮称）の実施
- ・地域でのサロンの開催支援
- ・高齢者孤立防止事業の推進

重点施策② 地域福祉を担うひとづくりと連携の強化

- (1) 講習会などを通じた人材育成とボランティア団体等の活動を支援します
- (2) 多様な団体等の連携、協働を促進します

(主な取り組み)

- ・福祉事業者等との交流会の実施
- ・社協の事業を通じた福祉学習の充実
- ・ボランティア体験プログラムの実施
- ・各種ボランティアの養成講座を開催

重点施策③ 災害時要援護者の支援体制の強化

- (1) 災害時要援護者支援制度が円滑に機能するよう効果的に運用します
- (1) 災害時要援護者支援制度の情報を日ごろの見守り活動や緊急時に活かします

(主な取り組み)

- ・地域における防災訓練、防災対策への支援
- ・災害時要援護者支援制度の啓発
- ・災害時要援護者支援制度の効果的運用



初期消火訓練



炊き出し訓練



応急救命訓練

第6章

計画の推進・実行

1 計画の周知・啓発

地域福祉は、町（行政）だけでなく地域に関わる全ての人が主体となって協働し、推進していくことが大切です。

このため、本計画で示した基本理念や役割、考え方について、地域住民への周知を図り、地域における主体的な活動を促進します。

また、広報はちじょうやホームページを通じて、本計画の周知・啓発を行い、地域福祉の推進に向けた意識の高揚を図ります。

2 計画の推進と評価

計画は、立てただけでなく、実行し、評価を行うことで、より具体的に推進していくことが必要となります。

本計画の期間は、平成30年度から平成34年度までの5年間ですが、社会情勢の変化で、策定段階では予想できなかったこと、うまくいかなかったことの反省、新たな協働を盛り込んだ活動など、計画の進捗度について評価を受けるために、PDCAサイクルに基づき、平成32年度に中間評価・見直しを行います。

PDCAサイクルとは、計画（Plan）を立て、それを実行（Do）し、実行結果を評価（Check）して、さらに計画の見直し（Action）を行うという一連の流れのことであり、各施策の改善点を明らかにし、今後の施策の充実に活かします。

計画の推進にあたり、住民の代表者、地域活動団体の代表者及び有識者等で構成する、八丈町地域福祉計画推進委員会（仮称）を設置し、計画の検証・評価を行います。



3 社会福祉協議会との連携

本計画を踏まえた地域に密着した生活課題の解決に向けて、具体的な取り組みを進めるため、社会福祉協議会との連携を密に図り、町の地域福祉に関して一体となって推進を図っていきます。

参考資料

1 八丈町地域福祉計画策定委員会

八丈町地域福祉計画策定委員会設置要綱（平成29年度）

（設置）

第1条 社会福祉法（昭和26年法律第45号）第107条に規定する市町村地域福祉計画（平成30年度～平成34年度）を策定するため、八丈町地域福祉計画策定委員会を置く。

（所掌事項）

第2条 委員会は、八丈町地域福祉計画の原案を作成し、町長に報告する。

（組織）

第3条 委員会は、委員13人以内をもって組織する。

2 委員は、公募2名以内のほか、行政（企画・防災・教育・福祉）の職にある者及び福祉関係団体から町長が委嘱する。

（委員長及び副委員長）

第4条 委員の互選により、委員会に、委員長及び副委員長を1人置く。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の1/3以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（任期）

第6条 委員の任期は、第2条に規定する所掌事務の終了をもって満了する。

（庶務）

第7条 委員会の庶務は、福祉健康課において処理する。

（委任）

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

（附 則）

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

八丈町地域福祉計画策定委員会 委員名簿

		氏名	職名等	内容
1	委員長	高 野 秀 男	福祉健康課長（高齢福祉・障害福祉・保健）	任命
2	副委員長	田 村 久 美	福祉健康課主幹（児童福祉）	任命
3	委員	佐々木 眞 理	企画財政課長（企画）	任命
4	委員	山 越 整	総務課長（防災）	任命
5	委員	高 橋 太 志	教育課長（教育）	任命
6	委員	奥 山 弘 喜	社会福祉協議会事務局長（団体）	委嘱
7	委員	上ノ山 明 光	老人ホーム施設長	委嘱
8	委員	柳 田 拓 也	福祉健康課高齢福祉係長	任命
9	委員	浅 沼 晃 子	// 障がい福祉係長	任命
10	委員	浅 沼 洋 介	// 保健係長	任命
11	委員	笠 原 達 也	子ども家庭支援センター 社会福祉士	任命
12	委員	中 村 典 央	公募	委嘱
13	委員	菊 池 頼 子	公募	委嘱

2 計画策定経過

本計画策定にあたっては、住民懇談会や住民アンケートを実施することで、住民の意見を反映させ、八丈町地域福祉計画策定委員会による審議を行い策定しました。

開催日	開催事項等	内 容
平成29年6月20日	第1回八丈町地域福祉計画策定委員会	1.正副委員長の選任について 2.地域福祉計画策定の概要について 3.住民アンケートについて
平成29年7月	八丈町地域福祉計画策定のためのアンケートを実施（八丈高校生）	地域福祉に関する意識調査等 119名の方から回答
平成29年7月27日	第2回八丈町地域福祉計画策定委員会	1.アンケート調査（八高調査結果）について 2.地域懇談会について
平成29年8月～10月	八丈町地域福祉計画策定のためのアンケートを実施（一般の方）	地域福祉に関する意識調査等 無作為で抽出した500名（20代～60代以上の住民の方）及び社会福祉協議会でのサービス利用者等 198名の方から回答
平成29年9月14日	地域福祉計画懇談会 ※役場大会議室	安心して生活できる地域づくりに必要なことをテーマにワークショップを実施。 （3グループ） 参加者 13名
平成29年9月20日	地域福祉計画懇談会 ※保健福祉センター	安心して生活できる地域づくりに必要なことをテーマにワークショップを実施。 （4グループ） 参加者 22名
平成29年9月21日	地域福祉計画懇談会 ※樫立公民館	安心して生活できる地域づくりに必要なことをテーマにワークショップを実施。 （3グループ） 参加者 12名

平成29年9月27日	地域福祉計画懇談会 ※末吉公民館	安心して生活できる地域づくりに必要なことをテーマにワークショップを実施。 (4グループ) 参加者 27名
平成29年9月28日	地域福祉計画懇談会 ※中之郷公民館	安心して生活できる地域づくりに必要なことをテーマにワークショップを実施。 (3グループ) 参加者 12名
平成30年1月16日	第3回八丈町地域福祉計画策定委員会	1.地域懇談会の報告について 2.地域福祉計画について
平成30年2月20日	第4回八丈町地域福祉計画策定委員会	1.地域福祉計画(素案)について
平成30年3月 1日～ 平成30年3月14日 (予定)	パブリックコメント	役場本庁・各出張所・コミュニティセンター・保健福祉センター・町ホームページで実施。

3 地域福祉計画懇談会、地域福祉計画アンケートについて

本計画を策定するにあたり、各地域において地域懇談会を開催しました。懇談会には86名の方に参加いただきグループに分かれてワークショップを行いました。

各地域において、熱心に町の地域課題について話し合ってください貴重な意見を聞くことができました。

本計画の中で、懇談会の意見を取り入れるものもあれば、行政の中で対応しなければならない課題も多く挙がりました。

懇談会での意見を、これからの町の行政運営に活かしていきたいと思います。

また、アンケートについては、八丈高校の生徒及び198名の住民の方にご協力いただきました。アンケート結果については、貴重な基礎データとして本計画において活用しております。

地域福祉計画懇談会での意見

（三根地域）

平成29年9月20日 八丈町保健福祉センターにおいて地域福祉計画策定のための三根地域懇談会を開催しました。

参加者22名で4グループに分かれワークショップを行いました。

「地域の福祉課題」についての意見

- 近所には高齢者の方が多く子どもが少なくて島の将来が心配
- 子どもの面倒について行政が手厚くするほど地域との関わりが薄くなる
- 近所でのコミュニケーション（世代間交流）が希薄になっている
- 皆が気軽に楽しめ、おしゃべりするところがあるといい
- 高齢者の方のフォローをどうするか
（独居高齢者の増加・高齢者の見守り・施設での要介護者の受け入れ・認知症になっても安心できるか・自宅で最後まで生活できるための医療的ケア・介護人材の不足）
- 運転を出来なくなった時、買い物や病院に行くのをどうすればよいか
- 防災について
（災害用マップはあるが地域で話し合っていない・地震や津波から誰が助けてくれるのか・災害が起きた時の連絡網を分かっていない・自分で出来る事は自身（自助）でやる・高齢者、障害者のいる家庭は誰かの助けを借りる）
- 空き家が増え火事や災害が起きた時が心配
- 個人情報について
（助け合いといってもどこまで踏み込めるのか・町民の考え方が都会的になり今はうるさくなっている・近所とはあいさつ程度なのでいざという時に助け合えるのか・よく知らない人には近づかない）
- ゴミの分別を20数種類に分別し、大型ゴミの出し方を簡単にする（ゴミ出しのルールを守る）
- 障害のある方との積極的な付き合いがもっと出来るといい
- 障害者の方が地域で好きな事を発揮出来る機会が少ない
- 若い人の働く場所が少ない
- 婦人会の後継者問題

「課題を解決するための取組」についての意見

○子育てしやすい環境づくり

（移住者ファミリーの受け入れ・情報発信・好条件で移住者を募る・子育てのしやすさをアピール・島は安心安全で最適の場所・高齢者の子育て支援）

○子どもの頃から地域愛を育てる

○あいさつをする

（１日１０人にあいさつをする・近所の人を行事や集まりに誘う・地区単位で交流を促すイベントづくり）

○近所間の交流を大切にし、そこから交流の広がりを持たせる

（ゴミだし助っ人訪問などをやってみる）

○ローカルテレビ・ラジオを取り入れる

○子ども食堂みたいなシステムをつくる（手伝うとただで食べられる）

○富士見公会堂等や空き家をサロン（高齢者が内職出来る場所）として活用する（HATにも交流スペースを作って欲しい）

○島の雇用のために貢献する

（高齢者が島に住み続けければ病院・薬局・老人ホームなど若い人の働く場が確保されるので、高齢者の皆さんには島で暮し続けてもらう）

○高齢者の方は出来るだけ外に出て足を鍛え、元気な高齢者を増やす

○老後のために、相談相手や友達を大勢つくり隣近所のつながりを強化する

○必要な施設の整備・介護ロボットの導入

○免許証を返上された方・運転出来ない方にタクシーチケットを発行

○コミュニティバスなど低額で地域を細かく回るバスを走らせる

○社協などに移動販売用の車があるとよい

○買い物が出来なくなった時のために一緒に買い物に行ってくれるボランティアリストを作る

○災害に備え、周囲に助けを求めるのが当たり前に出来る関係をつくる

○各地区で防災対策を考える（細かい防災網を作る）

○空き家を持つ人へのアンケートの実施

○個人情報保護法の壁を乗り越えられるのかがカギ

○ゴミが分けられるゴミステーション（人が集まれる場所）を作る

○障害のある方への福祉タクシー券の助成

○若い人達が自分たちで仕事を創る（大人はサポートをする）

○各団体同士の世代間交流

（大賀郷地域）

平成29年9月14日 町役場大会議室において地域福祉計画策定のための大賀郷地域懇談会を開催しました。

参加者13名で3グループに分かれワークショップを行いました。

「地域の福祉課題」についての意見

○防災について

（土砂災害が怖い・街灯が少ない（本数が決まっている）・いざという時に頼りになるのは、みんな同じ顔ぶれ・台風への備え（空き家が多い）・町からの情報発信（不安解消のために）・八丈富士の噴火観測と公表・災害時の福祉避難所がない）

○近所の方を知らないなど地域の繋がりが弱くなっている

○地域の集まりが少ない（気軽に集まれる場所かない）

○地域活動少年団の組織化（スポーツだけでなく）

○若者の活動活性化のための組織の再建（青年団等）

○障害のある方が出かける場所・方法が少ない

○障害者の方への緊急時の相談システム（入所等）が出来ていない

○要介護者の入所施設が少ない（待機者が多い）

○認知症高齢者の増加

○介護人材の不足

○通院など上京する時の経済的負担は町民の生活を圧迫している

○地域（八丈）らしさの伝承活動の強化

○島言葉を子どもが話せない

○公共交通の不足（車の運転が必要）

○高校卒業後の進路（進路・就職先が限られる）

○人口の減少（高校生が少なくなっている）

○自殺者が多い

○子育てに不安の親が多い

○害虫対策（ヤスデ・アリなど）

○道路のはみ出し木の撤去

「課題を解決するための取組」についての意見

○防災について

（災害に対する住民への啓蒙・空き家対策・各自の対策（自助）・突然の事態も広報する・地域住民の意見を入れた避難計画・教員住宅の活用）

○地域の支え合いについて

（現行組織の洗い出し・横のつながり・空き家を利用して交流の場をつくる・イベントや祭りなど力を合わせる場づくり・あいさつをする・地区ごとの集まりを年1～2回はする）

○高齢者の活用（高齢者みんなが生き生き働く島づくり）

○介護の仕事の楽しさを伝える工夫・島外からの人材誘致

○八丈高校に介護福祉コースをつくる

○島（地域）の活力強化

○バスの運行を地域の変化に合わせて欲しい

○第1次産業等育成（若者が働ける場）

○島の魅力を発信

○子育てしやすい島をアピールして島外からの移住促進

○色んな地域の実践を学び合う機会をつくる

○婚活の継続

○ヤスデの薬配布

○アリ対策（町が手配して東電・電機協会にみてもらう）

○はみ出し木の撤去は、積立金をつくり業者にやってもらう（互助会をつくる）

（檜立地域）

平成29年9月21日 檜立公民館において地域福祉計画策定のための檜立地域懇談会を開催しました。

参加者12名で3グループに分かれワークショップを行いました。

「地域の福祉課題」についての意見

○防災について

（災害時の避難場所が近くにあるのか分からず不安な人が多い・非常事態の時に誰が何をやるのか・防災意識が低い・寝たきりの人は津波災害から逃げ切れない）

○対人関係について

（プライバシー保護のこともあり知らない人との付き合いがどうなるのか・地域の決まりがあるらしいが分からない・顔は分かるが名前や素性が分からない・隣の人が遠く、なかなか尋ねられず独りぼっちの生活になってしまう・隣近所のつながりが希薄になっている・触れ合いの場がないため、困っていることが分からない・支え合いを嫌がる人がいる）

○移住者との関わり

（どこまで私生活に入り込んでよいか分からない（嫌がる人もいる）・新しく島民となった方が古くからの島の習慣に慣れて生活が維持できると安心・移住者の定着）

○高齢者の問題

（年をとって運転出来なくなると大変・若い人が少なく将来が心配・団体の高齢化が目立ち婦人会に若い人が欲しい・身寄りのない高齢者を誰が見るか・訪問医療を行う開業医が増えると安心・認知症のための予防・草刈ができない・高齢者の筋力トレーニングジムがあるといい・情報をどの様に収集するか・人口が減り空き家が多い）

○若者の減少

（八高生が減少している・中学生が八高の魅力を分かっていない・若い人が地域にいと安心・子供がスポーツできる最低人数がいらない・仕事が少ないことで島を離れた若い人が帰ってこれる環境がない）

○歩行者優先のルールがない（自動車のマナーが悪い）

○救急での病院搬送で時間が掛かるのが心配

○専門病院がないので上京するのが大変（町でも健康診断をやってくれているが、血便が出た時には手遅れの場合がある）

○地域のイベント

（地元のイベント等に参加しない人が多い（特に若い人）・地域での草刈などに
出られない人が多くなり負担が大きくなっている・地元以外のイベントへの参
加が少ない（興味を持たない）・地域で行う共同作業を通じて仲間意識ができ
ると安心（農業従事者が少なく日常的な共同作業がない））

○伐採・ゴミだしの手伝いをする

○交通弱者へのボランティアの活動

○地域でやれる事と行政がやるべき事との区別がわかりにくくなっている

○いかに島の良さを伝えられるか

○お金がない人をどうすればよいか（生活保護受給者の増加）

○観光地の整備

「課題を解決するための取組」についての意見

○防災について

（島が孤立した時、行政で必要な物資を必要な人に提供・自治会での訓練の習慣
化・地区単位で責任者が分かれば心強い・地域の中での細かい役割分担を決めて
おく・寝たきりの方のリスト作成）

○対人関係について

（踏み込んでいいことについて話し合う・個人情報は大切だが日頃から助け合
い出来る付き合い方をする・近所の方との触れ合い・あいさつと一声運動）

○移住者との関わり

（無理をさせない範囲で、地域のイベントなどの際に声を掛ける）

○高齢者の問題

（若い人に「お得」な地域として売り出す・若い人が住みやすく豊かに生活でき
る地域づくり・各地区に男女問わず集まる場所があればいい・介護サービスの充
実・ロベ切りよりも収入になるサービスを行政が元気高齢者にやってもらう・
住民同士のつながり・公民館にジムをつくる・空き家を利用したシェアハウス）

○若者の減少

（八高の良さ・八高で出来ることをHPや様々な活動の中で中学生に伝える・情
報発信の方法（ユーチューブ・ドラマ作りなど）・若者に仕事を優先的にまわす
ようにする・今ある仕事だけではなくインターネットを活用した若者が好む企
業を島に誘致して島に残るようにする・オシャレな雰囲気作り）

○車のマナー教育を徹底し、警察に捕まる前に顔見知りが注意する

○高齢運転手に自治会から免許の取り上げを強制的にする

○運転できなくなった時、食料品の配達が行ってもらえるのか？今は富次郎がし
てくれていて檜立の殆どの人が助かっている

○地域で毎朝集まって体操とかやって健康アップ（予防）

○病院の世話にならないように、自身での健康維持の取り組み

○地域のイベント

（地域のコミュニケーションが出来るような草刈作業を行政が小額費用を出して回数を多く行う（共同作業）・イベントの主催、運営側として参加を促す（学生等に）・イベントのPRとしてタイムス、広報を読んでいない人がいるので、子供でも読めるようなものを作成・PRの方法として学校からの周知・無理な運営はしないで人数、予算等に合ったイベントを心掛ける・協力者がいないと出来ない行事の開催）

○ゴミだしボランティアの制度をつくる

○生ゴミ収集をやめる

○ボランティアタクシー登録制度をつくる（代金は温泉の入浴券）

○住民にボランティア活動への理解をしてもらい共助の地域性を育てる（行政で出来る事と出来ない事をはっきりさせておく）

○お金を貯める教育

○生活保護制度の利用

○樫立にミニ道の駅を

（中之郷地域）

平成29年9月28日 中之郷公民館において地域福祉計画策定のための中之郷地域懇談会を開催しました。

参加者12名で3グループに分かれワークショップを行いました。

「地域の福祉課題」についての意見

○災害時の食糧の確保について

○地域のつながり

（孤立している高齢者を助けることが出来るか・近所（地域）と子どもの触れ合いが少ない・子ども達の見守り・高齢者が立ち寄れる無料のコーヒースタンドの設置・ラジオ体操のできる広場・留守の際お互いのコミュニケーション）

○買い物が大変

○人口の減少・空き家の増加

（店舗、食堂が少ない・空き家が多くなった・後継者がいない（婦人会、老人会等）・1人暮らしの方が増えた）

○個人情報

（個人情報で分からない事が多い・個人情報が厳しくなり、どこまで近所に声かけしてよいのか）

○高齢者の見守り

（昔は料理を作って届けたりもしたが、そういう交流がなくなった・1人暮らしの方に声かけを・高齢になった時が心配・いざという時に頼る人がいない）

○交通手段

（サロンに行く交通手段がない・中之郷から病院が遠い・免許を返納した高齢者は活動範囲が狭くなる（引きこもりになる）

○近くに何でも相談できる人がいるといい

○AEDが夜は使えない

○台風などの後の道路清掃・道路の草木を片付けて欲しい

○病院の問題

（皮膚科、眼科など1月に数回で混んでいるので回数を増やして欲しい・東京に入院した時の問題）

○障がい者問題

（腎臓移植などの見えない障がい者の問題・行政サービスによる啓発）

○保育園の0歳児1歳児クラスの定員を増やして欲しい（1年前に増やしてもらったのですが坂下にも0歳児保育を）

○高齢者も若者も温水プールで健康増進（足湯でも可能か）

「課題を解決するための取組」についての意見

○防災について

（災害時のリストづくり・災害セットの購入補助・自分自身は自分で守る）

○地域のつながり

（地区の集まりに年に一度家族で参加する・ボランティアの育成でコーヒESHOP・いつ行っても人が集まっている場所をつくる・自治会が中心となり地区ごとの親睦を図る・小学校跡地で毎朝ラジオ体操をする）

○小さいバスを使って買い物、温泉に行きやすいようにする

○観光客のためにも地熱やえこめぐりまーとをバスのコースにいれる

○人口の減少・空き家の増加

（移動式販売車（店）を走らせる・空き家のPRを島外に出して活用・雇用の場を創る（企業の誘致）・坂上に診療所をつくる・八丈島の移住PR・5年以上空き家が続いたら町が入って清掃後、安く貸家にする・空き家を貸したい借りたい人の情報を役場、支庁などに公表する・地権者にどれくらいの利益になるか具体的に提示する・保育士を本土から募集し（寮付きなどの優遇）定員を増やす（人口も増える）

○個人情報

（感情的な個人情報バリアを壊す・勉強会をする・個人情報の範囲を決めれば良い・共助のために家族構成だけでも教えてOKとする）

○高齢者の見守り

（元気な人も弱い人も仲良く声かけを・見守りボランティアをつくる・相談者が誰かが分かるカードをつくる）

○交通手段

（ピンポイントバス、運転ボランティア、週1回の病院・スクールバスの様な（小型のバス）大人、老人向けの買い物バスを定時つくる・移動式販売車（店）を走らせる・坂上に診療所をつくる）

○困ったことがあったら自治振興委員、民生委員に連絡する

○AEDを自治会長、消防団長宅に設置

○道路清掃などは、業者をお願いしてもいっきには出来ないのでは、近所の事は自分達でも片付ける

○病院の問題

（特に予約が多い科の回数を増やす・広尾病院は付き添いの人の宿泊場所があるが、他島では病院に関係なく宿泊できる所があるので設けて欲しい・交通費補助は年に1度だけでなく各個人の病状で増やす）

○障がい者問題

（障がいのある方のためにヘルプマークを広める・透析施設が町立病院のみなので腎クリニックがあると良い・見えない障害者問題を知る機会をつくる）

（末吉地域）

平成29年9月27日 末吉公民館において地域福祉計画策定のための末吉地域懇談会を開催しました。

参加者27名で4グループに分かれワークショップを行いました。

「地域の福祉課題」についての意見

○高齢化

（地区に若者が少なくとても不安・子供が東京で生活しているので自分がどこで住むようになるのか気にしている・坂下に住む姉の世話をしているが車の運転がいつまで出来るのか・高齢化で地区での活動が大変・車を足にしているで年をとる事が心配・婦人会も段々年をとって若い人が入らない・商店が無くなるかと思うと心配・墓の心配・雇用が少ない・年を重ねて1人になった場合、介護が必要になった場合が心配・皆さん老老介護・近隣高齢者同士のコミュニケーションは良好だが動けなくなった時が心配・車社会から取り残される・認知症の方の増加）

○高齢者の交通

（交通の便が悪い・公共交通の整備・買い物が不便・免許を返納すると不便になる）

○人間関係

（人間関係が芳しくない・近所付き合いが希薄になりつつある・タイムスで人が亡くなったのを知る・若い人達との付き合いが少ない（情報が無い）・各自仕事安定してないので色々な面でまとめにくい）

○人口減

（結婚する人が少なく子供の人数が少ない・八高生が少ない）

○医療防災

（AEDがあるが休日は鍵が閉まっていてすぐに取り出せない・救急車に連絡して町立病院に着くまで1時間前後かかる・急病時の対応（病院までの交通手段）・医者がいない）

○既存施設の利用

（名古の展望台、旧末吉保育園、旧末吉小学校の使い方）

○通信

（防災無線や携帯等が不通の所が多い・登龍峠道路携帯通じない）

○駐在所の存在（人口減少で無くなってしまったら）

○仕事場が坂下に集中しているので消防団が機能しない

○地域のサービスについて、分からない事を誰に聞いたらよいのか（気軽に聞きたい）

- 公民館でカラオケをしたいけど故障しているので何とかして欲しい
- 寝たきりゼロを目指しているので行政がもう少し手を差しのべて欲しい
- 台風時に周りの木や崖が崩れそうでとても不安になる
- 地形が高低なので隣の 1 人暮らしに声もかけられない
- お金に困っている人をどうするか
- 子どもが外で遊んでいない

「課題を解決するための取組」についての意見

○高齢化

（若者が末吉に住める環境づくり・町営住宅の家賃を下げる・子育てしやすい環境づくり・末吉で仕事ができるようにする・お年寄りの方が外に出るための手伝いをする・高齢者への対応として病院や買い物に連れて行ってもらう・1 回あたり 500 円有料ボランティアを募る・企業の誘致・雇用の拡大・移住者を増やす・施設が坂下に集中しているのを変えてゆく・観光資源のアピール）

○高齢者の交通

（タクシーを安く利用できる券を出す・バスを小型化して便を増やす（せめて 5 便・100 円バス）・スクールバスならぬシルバーバスを運行する・バス代は無料にする・坂上が巡回バス等で生活がまわるようにする・タクシー代の助成・最終バスを車庫まで乗車可とする）

○人間関係

（行事にはなるべく参加し出席を多くする）

○人口減

（町営住宅の家賃を安くする（若い人に有利設定をする）・婚活イベントの推進）

○医療防災

（AED の設置場所を戸外にする・病院送迎バス・通院はまとめて行く（乗り合わせ）・救急車を坂上に 1 台配置・自家用車での受け入れ・緊急時には旧末吉小学校の建物を病院にしてほしい・診療科目の充実・緊急時用に 1 回あたり千円位の有料ボランティアを募る（雇用の促進）・ドクターヘリ）

○既存施設の利用

（旧保育園等を檜立の富次郎商店のように誰でも寄れる場所にする・展望台に島特産の土産の見本（民芸品のサンプル）を置く（説明するガイドを置く）・ガイドをつくって島人との交流をする・末吉の温泉を利用する町民はバス代を無料にする・洞輪沢行きのバスを夏も走らせる、もしくはコミュニティバスを走らせる）

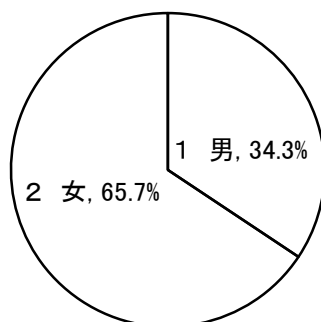
○通信

（アンテナの増設・パトロールの実施）

○駐在所で地区ごとに月 2 回集会を行い、諸問題の話し合いを実施

八丈町地域福祉計画アンケート結果(一般)

性別

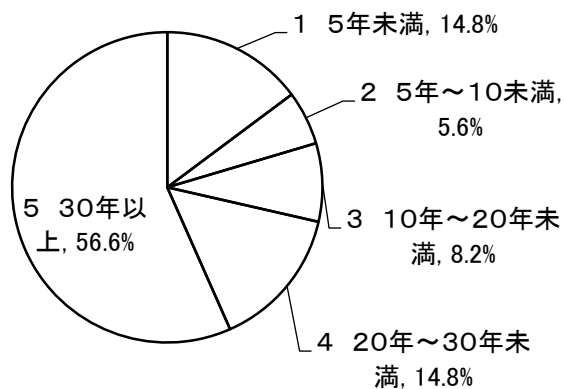


□1 男 □2 女

性別 (単位:人)

1 男	68	34.3%
2 女	130	65.7%
合計	198	100.0%

八丈町に住んでいる年数

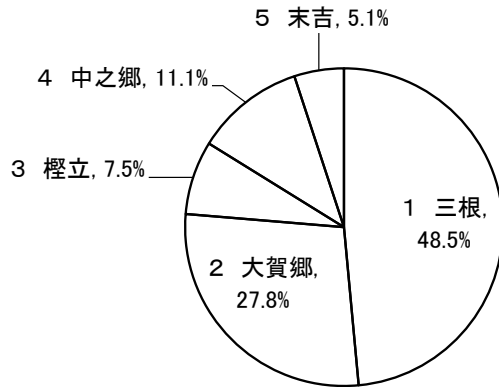


□1 5年未満
□2 5年～10未満
□3 10年～20年未満
□4 20年～30年未満
□5 30年以上

八丈町に住んでいる年数 (単位:人)

1 5年未満	29	14.8%
2 5年～10未満	11	5.6%
3 10年～20年未満	16	8.2%
4 20年～30年未満	29	14.8%
5 30年以上	111	56.6%
合計	196	100.0%

住んでいる地域



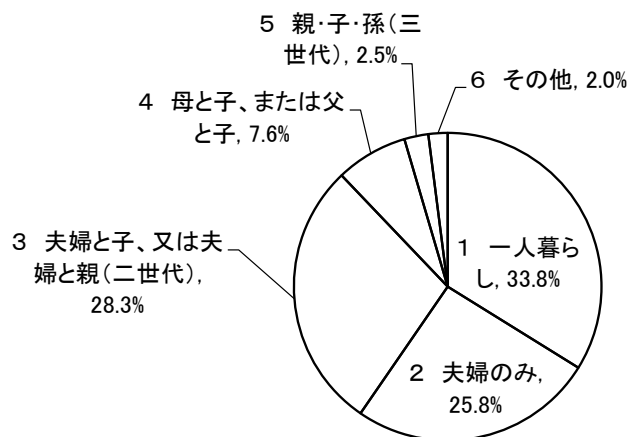
- 1 三根 □2 大賀郷
- 3 樫立 □4 中之郷
- 5 末吉

住んでいる地域

(単位: 人)

1 三根	96	48.5%
2 大賀郷	55	27.8%
3 樫立	15	7.5%
4 中之郷	22	11.1%
5 末吉	10	5.1%
合計	198	100.0%

家族構成



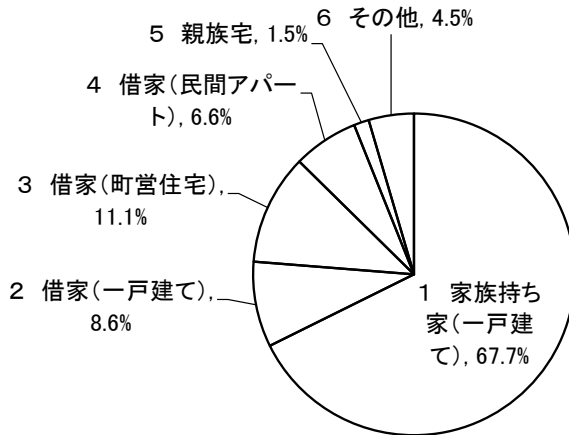
- 1 一人暮らし
- 2 夫婦のみ
- 3 夫婦と子、又は夫婦と親(二世帯)
- 4 母と子、または父と子
- 5 親・子・孫(三世帯)
- 6 その他

家族構成

(単位: 人)

1 一人暮らし	67	33.8%
2 夫婦のみ	51	25.8%
3 夫婦と子、又は夫婦と親(二世帯)	56	28.3%
4 母と子、または父と子	15	7.6%
5 親・子・孫(三世帯)	5	2.5%
6 その他	4	2.0%
合計	198	100.0%

住んでいる住宅

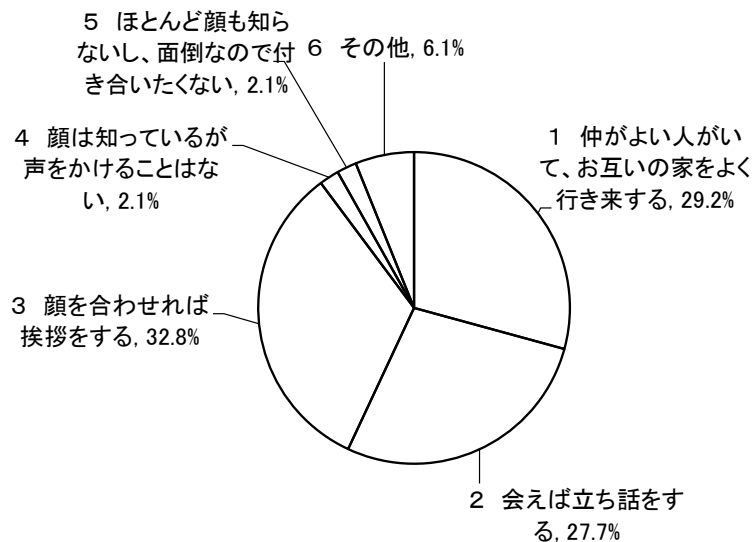


- ☐ 1 家族持ち家(一戸建て)
- ☐ 2 借家(一戸建て)
- ☐ 3 借家(町営住宅)
- ☐ 4 借家(民間アパート)
- ☐ 5 親族宅
- ☐ 6 その他

住んでいる住宅 (単位:人)

1 家族持ち家(一戸建て)	134	67.7%
2 借家(一戸建て)	17	8.6%
3 借家(町営住宅)	22	11.1%
4 借家(民間アパート)	13	6.6%
5 親族宅	3	1.5%
6 その他	9	4.5%
合計	198	100.0%

地域との関わり

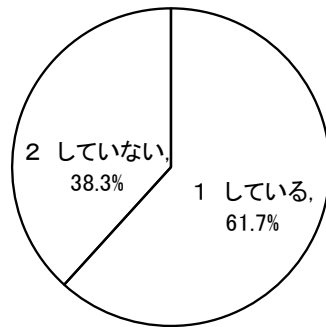


- ☐ 1 仲がよい人がいて、お互いの家をよく行き来する
- ☐ 2 会えば立ち話をする
- ☐ 3 顔を合わせれば挨拶をする
- ☐ 4 顔は知っているが声をかけるとはしない
- ☐ 5 ほとんど顔も知らないし、面倒なので付き合いたくない
- ☐ 6 その他

地域の人との付き合い (単位:人)

1 仲がよい人がいて、お互いの家をよく行き来する	57	29.2%
2 会えば立ち話をする	54	27.7%
3 顔を合わせれば挨拶をする	64	32.8%
4 顔は知っているが声をかけるとはしない	4	2.1%
5 ほとんど顔も知らないし、面倒なので付き合いたくない	4	2.1%
6 その他	12	6.1%
合計	195	100.0%

地域活動への参加



□1 している

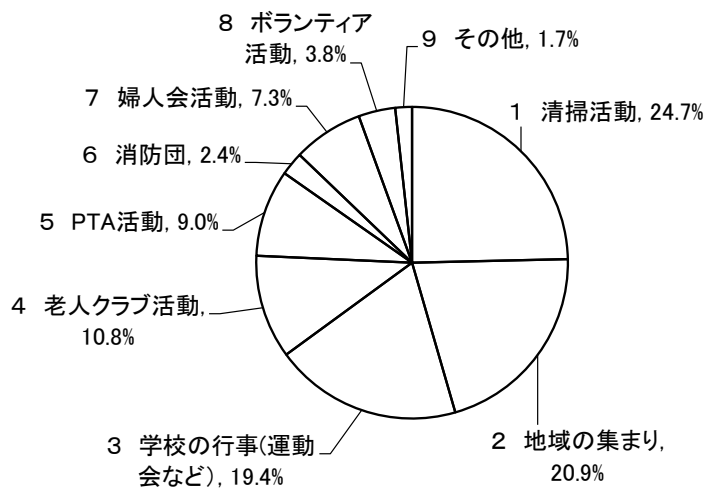
□2 していない

地域活動への参加

(単位: 人)

1 している	121	61.7%
2 していない	75	38.3%
合計	196	100.0%

地域活動への参加



□1 清掃活動

□2 地域の集まり

□3 学校の行事(運動会など)

□4 老人クラブ活動

□5 PTA活動

□6 消防団

□7 婦人会活動

□8 ボランティア活動

□9 その他

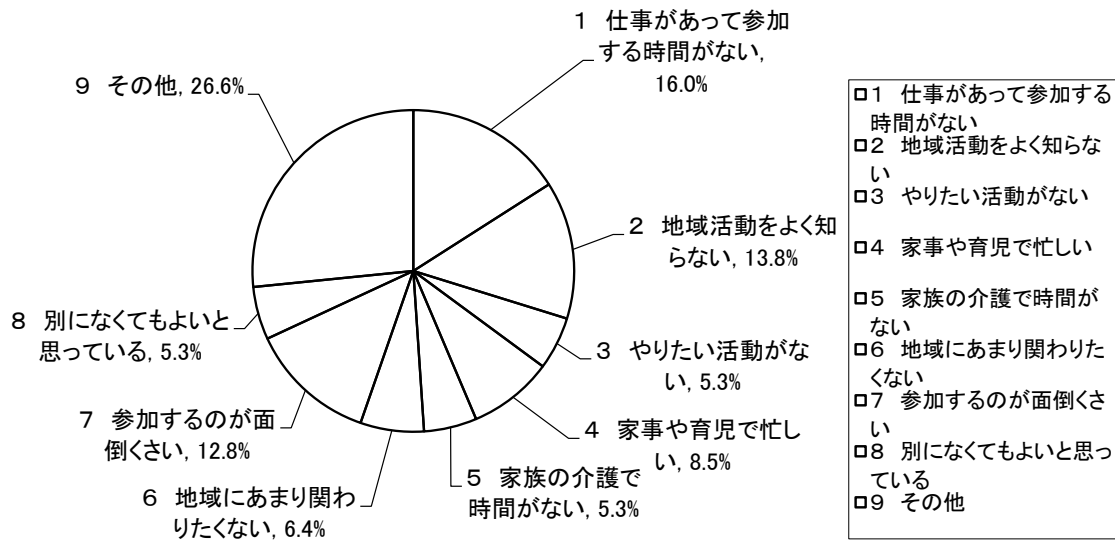
参加している活動(複数回答)

(していると答えた方のみ)

(単位: 人)

1 清掃活動	71	24.7%
2 地域の集まり	60	20.9%
3 学校の行事(運動会など)	56	19.4%
4 老人クラブ活動	31	10.8%
5 PTA活動	26	9.0%
6 消防団	7	2.4%
7 婦人会活動	21	7.3%
8 ボランティア活動	11	3.8%
9 その他	5	1.7%
合計	288	100.0%

地域活動への参加

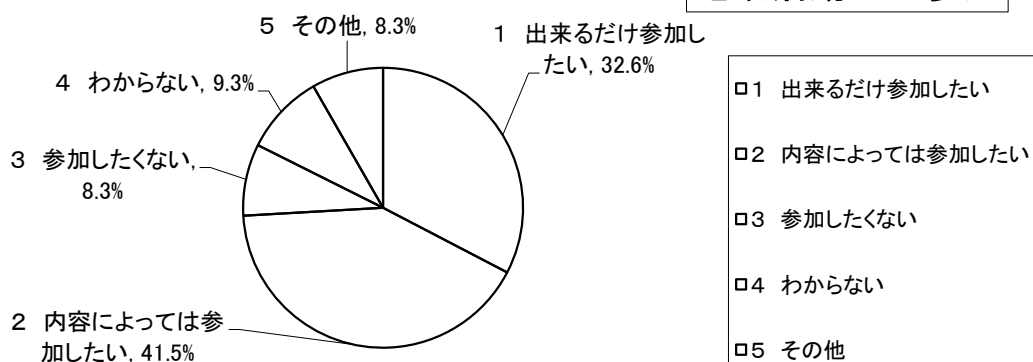


参加していない理由(複数回答)
 (していないと答えた方のみ)

(単位:人)

1 仕事があって参加する時間がない	15	16.0%
2 地域活動をよく知らない	13	13.8%
3 やりたい活動がない	5	5.3%
4 家事や育児で忙しい	8	8.5%
5 家族の介護で時間がない	5	5.3%
6 地域にあまり関わりたくない	6	6.4%
7 参加するのが面倒くさい	12	12.8%
8 別になくてもよいと思っている	5	5.3%
9 その他	25	26.6%
合計	94	100.0%

地域活動への参加

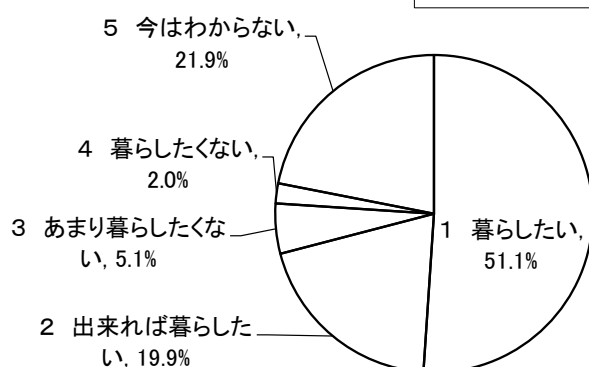


参加依頼が直接あった場合

(単位:人)

1 出来るだけ参加したい	63	32.6%
2 内容によっては参加したい	80	41.5%
3 参加したくない	16	8.3%
4 わからない	18	9.3%
5 その他	16	8.3%
合計	193	100.0%

現在住んでいる地域で暮していきたいか



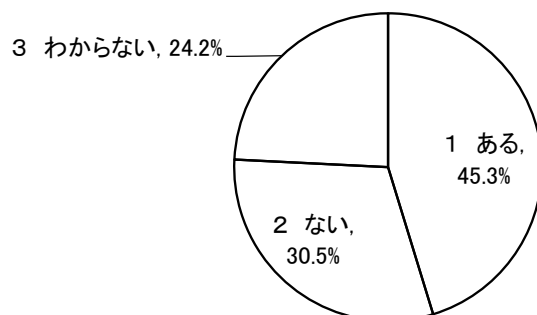
- ☐ 1 暮らしたい
- ☐ 2 出来れば暮らしたい
- ☐ 3 あまり暮らしたくない
- ☐ 4 暮らしたくない
- ☐ 5 今はわからない

将来も現在の地域(八丈)で暮らしていきたいと思いますか

(単位:人)

1 暮らしたい	100	51.1%
2 出来れば暮らしたい	39	19.9%
3 あまり暮らしたくない	10	5.1%
4 暮らしたくない	4	2.0%
5 今はわからない	43	21.9%
合計	196	100.0%

地域の支え合い



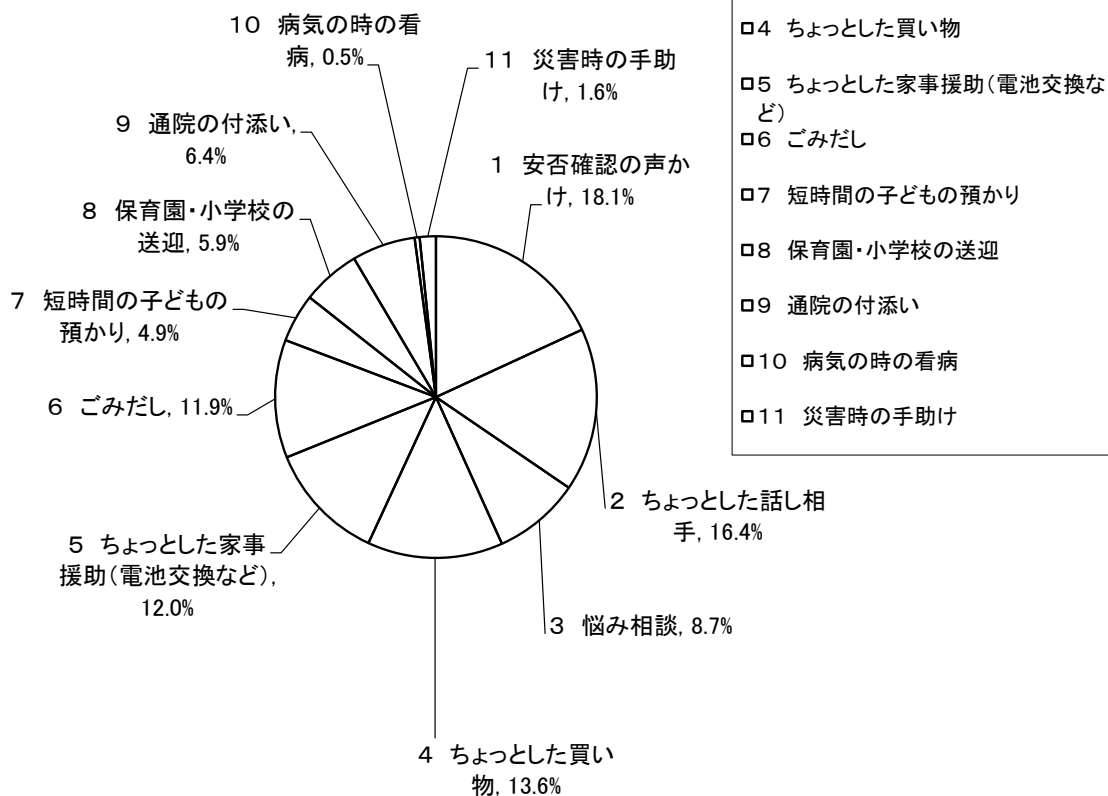
- ☐ 1 ある
- ☐ 2 ない
- ☐ 3 わからない

地域に支えられた(助けられた)と感じたことがあるか

(単位:人)

1 ある	86	45.3%
2 ない	58	30.5%
3 わからない	46	24.2%
合計	190	100.0%

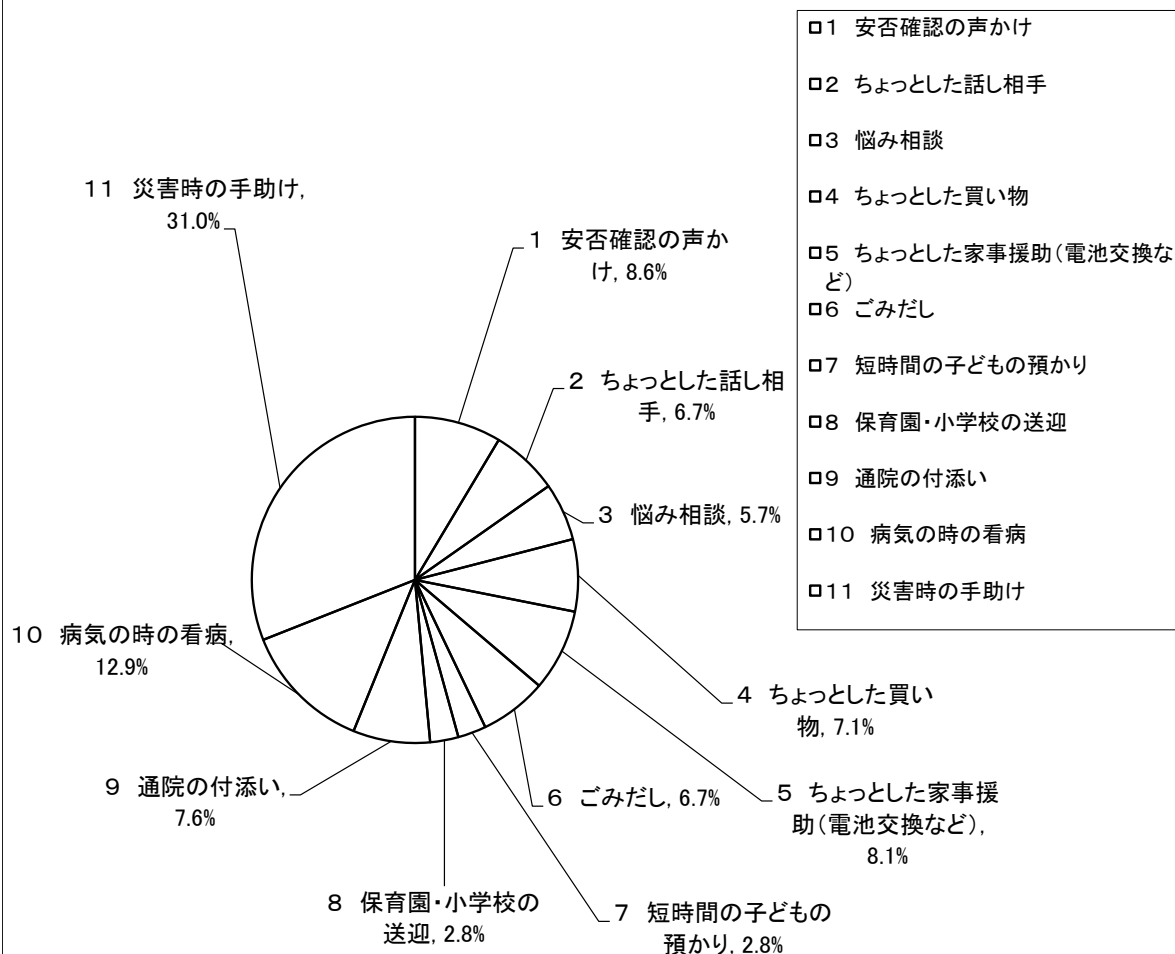
地域の支え合いについて



近所で困っている人にできることはありますか(複数回答) (単位:人)

1 安否確認の声かけ	145	18.1%
2 ちょっとした話し相手	132	16.4%
3 悩み相談	70	8.7%
4 ちょっとした買い物	109	13.6%
5 ちょっとした家事援助(電池交換など)	96	12.0%
6 ごみだし	95	11.9%
7 短時間の子どもの預かり	39	4.9%
8 保育園・小学校の送迎	47	5.9%
9 通院の付添い	51	6.4%
10 病気の時の看病	4	0.5%
11 災害時の手助け	13	1.6%
合計	801	100.0%

地域の支え合いについて

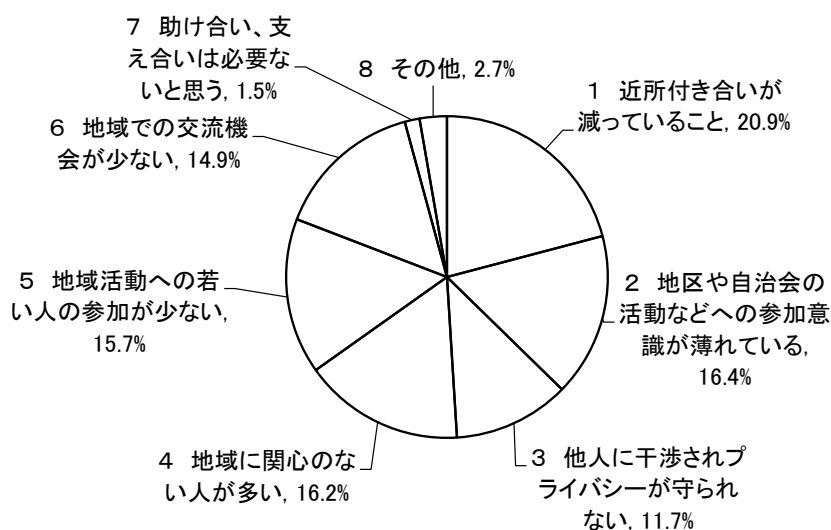


近所の人に手助けしてほしいこと(複数回答)
(将来的も含む)

(単位:人)

1 安否確認の声かけ	18	8.6%
2 ちょっとした話し相手	14	6.7%
3 悩み相談	12	5.7%
4 ちょっとした買い物	15	7.1%
5 ちょっとした家事援助(電池交換など)	17	8.1%
6 ごみだし	14	6.7%
7 短時間の子どもの預かり	6	2.8%
8 保育園・小学校の送迎	6	2.8%
9 通院の付添い	16	7.6%
10 病気の時の看病	27	12.9%
11 災害時の手助け	65	31.0%
合計	210	100.0%

住みよい地域社会を実現してくうえでの問題

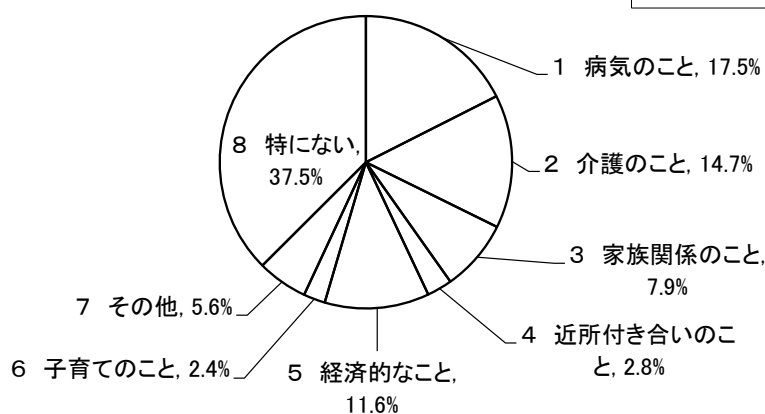


- ☐ 1 近所付き合いが減っていること
- ☐ 2 地区や自治会の活動などへの参加意識が薄れている
- ☐ 3 他人に干渉されプライバシーが守られない
- ☐ 4 地域に関心のない人が多い
- ☐ 5 地域活動への若い人の参加が少ない
- ☐ 6 地域での交流機会が少ない
- ☐ 7 助け合い、支え合いは必要ないと思う
- ☐ 8 その他

住みよい地域社会を実現してくうえでの問題となること(複数回答) (単位:人)

1 近所付き合いが減っていること	84	20.9%
2 地区や自治会の活動などへの参加意識が薄れている	66	16.4%
3 他人に干渉されプライバシーが守られない	47	11.7%
4 地域に関心のない人が多い	65	16.2%
5 地域活動への若い人の参加が少ない	63	15.7%
6 地域での交流機会が少ない	60	14.9%
7 助け合い、支え合いは必要ないと思う	6	1.5%
8 その他	11	2.7%
合計	402	100.0%

日常生活で困っていること

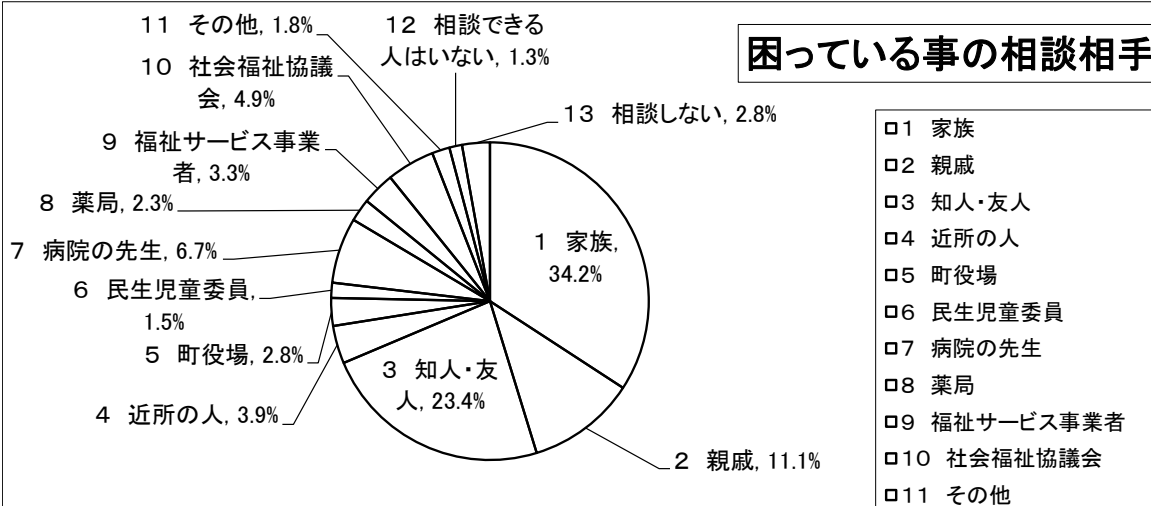


- ☐ 1 病気のこと
- ☐ 2 介護のこと
- ☐ 3 家族関係のこと
- ☐ 4 近所付き合いのこと
- ☐ 5 経済的なこと
- ☐ 6 子育てのこと
- ☐ 7 その他
- ☐ 8 特にない

日常生活で困っていること(複数回答) (単位:人)

1 病気のこと	44	17.5%
2 介護のこと	37	14.7%
3 家族関係のこと	20	7.9%
4 近所付き合いのこと	7	2.8%
5 経済的なこと	29	11.6%
6 子育てのこと	6	2.4%
7 その他	14	5.6%
8 特にない	94	37.5%
合計	251	100.0%

困っている事の相談相手



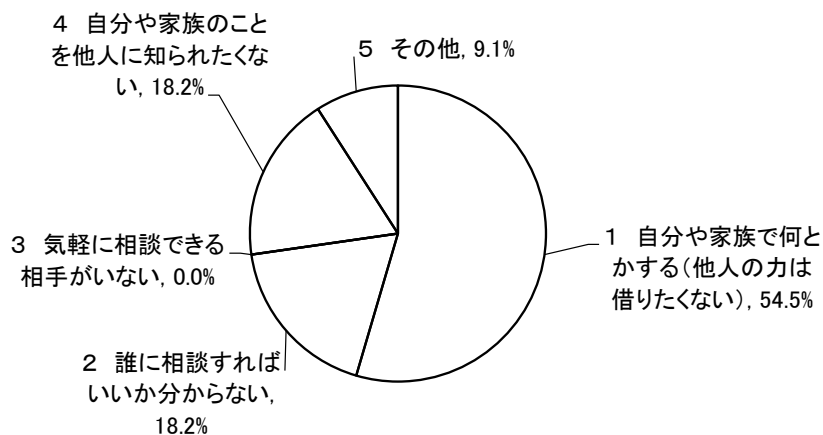
- ☐ 1 家族
- ☐ 2 親戚
- ☐ 3 知人・友人
- ☐ 4 近所の人
- ☐ 5 町役場
- ☐ 6 民生児童委員
- ☐ 7 病院の先生
- ☐ 8 薬局
- ☐ 9 福祉サービス事業者
- ☐ 10 社会福祉協議会
- ☐ 11 その他

日常生活で困っていることを誰に相談しているか、又は誰に相談したいか(複数回答)

(単位:人)

1 家族	133	34.2%
2 親戚	43	11.1%
3 知人・友人	91	23.4%
4 近所の人	15	3.9%
5 町役場	11	2.8%
6 民生児童委員	6	1.5%
7 病院の先生	26	6.7%
8 薬局	9	2.3%
9 福祉サービス事業者	13	3.3%
10 社会福祉協議会	19	4.9%
11 その他	7	1.8%
12 相談できる人はいない	5	1.3%
13 相談しない	11	2.8%
合計	389	100.0%

相談しない理由



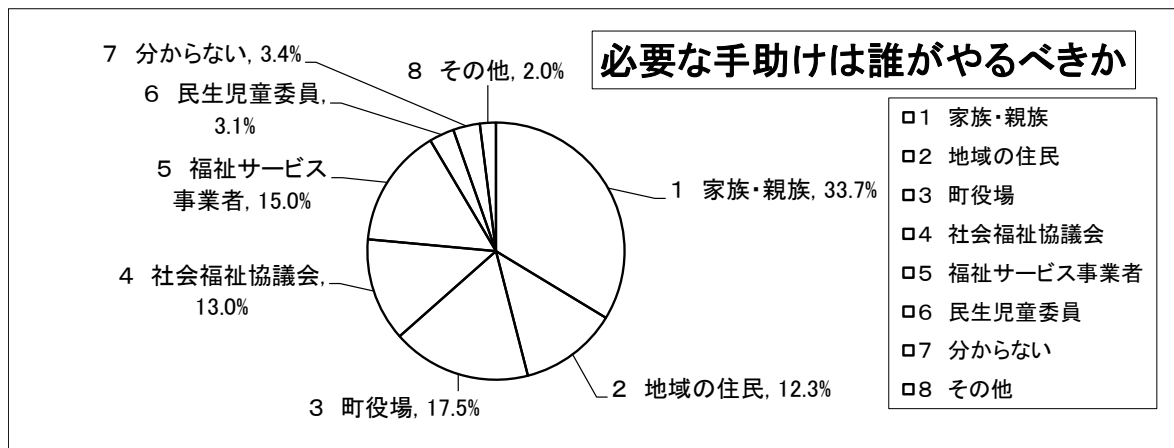
- ☐ 1 自分や家族で何とかする(他人の力は借りたくない)
- ☐ 2 誰に相談すればいいかわからない
- ☐ 3 気軽に相談できる相手がいない
- ☐ 4 自分や家族のことを他人に知られたくない
- ☐ 5 その他

相談しない理由

(相談しないと回答した方のみ)

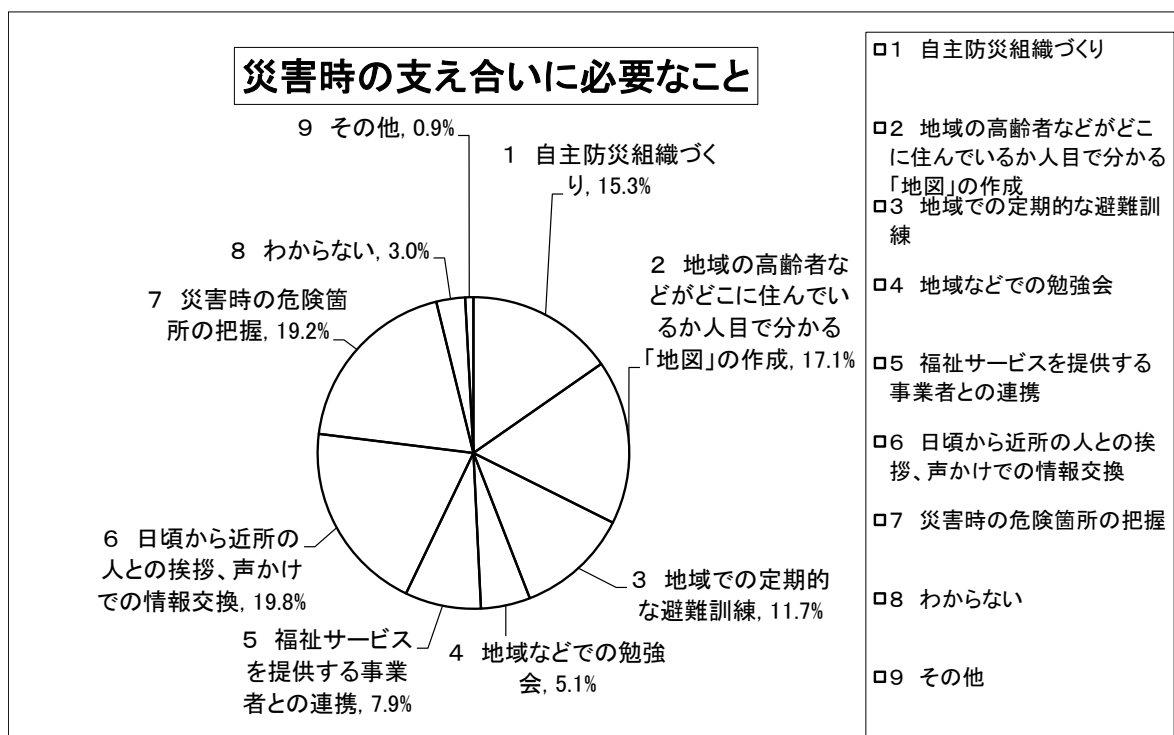
(単位:人)

1 自分や家族で何とかする(他人の力は借りたくない)	6	54.5%
2 誰に相談すればいいかわからない	2	18.2%
3 気軽に相談できる相手がいない	0	0.0%
4 自分や家族のことを他人に知られたくない	2	18.2%
5 その他	1	9.1%
合計	11	100.0%



必要な手助けは誰が行うべきか(3つまで回答)(単位:人)

1 家族・親族	150	33.7%
2 地域の住民	55	12.3%
3 町役場	78	17.5%
4 社会福祉協議会	58	13.0%
5 福祉サービス事業者	67	15.0%
6 民生児童委員	14	3.1%
7 分からない	15	3.4%
8 その他	9	2.0%
合計	446	100.0%

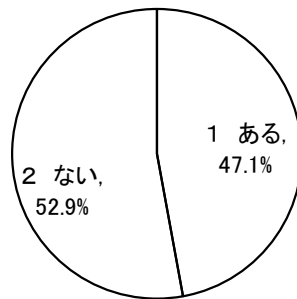


災害時に住民が支え合う地域づくりには何が必要か

(単位:人)

1 自主防災組織づくり	72	15.3%
2 地域の高齢者などがどこに住んでいるか人目で分かる「地図」の作成	80	17.1%
3 地域での定期的な避難訓練	55	11.7%
4 地域などでの勉強会	24	5.1%
5 福祉サービスを提供する事業者との連携	37	7.9%
6 日頃から近所の人との挨拶、声かけでの情報交換	93	19.8%
7 災害時の危険箇所の把握	90	19.2%
8 わからない	14	3.0%
9 その他	4	0.9%
合計	469	100.0%

ボランティア

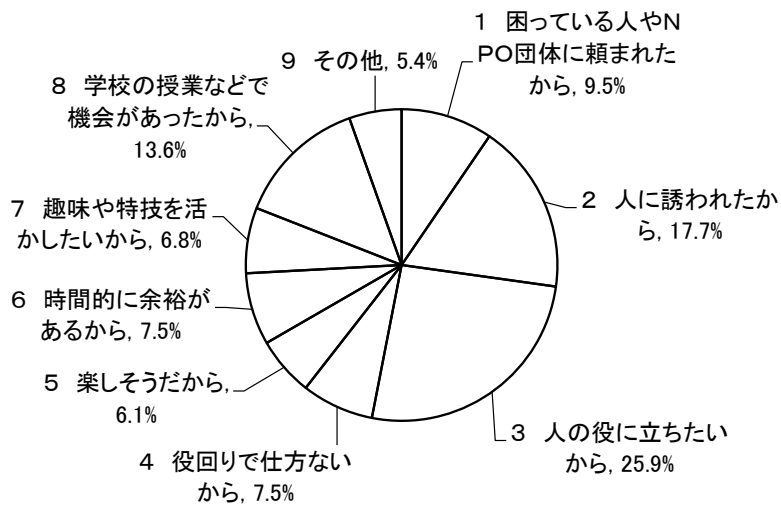


□1 ある □2 ない

ボランティア活動をしたことがあるか (単位: 人)

1 ある	90	47.1%
2 ない	101	52.9%
合計	191	100.0%

ボランティア

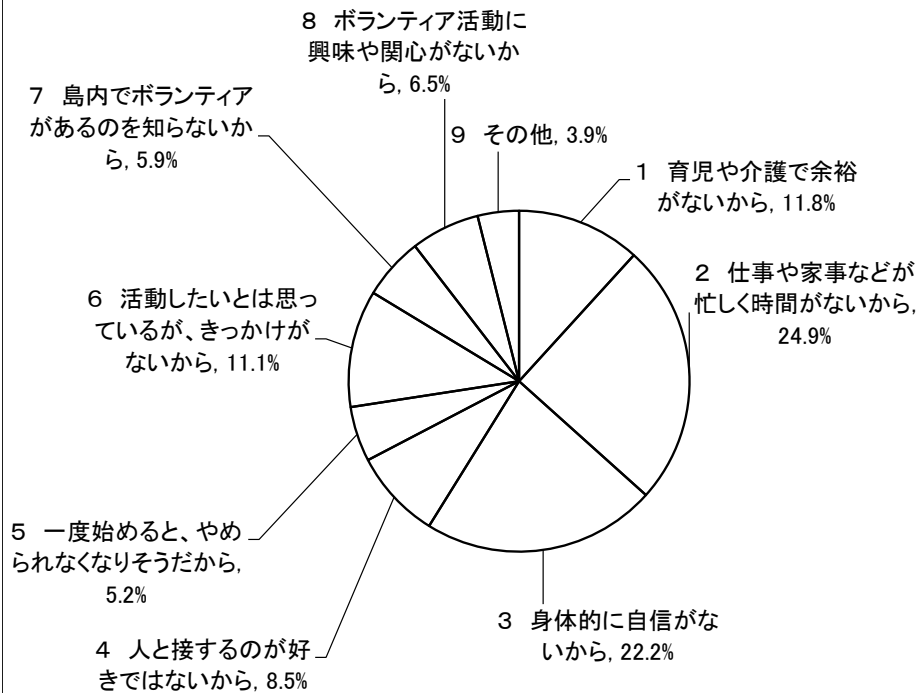


- 1 困っている人やNPO団体に頼まれたから
 □2 人に誘われたから
 □3 人の役に立ちたいから
 □4 役回りで仕方ないから
 □5 楽しそうだから
 □6 時間的に余裕があるから
 □7 趣味や特技を活かしたいから
 □8 学校の授業などで機会があったから
 □9 その他

参加したきっかけは何ですか(複数回答)
 (ボランティアをしたことがあると答えた方のみ) (単位: 人)

1 困っている人やNPO団体に頼まれたから	14	9.5%
2 人に誘われたから	26	17.7%
3 人の役に立ちたいから	38	25.9%
4 役回りで仕方ないから	11	7.5%
5 楽しそうだから	9	6.1%
6 時間的に余裕があるから	11	7.5%
7 趣味や特技を活かしたいから	10	6.8%
8 学校の授業などで機会があったから	20	13.6%
9 その他	8	5.4%
合計	147	100.0%

ボランティア



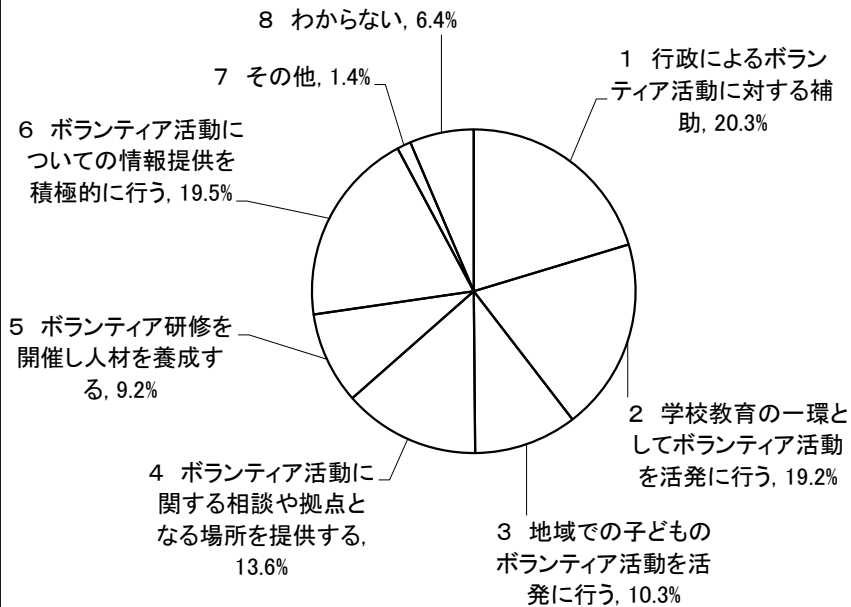
- ☐ 1 育児や介護で余裕がないから
- ☐ 2 仕事や家事などが忙しく時間がないから
- ☐ 3 身体的に自信がないから
- ☐ 4 人と接するのが好きではないから
- ☐ 5 一度始めると、やめられなくなりそうだから
- ☐ 6 活動したいとは思っているが、きっかけがないから
- ☐ 7 島内でボランティアがあるのを知らないから
- ☐ 8 ボランティア活動に興味や関心がないから
- ☐ 9 その他

参加したことがない理由は何ですか(複数回答)
(ボランティアをしたことがないと答えた方のみ)

(単位:人)

1 育児や介護で余裕がないから	18	11.8%
2 仕事や家事などが忙しく時間がないから	38	24.9%
3 身体的に自信がないから	34	22.2%
4 人と接するのが好きではないから	13	8.5%
5 一度始めると、やめられなくなりそうだから	8	5.2%
6 活動したいとは思っているが、きっかけがないから	17	11.1%
7 島内でボランティアがあるのを知らないから	9	5.9%
8 ボランティア活動に興味や関心がないから	10	6.5%
9 その他	6	3.9%
合計	153	100.0%

ボランティア

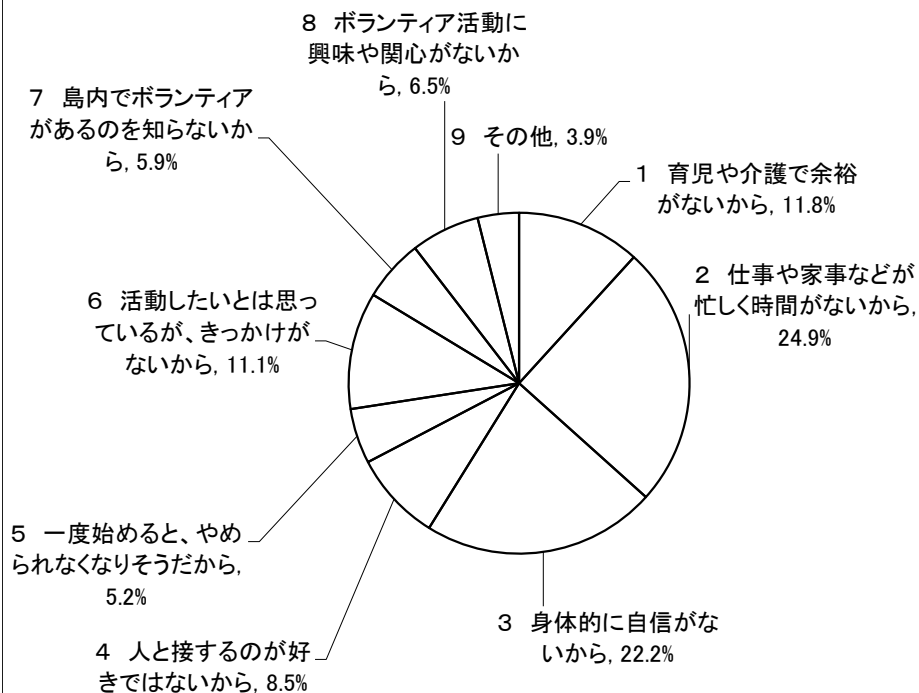


- ☐ 1 行政によるボランティア活動に対する補助
- ☐ 2 学校教育の一環としてボランティア活動を活発に行う
- ☐ 3 地域での子どものボランティア活動を活発に行う
- ☐ 4 ボランティア活動に関する相談や拠点となる場所を提供する
- ☐ 5 ボランティア研修を開催し人材を養成する
- ☐ 6 ボランティア活動についての情報提供を積極的に行う
- ☐ 7 その他
- ☐ 8 わからない

ボランティア活動を進めていくために、どのようなことが必要だと思いますか(3つまで回答) (単位:人)

1 行政によるボランティア活動に対する補助	73	20.3%
2 学校教育の一環としてボランティア活動を活発に行う	69	19.2%
3 地域での子どものボランティア活動を活発に行う	37	10.3%
4 ボランティア活動に関する相談や拠点となる場所を提供する	49	13.6%
5 ボランティア研修を開催し人材を養成する	33	9.2%
6 ボランティア活動についての情報提供を積極的に行う	70	19.5%
7 その他	5	1.4%
8 わからない	23	6.4%
合計	359	100.0%

ボランティア



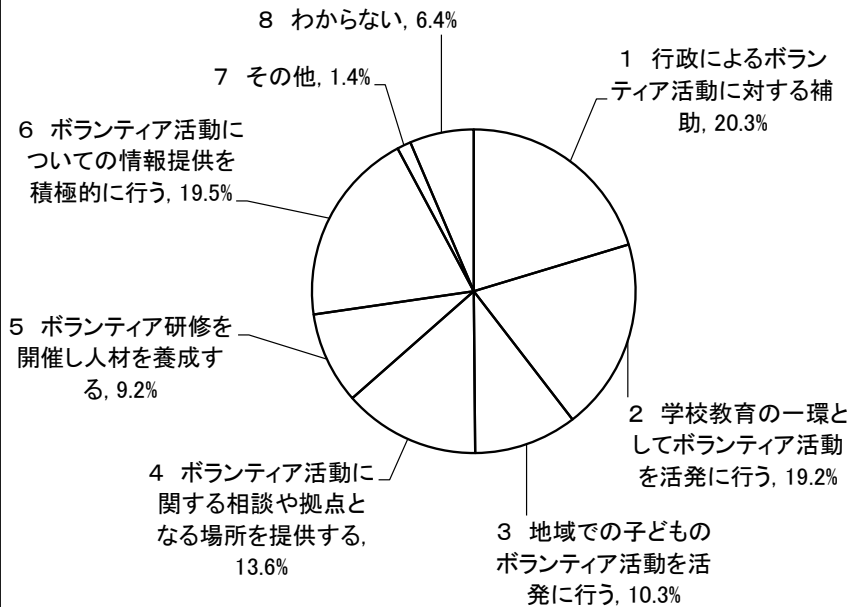
- ☐ 1 育児や介護で余裕がないから
- ☐ 2 仕事や家事などが忙しく時間がないから
- ☐ 3 身体的に自信がないから
- ☐ 4 人と接するのが好きではないから
- ☐ 5 一度始めると、やめられなくなりそうだから
- ☐ 6 活動したいとは思っているが、きっかけがないから
- ☐ 7 島内でボランティアがあるのを知らないから
- ☐ 8 ボランティア活動に興味や関心がないから
- ☐ 9 その他

参加したことがない理由は何ですか(複数回答)
(ボランティアをしたことがないと答えた方のみ)

(単位:人)

1 育児や介護で余裕がないから	18	11.8%
2 仕事や家事などが忙しく時間がないから	38	24.9%
3 身体的に自信がないから	34	22.2%
4 人と接するのが好きではないから	13	8.5%
5 一度始めると、やめられなくなりそうだから	8	5.2%
6 活動したいとは思っているが、きっかけがないから	17	11.1%
7 島内でボランティアがあるのを知らないから	9	5.9%
8 ボランティア活動に興味や関心がないから	10	6.5%
9 その他	6	3.9%
合計	153	100.0%

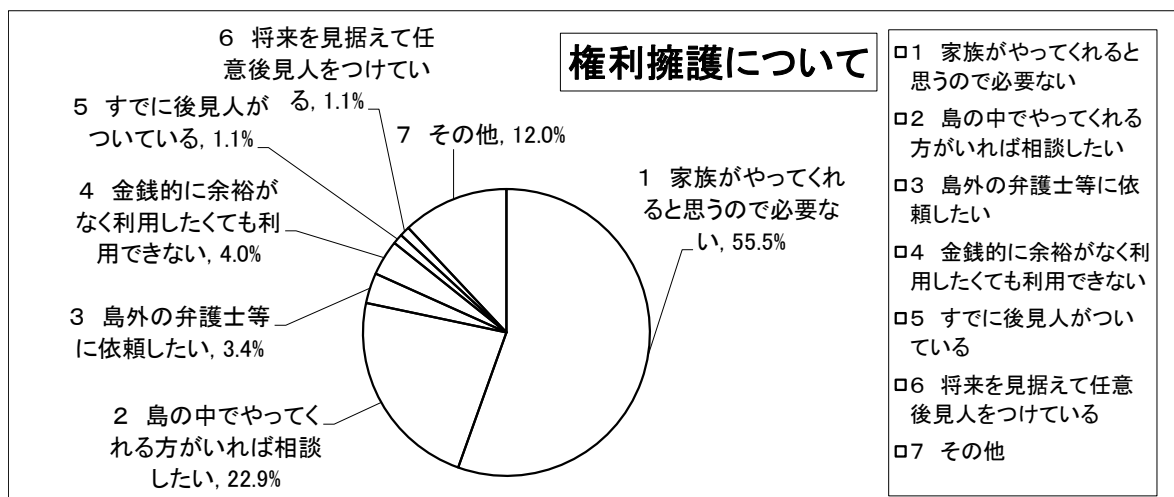
ボランティア



- ☐ 1 行政によるボランティア活動に対する補助
- ☐ 2 学校教育の一環としてボランティア活動を活発に行う
- ☐ 3 地域での子どものボランティア活動を活発に行う
- ☐ 4 ボランティア活動に関する相談や拠点となる場所を提供する
- ☐ 5 ボランティア研修を開催し人材を養成する
- ☐ 6 ボランティア活動についての情報提供を積極的に行う
- ☐ 7 その他
- ☐ 8 わからない

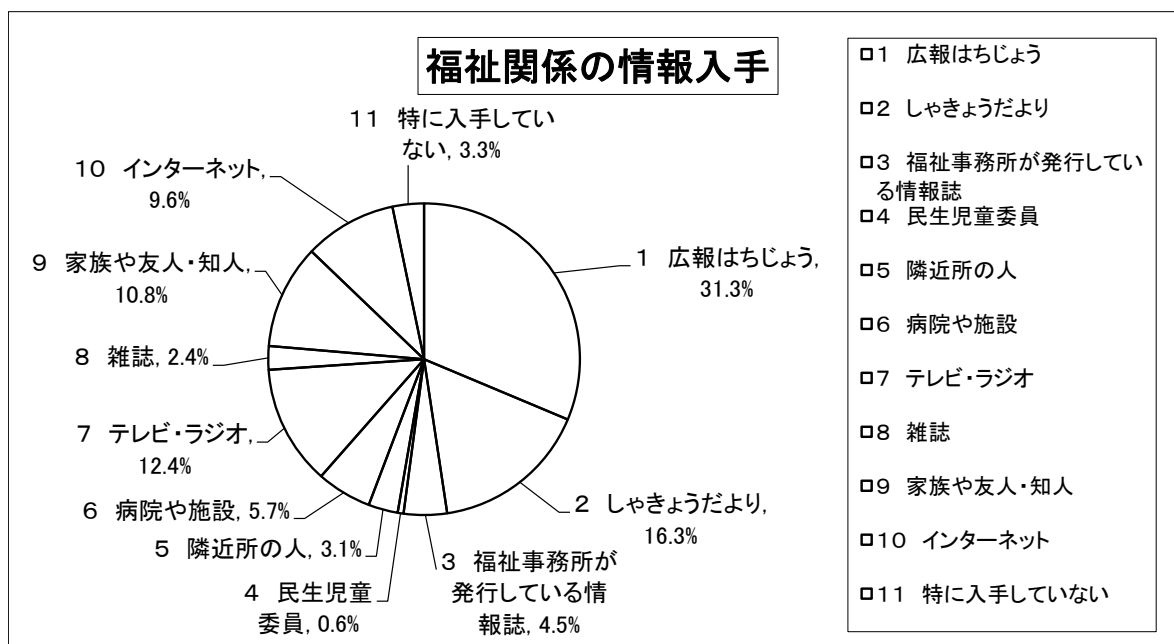
ボランティア活動を進めていくために、どのようなことが必要だと思いますか(3つまで回答) (単位:人)

1 行政によるボランティア活動に対する補助	73	20.3%
2 学校教育の一環としてボランティア活動を活発に行う	69	19.2%
3 地域での子どものボランティア活動を活発に行う	37	10.3%
4 ボランティア活動に関する相談や拠点となる場所を提供する	49	13.6%
5 ボランティア研修を開催し人材を養成する	33	9.2%
6 ボランティア活動についての情報提供を積極的に行う	70	19.5%
7 その他	5	1.4%
8 わからない	23	6.4%
合計	359	100.0%



成年後見人制度の利用について (単位: 人)

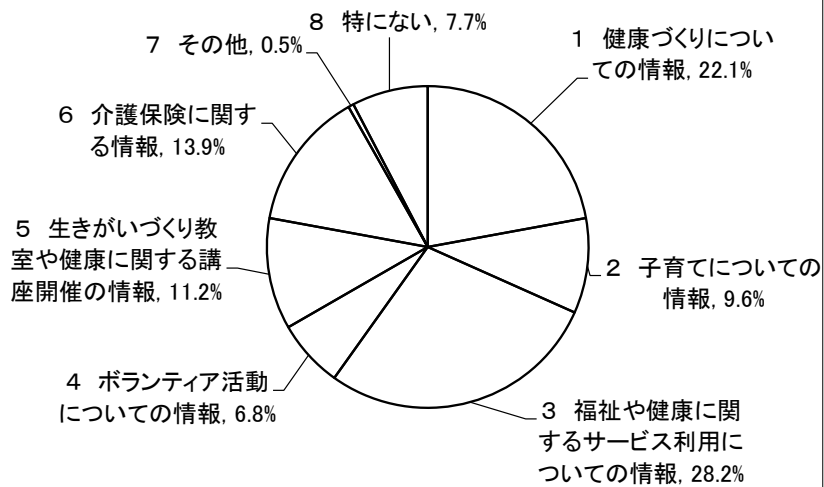
番号	内容	人数	割合
1	家族がやってくれると思うので必要ない	97	55.5%
2	島の中でやってくれる方がいれば相談したい	40	22.9%
3	島外の弁護士等に依頼したい	6	3.4%
4	金銭的に余裕がなく利用したくても利用できない	7	4.0%
5	すでに後見人がついている	2	1.1%
6	将来を見据えて任意後見人をつけている	2	1.1%
7	その他	21	12.0%
合計		175	100.0%



福祉や健康に関する情報を何から入手しているか(複数回答) (単位: 人)

番号	内容	人数	割合
1	広報はちじょう	154	31.3%
2	しゃきょうだより	80	16.3%
3	福祉事務所が発行している情報誌	22	4.5%
4	民生児童委員	3	0.6%
5	隣近所の人	15	3.1%
6	病院や施設	28	5.7%
7	テレビ・ラジオ	61	12.4%
8	雑誌	12	2.4%
9	家族や友人・知人	53	10.8%
10	インターネット	47	9.6%
11	特に入手していない	16	3.3%
合計		491	100.0%

どんな情報を知りたいか

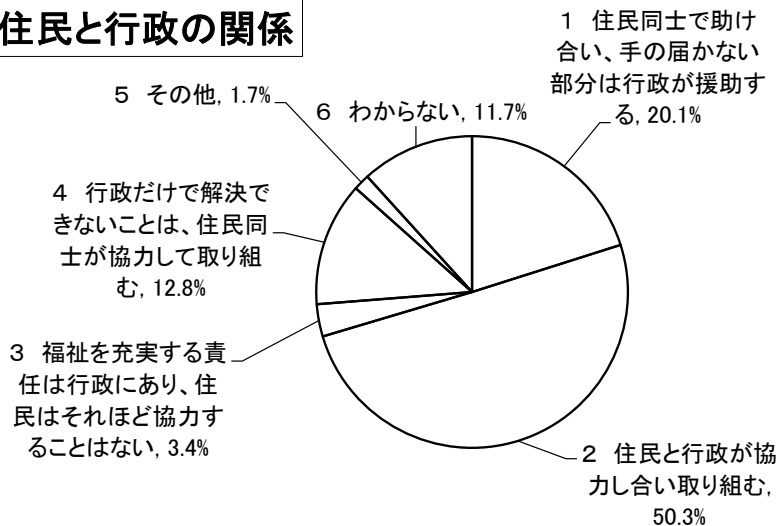


- ☐ 1 健康づくりについての情報
- ☐ 2 子育てについての情報
- ☐ 3 福祉や健康に関するサービス利用についての情報
- ☐ 4 ボランティア活動についての情報
- ☐ 5 生きがいづくり教室や健康に関する講座開催の情報
- ☐ 6 介護保険に関する情報
- ☐ 7 その他
- ☐ 8 特にない

福祉や健康についてどんな情報を知りたいか(複数回答) (単位:人)

1 健康づくりについての情報	81	22.1%
2 子育てについての情報	35	9.6%
3 福祉や健康に関するサービス利用についての情報	103	28.2%
4 ボランティア活動についての情報	25	6.8%
5 生きがいづくり教室や健康に関する講座開催の情報	41	11.2%
6 介護保険に関する情報	51	13.9%
7 その他	2	0.5%
8 特にない	28	7.7%
合計	366	100.0%

住民と行政の関係



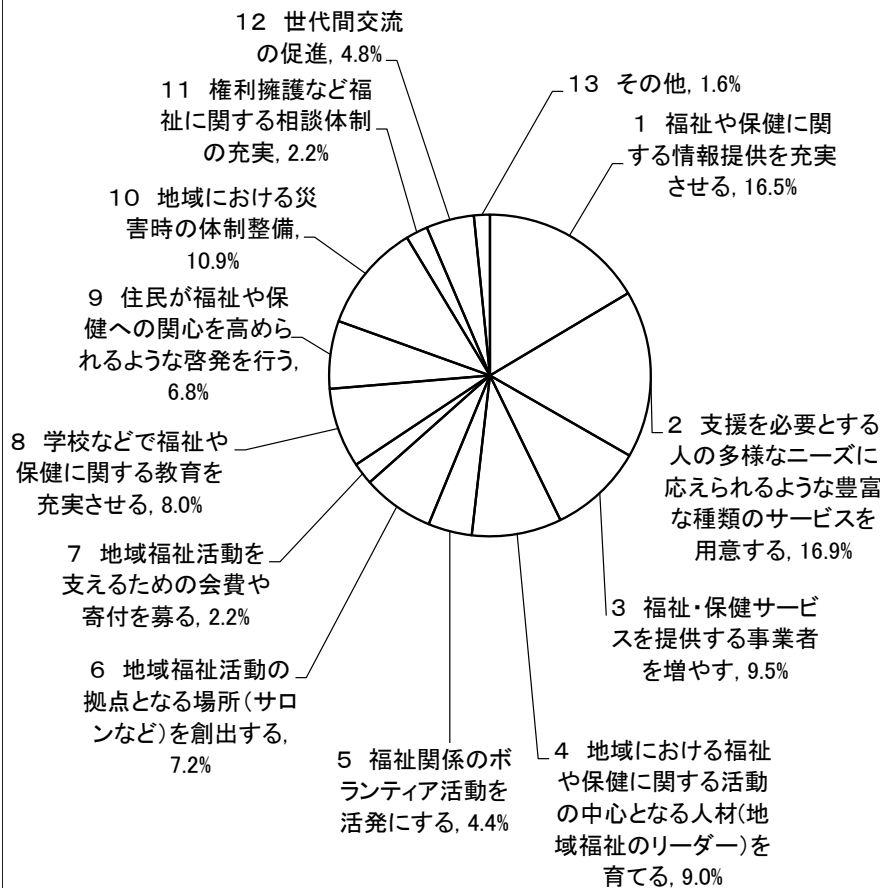
- ☐ 1 住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助する
- ☐ 2 住民と行政が協力し合い取り組む
- ☐ 3 福祉を充実する責任は行政にあり、住民はそれほど協力することはない
- ☐ 4 行政だけで解決できないことは、住民同士が協力して取り組む
- ☐ 5 その他
- ☐ 6 わからない

住民と行政との関係はどうあるべきか

(単位:人)

1 住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助する	36	20.1%
2 住民と行政が協力し合い取り組む	90	50.3%
3 福祉を充実する責任は行政にあり、住民はそれほど協力することはない	6	3.4%
4 行政だけで解決できないことは、住民同士が協力して取り組む	23	12.8%
5 その他	3	1.7%
6 わからない	21	11.7%
合計	179	100.0%

地域で安心して生活していくために必要なこと



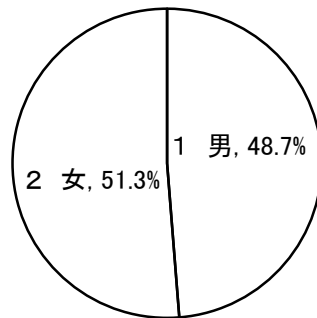
- ☐ 1 福祉や保健に関する情報提供を充実させる
- ☐ 2 支援を必要とする人の多様なニーズに応えられるような豊富な種類のサービスを用意する
- ☐ 3 福祉・保健サービスを提供する事業者を増やす
- ☐ 4 地域における福祉や保健に関する活動の中心となる人材(地域福祉のリーダー)を育てる
- ☐ 5 福祉関係のボランティア活動を活発にする
- ☐ 6 地域福祉活動の拠点となる場所(サロンなど)を創出する
- ☐ 7 地域福祉活動を支えるための会費や寄付を募る
- ☐ 8 学校などで福祉や保健に関する教育を充実させる
- ☐ 9 住民が福祉や保健への関心を高められるような啓発を行う
- ☐ 10 地域における災害時の体制整備
- ☐ 11 権利擁護など福祉に関する相談体制の充実
- ☐ 12 世代間交流の促進
- ☐ 13 その他

誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくために、どのようなことが必要だと思うか(3つまで回答) (単位:人)

1 福祉や保健に関する情報提供を充実させる	82	16.5%
2 支援を必要とする人の多様なニーズに応えられるような豊富な種類のサービスを用意する	84	16.9%
3 福祉・保健サービスを提供する事業者を増やす	47	9.5%
4 地域における福祉や保健に関する活動の中心となる人材(地域福祉のリーダー)を育てる	45	9.0%
5 福祉関係のボランティア活動を活発にする	22	4.4%
6 地域福祉活動の拠点となる場所(サロンなど)を創出する	36	7.2%
7 地域福祉活動を支えるための会費や寄付を募る	11	2.2%
8 学校などで福祉や保健に関する教育を充実させる	40	8.0%
9 住民が福祉や保健への関心を高められるような啓発を行う	34	6.8%
10 地域における災害時の体制整備	54	10.9%
11 権利擁護など福祉に関する相談体制の充実	11	2.2%
12 世代間交流の促進	24	4.8%
13 その他	8	1.6%
合計	498	100.0%

八丈町地域福祉計画アンケート結果(八丈高校生)

性別

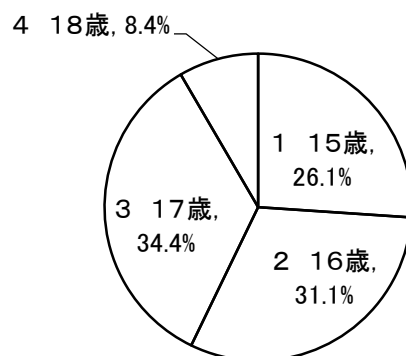


☐ 1 男 ☐ 2 女

性別 (単位: 人)

1 男	58	48.7%
2 女	61	51.3%
合計	119	100.0%

年齢



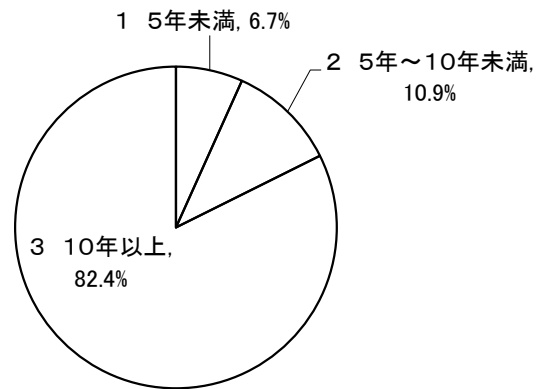
☐ 1 15歳 ☐ 2 16歳

☐ 3 17歳 ☐ 4 18歳

年齢 (単位: 人)

1 15歳	31	26.1%
2 16歳	37	31.1%
3 17歳	41	34.4%
4 18歳	10	8.4%
合計	119	100.0%

八丈町に住んでいる年数



☐ 1 5年未満

☐ 2 5年～10年未満

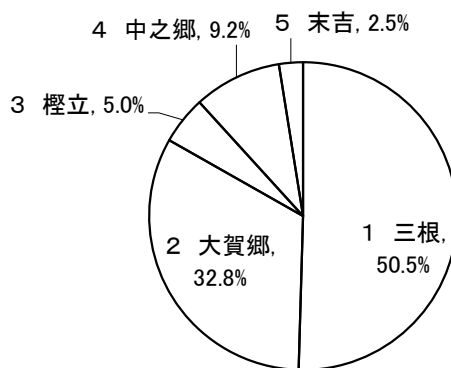
☐ 3 10年以上

八丈町に住んでいる年数

(単位:人)

1 5年未満	8	6.7%
2 5年～10年未満	13	10.9%
3 10年以上	98	82.4%
合計	119	100.0%

住んでいる地域



☐ 1 三根

☐ 2 大賀郷

☐ 3 樫立

☐ 4 中之郷

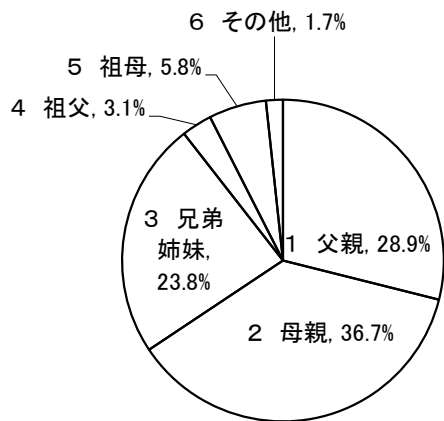
☐ 5 末吉

住んでいる地域

(単位:人)

1 三根	60	50.5%
2 大賀郷	39	32.8%
3 樫立	6	5.0%
4 中之郷	11	9.2%
5 末吉	3	2.5%
合計	119	100.0%

一緒に暮らしている方

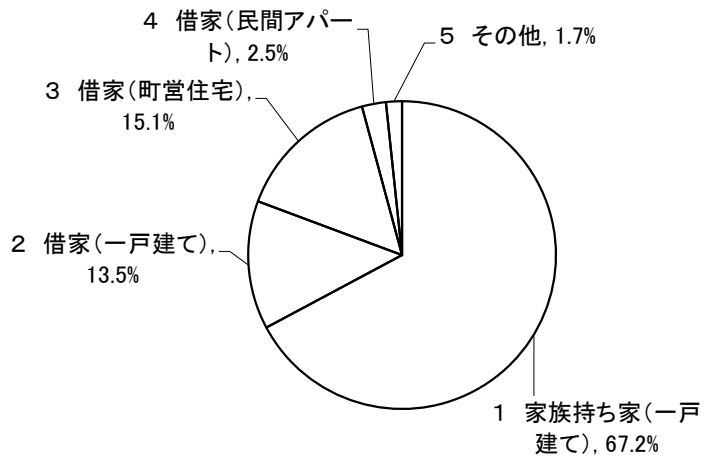


- ☐ 1 父親
- ☐ 2 母親
- ☐ 3 兄弟姉妹
- ☐ 4 祖父
- ☐ 5 祖母
- ☐ 6 その他

現在一緒に暮らしている方(複数回答) (単位:人)

1 父親	85	28.9%
2 母親	108	36.7%
3 兄弟姉妹	70	23.8%
4 祖父	9	3.1%
5 祖母	17	5.8%
6 その他	5	1.7%
合計	294	100.0%

住んでいる住宅

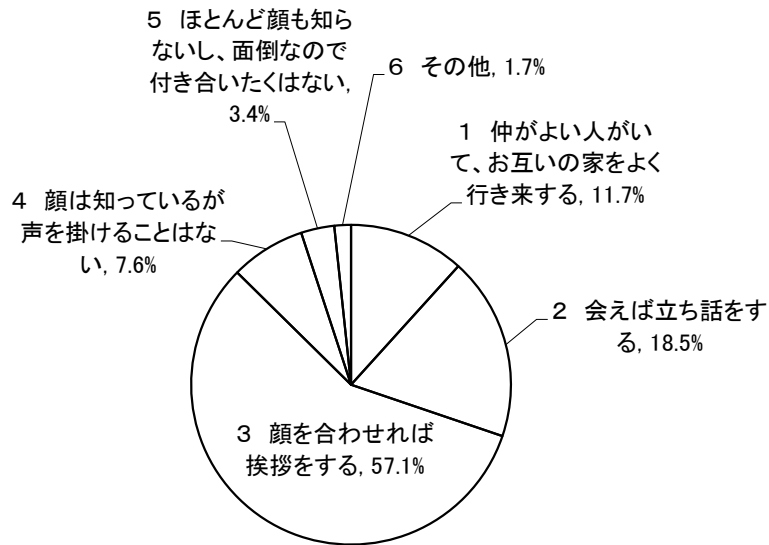


- ☐ 1 家族持ち家(一戸建て)
- ☐ 2 借家(一戸建て)
- ☐ 3 借家(町営住宅)
- ☐ 4 借家(民間アパート)
- ☐ 5 その他

住んでいる住宅 (単位:人)

1 家族持ち家(一戸建て)	80	67.2%
2 借家(一戸建て)	16	13.5%
3 借家(町営住宅)	18	15.1%
4 借家(民間アパート)	3	2.5%
5 その他	2	1.7%
合計	119	100.0%

地域との関わり



☐ 1 仲がよい人がいて、お互いの家をよく行き来する

☐ 2 会えば立ち話をする

☐ 3 顔を合わせれば挨拶をする

☐ 4 顔は知っているが声を掛けることはない

☐ 5 ほとんど顔も知らないし、面倒なので付き合いたくはない

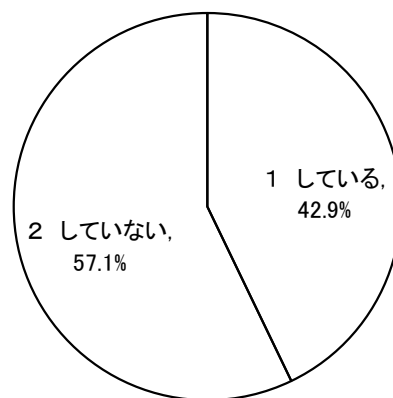
☐ 6 その他

地域の人との付き合い

(単位: 人)

1 仲がよい人がいて、お互いの家をよく行き来する	14	11.7%
2 会えば立ち話をする	22	18.5%
3 顔を合わせれば挨拶をする	68	57.1%
4 顔は知っているが声を掛けることはない	9	7.6%
5 ほとんど顔も知らないし、面倒なので付き合いたくはない	4	3.4%
6 その他	2	1.7%
合計	119	100.0%

地域活動への参加



☐ 1 している

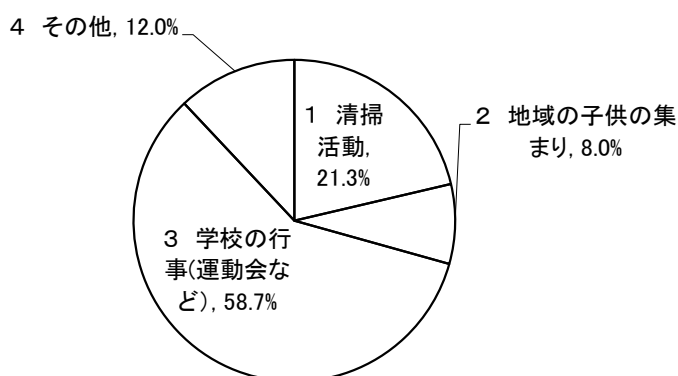
☐ 2 していない

地域活動への参加

(単位: 人)

1 している	51	42.9%
2 していない	68	57.1%
合計	119	100.0%

地域活動への参加



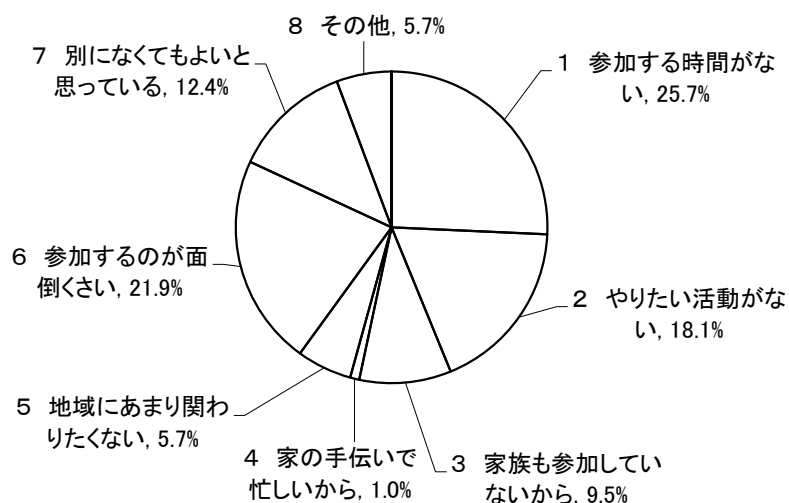
- ☐ 1 清掃活動
- ☐ 2 地域の子供の集まり
- ☐ 3 学校の行事(運動会など)
- ☐ 4 その他

参加している活動(複数回答)
(していると答えた方のみ)

(単位:人)

1 清掃活動	16	21.3%
2 地域の子供の集まり	6	8.0%
3 学校の行事(運動会など)	44	58.7%
4 その他	9	12.0%
合計	75	100.0%

地域活動への参加



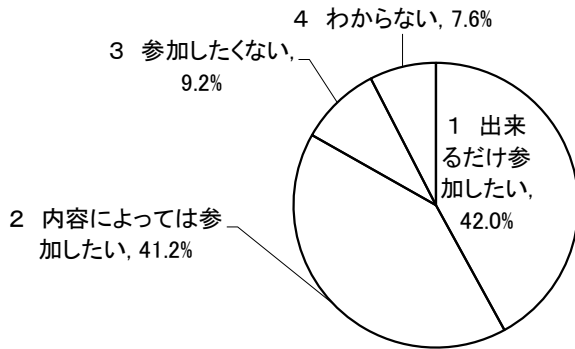
- ☐ 1 参加する時間がない
- ☐ 2 やりたい活動がない
- ☐ 3 家族も参加していないから
- ☐ 4 家の手伝いで忙しいから
- ☐ 5 地域にあまり関わりたくない
- ☐ 6 参加するのが面倒くさい
- ☐ 7 別になくてもよいと思っている
- ☐ 8 その他

参加していない理由(複数回答)
(していないと答えた方のみ)

(単位:人)

1 参加する時間がない	27	25.7%
2 やりたい活動がない	19	18.1%
3 家族も参加していないから	10	9.5%
4 家の手伝いで忙しいから	1	1.0%
5 地域にあまり関わりたくない	6	5.7%
6 参加するのが面倒くさい	23	21.9%
7 別になくてもよいと思っている	13	12.4%
8 その他	6	5.7%
合計	105	100.0%

地域活動への参加

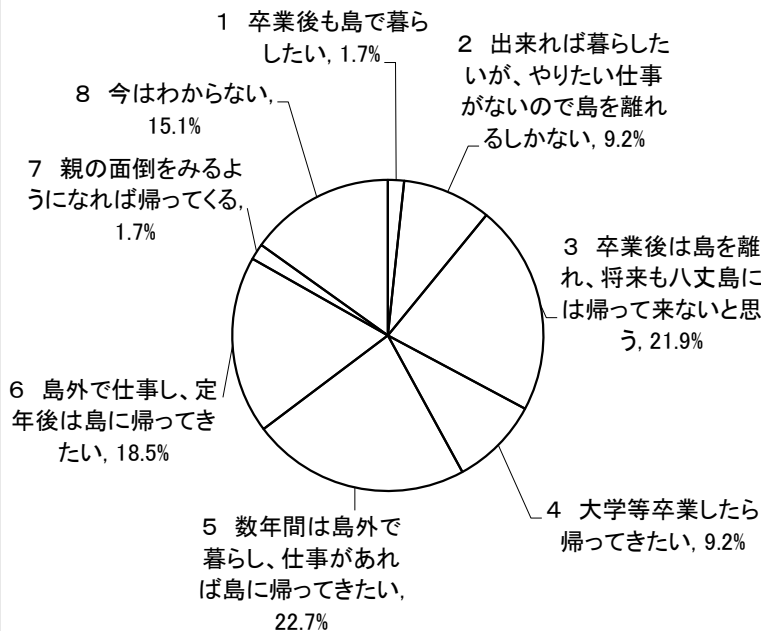


- ☐ 1 出来るだけ参加したい
- ☐ 2 内容によっては参加したい
- ☐ 3 参加したくない
- ☐ 4 わからない

参加依頼が直接あった場合 (単位: 人)

1 出来るだけ参加したい	50	42.0%
2 内容によっては参加したい	49	41.2%
3 参加したくない	11	9.2%
4 わからない	9	7.6%
合計	119	100.0%

将来の希望



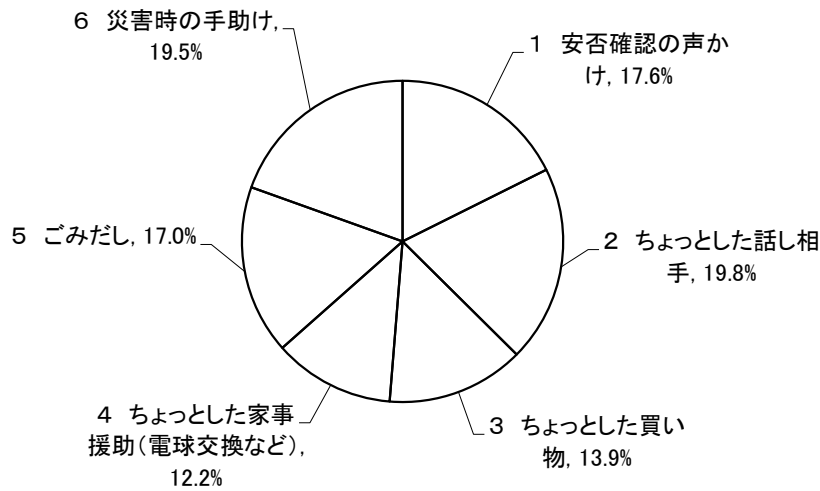
- ☐ 1 卒業後も島で暮らしたい
- ☐ 2 出来れば暮らしたいが、やりたい仕事がないので島を離れるしかない
- ☐ 3 卒業後は島を離れ、将来も八丈島には帰って来ないと思う
- ☐ 4 大学等卒業したら帰ってきたい
- ☐ 5 数年間は島外で暮らし、仕事があれば島に帰ってきたい
- ☐ 6 島外で仕事し、定年後は島に帰ってきたい
- ☐ 7 親の面倒をみるようになれば帰ってくる
- ☐ 8 今はわからない

将来も現在の地域(八丈)で暮らしていきたいと思いますか

(単位: 人)

1 卒業後も島で暮らしたい	2	1.7%
2 出来れば暮らしたいが、やりたい仕事がないので島を離れるしかない	11	9.2%
3 卒業後は島を離れ、将来も八丈島には帰って来ないと思う	26	21.9%
4 大学等卒業したら帰ってきたい	11	9.2%
5 数年間は島外で暮らし、仕事があれば島に帰ってきたい	27	22.7%
6 島外で仕事し、定年後は島に帰ってきたい	22	18.5%
7 親の面倒をみるようになれば帰ってくる	2	1.7%
8 今はわからない	18	15.1%
合計	119	100.0%

地域の支え合い

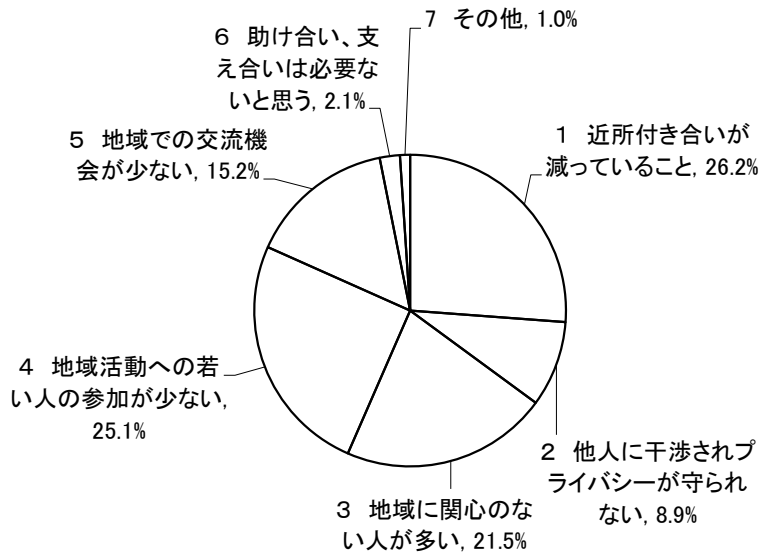


- 1 安否確認の声かけ
- 2 ちょっとした話し相手
- 3 ちょっとした買い物
- 4 ちょっとした家事援助(電球交換など)
- 5 ごみだし
- 6 災害時の手助け

近所で困っている人がいる場合、出来ることはありますか (単位:人)

1 安否確認の声かけ	84	17.6%
2 ちょっとした話し相手	94	19.8%
3 ちょっとした買い物	66	13.9%
4 ちょっとした家事援助(電球交換など)	58	12.2%
5 ごみだし	81	17.0%
6 災害時の手助け	93	19.5%
合計	476	100.0%

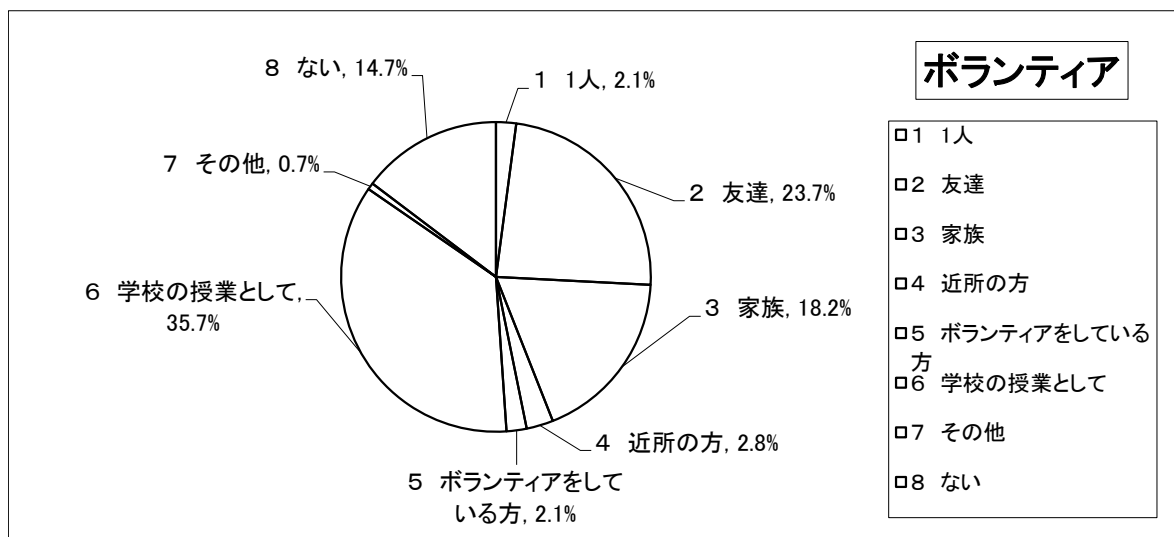
地域の支え合い



- 1 近所付き合いが減っていること
- 2 他人に干渉されプライバシーが守られない
- 3 地域に関心のない人が多い
- 4 地域活動への若い人の参加が少ない
- 5 地域での交流機会が少ない
- 6 助け合い、支え合いは必要ないと思う
- 7 その他

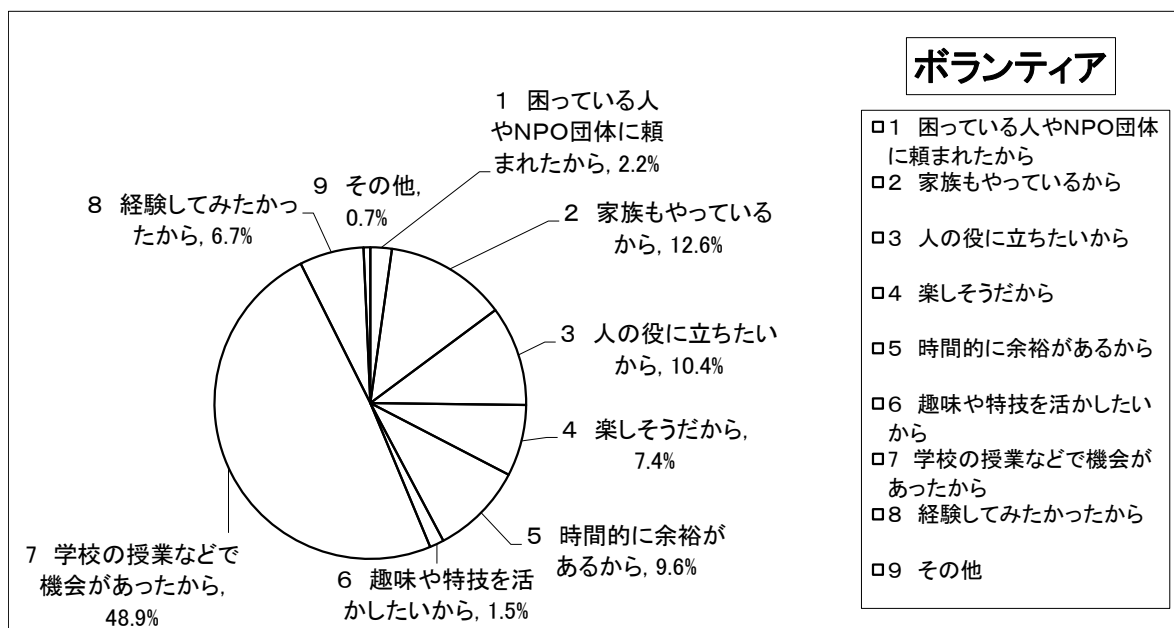
住みよい地域社会を実現していくうえで問題となること(複数回答) (単位:人)

1 近所付き合いが減っていること	50	26.2%
2 他人に干渉されプライバシーが守られない	17	8.9%
3 地域に関心のない人が多い	41	21.5%
4 地域活動への若い人の参加が少ない	48	25.1%
5 地域での交流機会が少ない	29	15.2%
6 助け合い、支え合いは必要ないと思う	4	2.1%
7 その他	2	1.0%
合計	191	100.0%



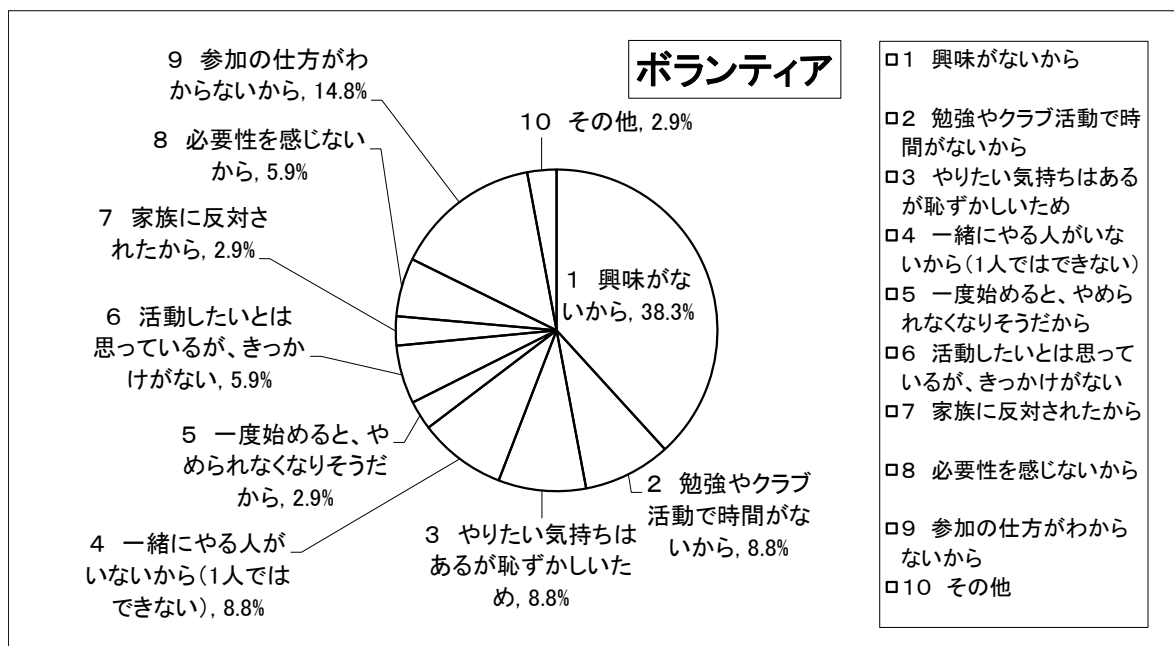
ボランティア活動をしたことがあるか(誰と参加したか) (単位: 人)

1 1人	3	2.1%
2 友達	34	23.7%
3 家族	26	18.2%
4 近所の方	4	2.8%
5 ボランティアをしている方	3	2.1%
6 学校の授業として	51	35.7%
7 その他	1	0.7%
8 ない	21	14.7%
合計	143	100.0%



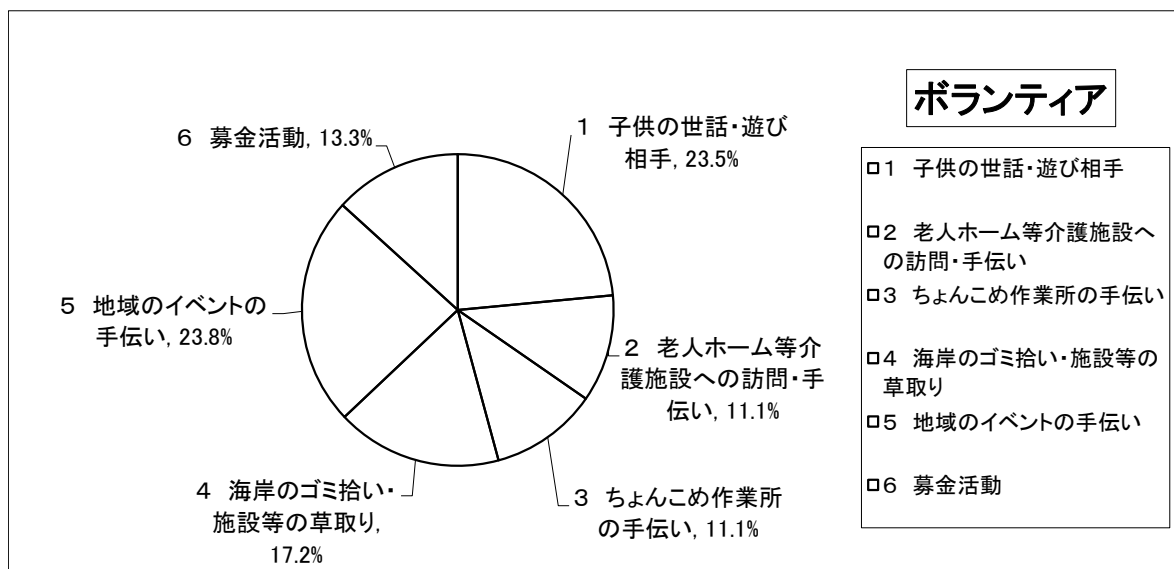
参加したきっかけは何ですか(複数回答) ボランティアをしたことがあると答えた方のみ (単位: 人)

1 困っている人やNPO団体に頼まれたから	3	2.2%
2 家族もやっているから	17	12.6%
3 人の役に立ちたいから	14	10.4%
4 楽しそうだから	10	7.4%
5 時間的に余裕があるから	13	9.6%
6 趣味や特技を活かしたいから	2	1.5%
7 学校の授業などで機会があったから	66	48.9%
8 経験してみたかったから	9	6.7%
9 その他	1	0.7%
合計	135	100.0%



参加したことがない理由(3つまで回答) ボランティアをしたことがないと答えた方のみ (単位:人)

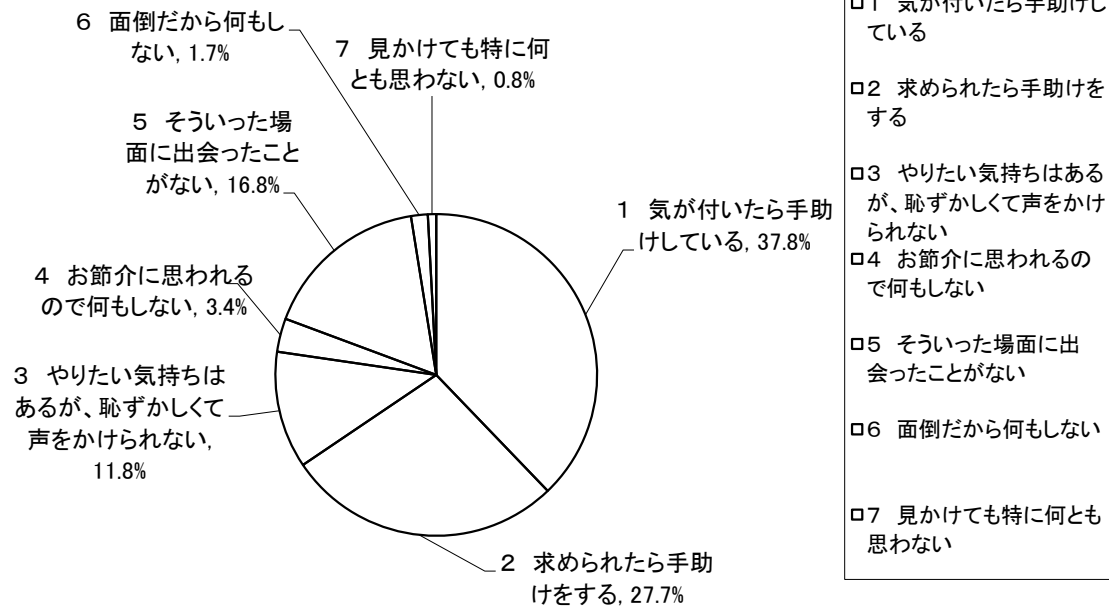
1 興味がないから	13	38.3%
2 勉強やクラブ活動で時間がないから	3	8.8%
3 やりたい気持ちはあるが恥ずかしいため	3	8.8%
4 一緒にやる人がいないから(1人ではできない)	3	8.8%
5 一度始めると、やめられなくなりそうだから	1	2.9%
6 活動したいとは思っているが、きっかけがない	2	5.9%
7 家族に反対されたから	1	2.9%
8 必要性を感じないから	2	5.9%
9 参加の仕方がわからないから	5	14.8%
10 その他	1	2.9%
合計	34	100.0%



やってみたい(やっている)ボランティア活動は何ですか (単位:人)

1 子供の世話・遊び相手	78	23.5%
2 老人ホーム等介護施設への訪問・手伝い	37	11.1%
3 ちょんこめ作業所の手伝い	37	11.1%
4 海岸のゴミ拾い・施設等の草取り	57	17.2%
5 地域のイベントの手伝い	79	23.8%
6 募金活動	44	13.3%
合計	332	100.0%

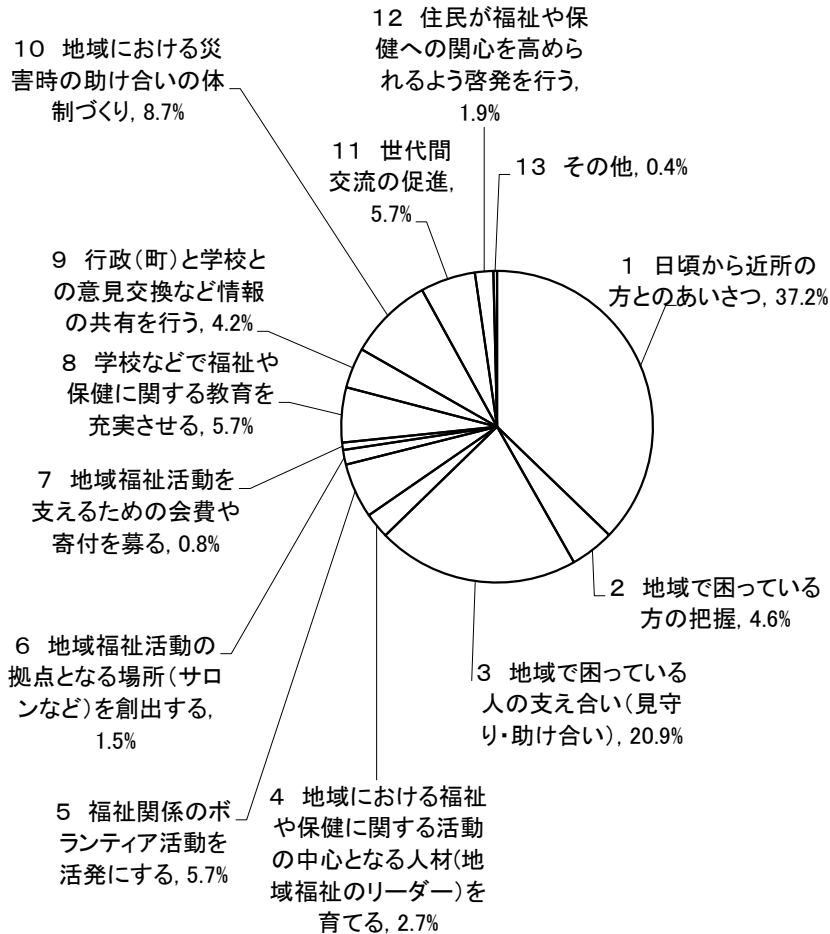
困っている人を見かけたらどうするか



普段、困っている人や手助けが必要な人を見かけた時どうしてますか (単位:人)

1 気が付いたら手助けしている	45	37.8%
2 求められたら手助けをする	33	27.7%
3 やりたい気持ちはあるが、恥ずかしくて声をかけられない	14	11.8%
4 お節介に思われるので何もしない	4	3.4%
5 そういった場面に出会ったことがない	20	16.8%
6 面倒だから何もしない	2	1.7%
7 見かけても特に何とも思わない	1	0.8%
合計	119	100.0%

住みなれた地域で安心して生活していくために必要なこと



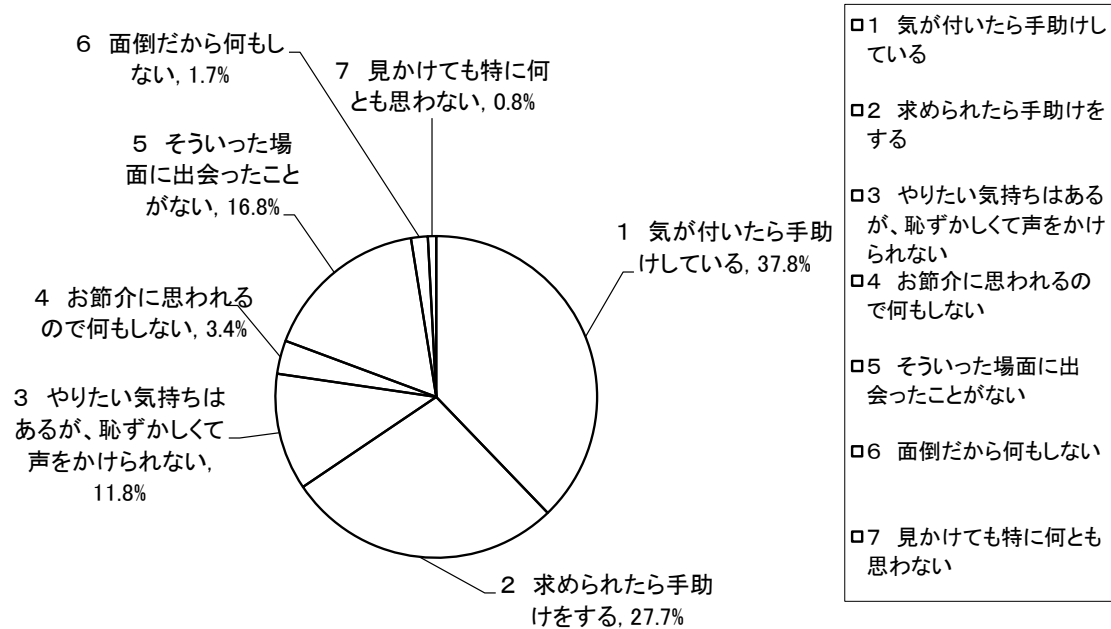
- 1 日頃から近所の方とのあいさつ
- 2 地域で困っている方の把握
- 3 地域で困っている人の支え合い(見守り・助け合い)
- 4 地域における福祉や保健に関する活動の中心となる人材(地域福祉のリーダー)を育てる
- 5 福祉関係のボランティア活動を活発にする
- 6 地域福祉活動の拠点となる場所(サロンなど)を創出する
- 7 地域福祉活動を支えるための会費や寄付を募る
- 8 学校などで福祉や保健に関する教育を充実させる
- 9 行政(町)と学校との意見交換など情報の共有を行う
- 10 地域における災害時の助け合いの体制づくり
- 11 世代間交流の促進
- 12 住民が福祉や保健への関心を高められるよう啓発を行う
- 13 その他

誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくためにどのようなことが必要だと思いますか。(思うもの3つまで○をしてください)

(単位:人)

1 日頃から近所の方とのあいさつ	98	37.2%
2 地域で困っている方の把握	12	4.6%
3 地域で困っている人の支え合い(見守り・助け合い)	55	20.9%
4 地域における福祉や保健に関する活動の中心となる人材(地域福祉のリーダー)を育てる	7	2.7%
5 福祉関係のボランティア活動を活発にする	15	5.7%
6 地域福祉活動の拠点となる場所(サロンなど)を創出する	4	1.5%
7 地域福祉活動を支えるための会費や寄付を募る	2	0.8%
8 学校などで福祉や保健に関する教育を充実させる	15	5.7%
9 行政(町)と学校との意見交換など情報の共有を行う	11	4.2%
10 地域における災害時の助け合いの体制づくり	23	8.7%
11 世代間交流の促進	15	5.7%
12 住民が福祉や保健への関心を高められるよう啓発を行う	5	1.9%
13 その他	1	0.4%
合計	263	100.0%

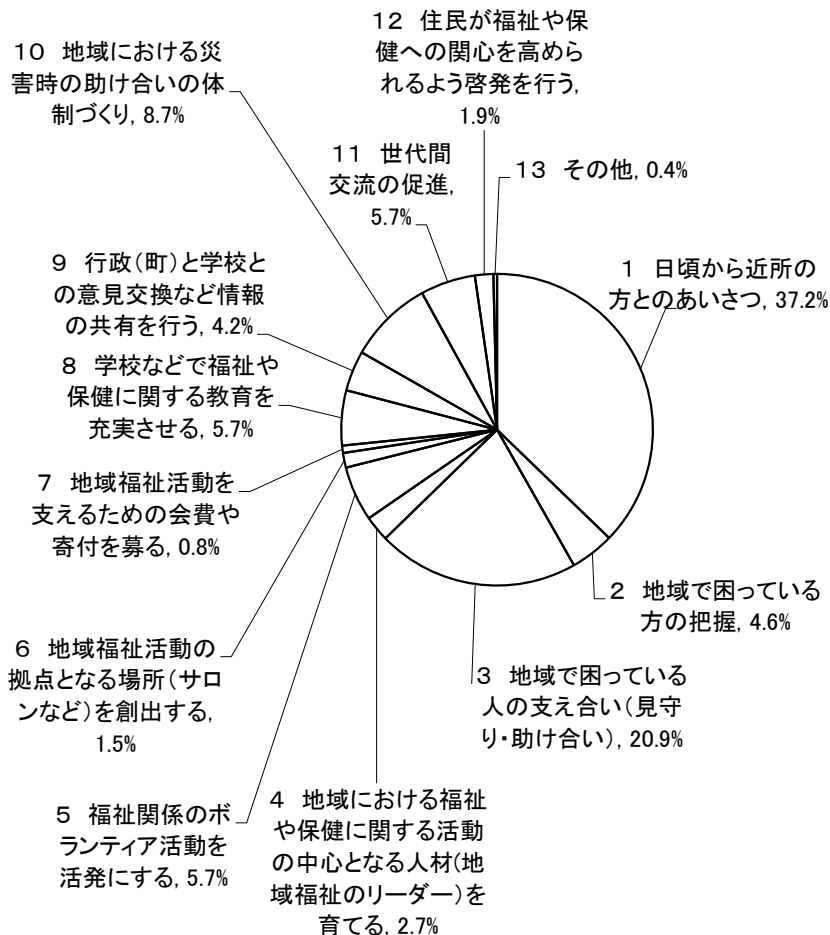
困っている人を見かけたらどうするか



普段、困っている人や手助けが必要な人を見かけた時どうしてますか (単位:人)

1 気が付いたら手助けしている	45	37.8%
2 求められたら手助けをする	33	27.7%
3 やりたい気持ちはあるが、恥ずかしくて声をかけられない	14	11.8%
4 お節介に思われるので何もしない	4	3.4%
5 そういった場面に出会ったことがない	20	16.8%
6 面倒だから何もしない	2	1.7%
7 見かけても特に何とも思わない	1	0.8%
合計	119	100.0%

住みなれた地域で安心して生活していくために必要なこと



- 1 日頃から近所の方とのあいさつ
- 2 地域で困っている方の把握
- 3 地域で困っている人の支え合い(見守り・助け合い)
- 4 地域における福祉や保健に関する活動の中心となる人材(地域福祉のリーダー)を育てる
- 5 福祉関係のボランティア活動を活発にする
- 6 地域福祉活動の拠点となる場所(サロンなど)を創出する
- 7 地域福祉活動を支えるための会費や寄付を募る
- 8 学校などで福祉や保健に関する教育を充実させる
- 9 行政(町)と学校との意見交換など情報の共有を行う
- 10 地域における災害時の助け合いの体制づくり
- 11 世代間交流の促進
- 12 住民が福祉や保健への関心を高められるよう啓発を行う
- 13 その他

誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくためにどのようなことが必要だと思いますか。(思うもの3つまで○をしてください)

(単位:人)

1 日頃から近所の方とのあいさつ	98	37.2%
2 地域で困っている方の把握	12	4.6%
3 地域で困っている人の支え合い(見守り・助け合い)	55	20.9%
4 地域における福祉や保健に関する活動の中心となる人材(地域福祉のリーダー)を育てる	7	2.7%
5 福祉関係のボランティア活動を活発にする	15	5.7%
6 地域福祉活動の拠点となる場所(サロンなど)を創出する	4	1.5%
7 地域福祉活動を支えるための会費や寄付を募る	2	0.8%
8 学校などで福祉や保健に関する教育を充実させる	15	5.7%
9 行政(町)と学校との意見交換など情報の共有を行う	11	4.2%
10 地域における災害時の助け合いの体制づくり	23	8.7%
11 世代間交流の促進	15	5.7%
12 住民が福祉や保健への関心を高められるよう啓発を行う	5	1.9%
13 その他	1	0.4%
合計	263	100.0%